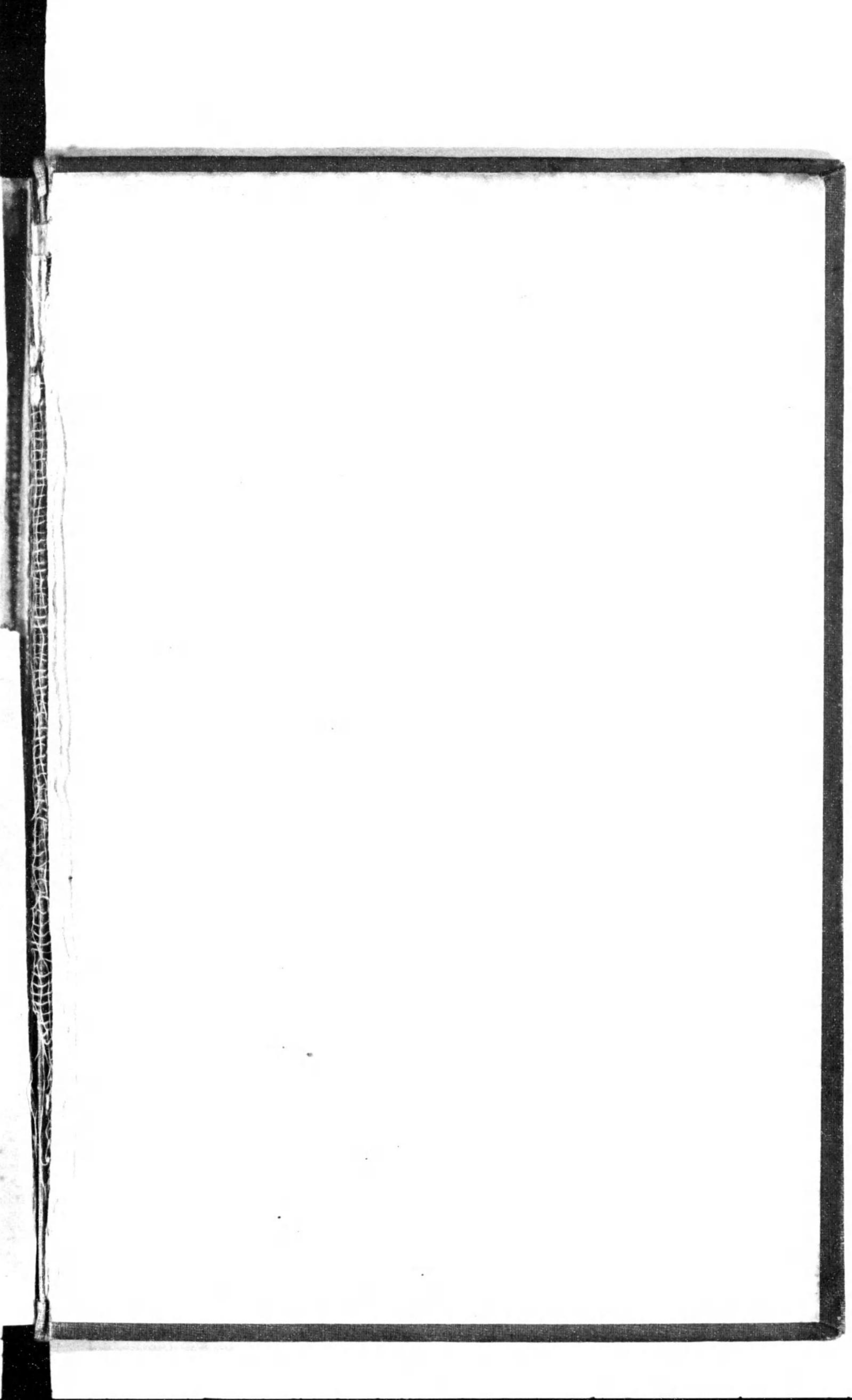
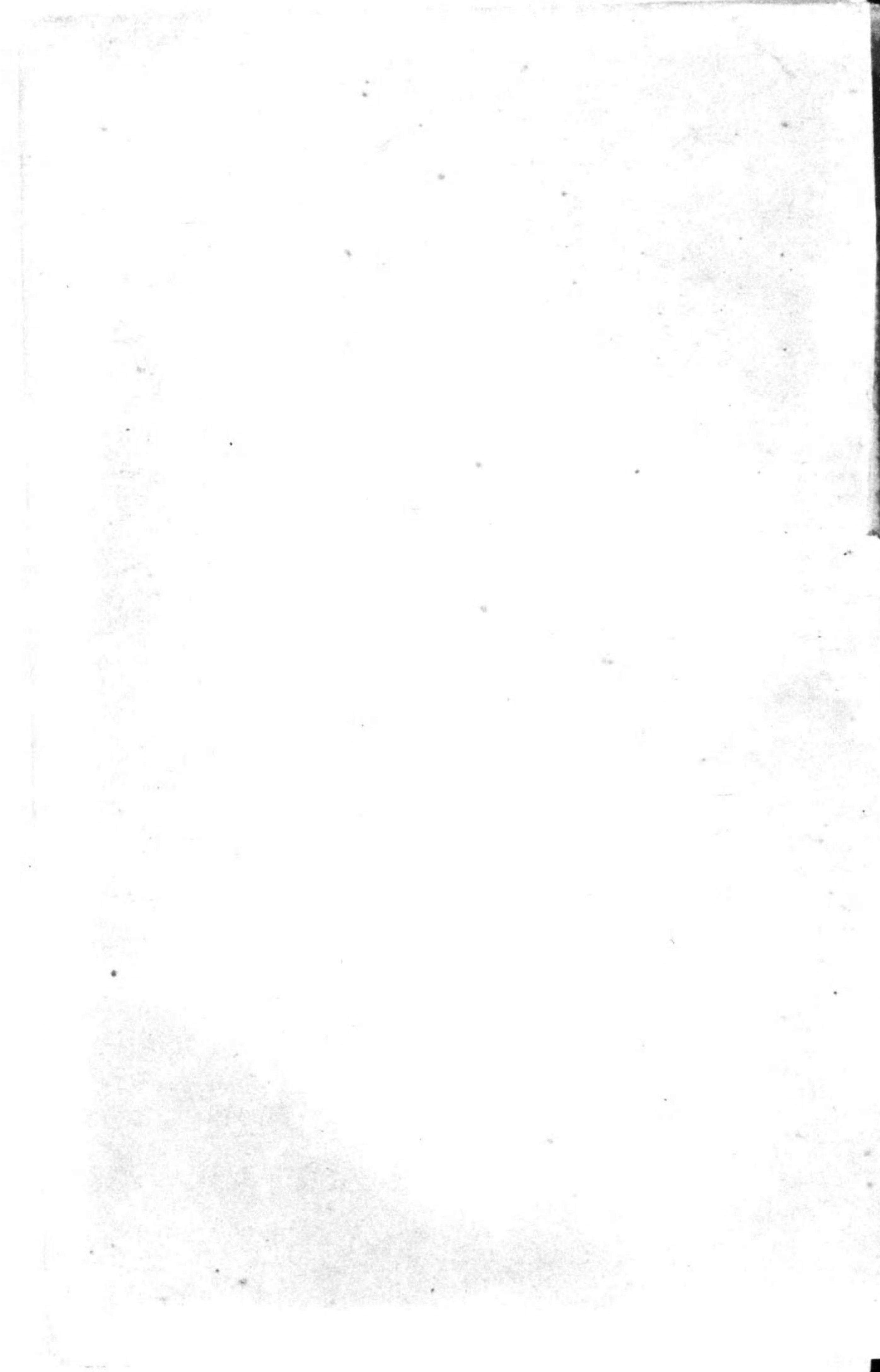


315
α
28



始





無産政黨の話

山川均著



千倉書房版

315  
28



### は し が き

一つの社會形態から他の社會形態への變化は、一つの階級から他の階級への政權の移轉を導びき入れると同時に、この政權の移轉によつて推進せられるものである。

ブルヂョア政黨の間の政争は、ブルヂョアジの内部における分派的利害の争ひであつて、その勝敗は、いづれのブルヂョア分派が直接にブルヂョアジの政權行使の局に當るかを決定する。それ故にブルヂョア政黨間の政争の結果は、同一階級の内部において、一つの分派から他の分派への政權の移轉を意味してゐるにすぎぬ。それはたゞ、ブルヂョアジの或る分派的利害が、他の分派的利害に打ち勝つたことを意味する

にすぎないものである。

これに反して、無産階級が政權を握ることは、政治權力が一つの階級から他の階級に移轉することを意味してゐる。それは社會形態の上に取りまた起らんとする根本的な變化と關聯してゐるものである。それ故に無産階級の政黨が発生し、成長することは、新たな政友會が、または新たな民政黨が、もう一つ樹立せられること、は、根本的に異つた歴史的社會的な意義を持つてゐる。この講話の目的は、かゝる意義をもつものとしての、またかゝる歴史的な方向を追ふてゐるものとしての無産政黨について、一般的な概念を與へることである。

私はまづ、各國において、無産政黨がどのようなにして生まれ、どのようにして成長したかを極く簡単に叙述し、次に、わが國における無産政

黨發達の徑路を、や、詳細に説明した。無産政黨發達の跡を語ることは無産政黨とは何ぞや？ といふ問に對して、大部分の答を與へるものだからである。最後に私は、これらの發達の跡から學ばれる若干の要點を、簡単に約説した。

第二の部分に比較的多くの紙數を費やしたために、遺憾ながら最初と最後の部分の記述は、豫定以上に切詰めることをよぎなくされた。

一九三一年八月

著 者

本書の執筆後に成立した三政黨の合同については、校正に當つて、終りの部分に多少の記述を附け加へておいた。

## 無産政黨の話 目次

### [I] 各國における無産政黨の發達

- (1) 第一インタナショナル ..... 三  
労働階級と政治運動——インタナショナルの先驅——インタナショナルの創立——第一  
インタナショナルの諸傾向——第一インタナショナルの發展と衰亡——第一インタナシ  
ヨナルの意義
- (2) 第二インタナショナル ..... 二二  
國民的政黨の發達——新インタナショナルの復活——第二インタナショナルの特徴
- (3) ドイツの社會民主黨 ..... 一五  
ラッサールの運動——アイゼナツハ派の運動——兩派の合同とドイツ社會労働黨の創立  
鎮壓令——エルフルト綱領——歐洲大戰と社會民主黨——その分裂——獨立社會民主黨  
の再分裂
- (4) イギリスの労働黨 ..... 二五

初期の政治運動——チャーターティスト運動——イギリス資本主義の黄金時代——轉換の時期——労働黨の成立——労働黨の發達……………

(5) ロシアの社會民主労働黨……………三四

ナロードニキの農民運動——最初のマルクス主義團體——社會民主労働黨の創立——イスラームの活動——大會と分裂、ボルシェヴィキとメンシェヴィキ——一九〇五年——合同の試み、決定的な分裂——三月革命と十一月革命……………

(6) フランスとアメリカの無産政黨……………四五

フランスの社會黨——アメリカの社會主義政黨……………

(7) 第二インタナショナルの崩解……………五三

戦前の社會主義政黨——歐洲大戰と第二インタナショナル……………

(8) 第三インタナショナルとその諸黨……………六〇

第三インタナショナルの創立——第三インタナショナルの確立と成長——各國の共產黨……………

(9) 労働黨および社會黨インタナショナル……………六八

## 〔II〕吾國の無産政黨は如何にして生れたか？

(1) 無産政黨以前——労働階級運動の出發……………七三

無産政黨の運動起原——明治維新と自由民権運動——自由民権運動の妥協とブルジョア急進分子の労働者運動——社會主義思想の輸入——資本主義經濟の確立とブルジョアジエの勃興——二つの戦役——近代的な労働階級の形成——労働組合運動の勃興——組合運動の凋落——十年の睡眠期——社會主義思想運動の發祥——この時期の特徴……………

(2) 無産政黨以前——社會主義運動の發展……………九四

社會民主黨の創立——日露戦争とわが國の資本主義——「平民社」運動とその思想——社會主義運動の一新時期——社會主義思想の最初の分化——日本社會黨——直接行動か議會政策か——日本社會黨第二回大會の問題、彈壓來る——社會主義運動における二分派の形成——嵐のあとの静寂——分派の發展……………

(3) 轉換の時代……………一三四

歐洲大戰とその影響——労働組合運動の勃興——社會主義同盟の創立——無政府主義と共產主義の對立——労働組合統一の運動、二大傾向の決戰的衝突——一步退却か一步前進か——XX主義勢力の結成——無産階級政治運動への機運——農民運動の勃興……………

(4) 無産政黨の創立……………一五〇

政治研究會とその活動——組合運動界の新機運——日本農民組合の進出——組合運動の戦線統一と全國労働組合協議會——労働總同盟の分裂と労働組合評議會の成立——地方政黨と地方協議會——無産政黨組織準備委員會の成立——左右兩翼の對立——決裂の危機——最初の無産政黨、農民労働黨の創立——第二次無産政黨、労働農民黨の成立

(5) 政黨分立の時代……………一八二

労働農民黨内の二つの方向——労働農民黨の分裂——社会民衆黨の創立——日本労働黨——日本農民黨——分裂主義の理論——合同の努力——共同闘争の失敗——最初の地方選挙戦——合同問題と四黨の態度——『合同劇』とその破綻——無産政黨の成長——普選による最初の總選挙——日本共産黨の大檢舉——労働農民黨の彈壓

(6) 政治戦線統一の進展……………二二九

新黨準備會から労働同盟へ——地方政黨の勃興——七黨合同の成立とその破綻——地方政黨の結束——新労働黨の創立——社会民衆黨の分裂——第二回選挙戦とその戦績——合同機運の擡頭——全國大衆黨の創立——解消論と労働黨の分裂——三黨合同の新機運——合同機運の展望

(7) 日本××黨……………二五五

労働黨否定の潮流——日本××黨——一般無産政黨と日本××黨——單一政黨主義

——左翼政黨主義——全無産政黨合同論——労働者農民政黨の否定

[III] 無産政黨とは何か？

(1) 無産階級の政治運動と無産政黨……………二六九

無産階級と政權の獲得——労働階級政治運動の發展——階級的な政治運動へ——労働階級政治運動の諸形態——労働階級の政黨——労働黨と社会黨——社会民主主義政黨——共產黨——前衛政黨と大衆政黨——前衛政黨と共同戦線政黨

(2) ブルジョア政治勢力と反ブルジョア政治勢力……………二九五

階級勢力は如何に配置せられてゐるか？——ブルジョア政權の確立——帝國主義ブルジョア階級——都市ブルジョア階級の下層——中間的な社会層——一般俸給生活者——自由業者——恩給受給者——中世的勢力、官僚および軍閥——都市のルンペン層——地主階級——自作農民——農業労働者としての小作農——自作兼小作農——ブルジョア政治勢力の構成——ファシスト政治勢力——プロレタリア——反ブルジョア政治勢力の構成

(3) 無産政黨の諸問題……………三三一

無産階級政治勢力の結成——無産政黨の構成要素——無産政黨とプロレタリア「頭脳部



分)——頭と胴體との結合の様式——大衆政黨としてのプロレタリア黨——最尖端部分の組織としてのプロレタリア黨——無産政黨の性質とその綱領——無産政黨の行動——無産政黨の組織——單一無産政黨とは何か？——共同戦線黨とは何か？

目次終

〔I〕 各國における無産政黨の發達

## (1) 第一インタナショナル

〔労働階級と政治運動〕 各國における無産階級の獨立した政治運動の流れ出た共同の貯水池ともいふべきものは、一八六四年に創立され、約十年の間存続した國際労働者協會であつた。この時から労働階級の國際的團體を指して「インタナショナル」と呼ぶようになったが、一八六四年の國際労働者協會は、労働階級の最初の國際的團結だつたから、第一インタナショナルと呼ばれてゐる。もちろん、ヨーロッパの労働者は、この時以前、すでに政治運動の舞臺に登場してゐた。一八四八年には、革命の烽火はまづフランスにあげられ、イタリーにも、ドイツにも、オストリーにも、ハンガリーにも、ヨーロッパのほとんども全土に燃え擴ろがつた。そしてこれらの國々の革命運動に最も活潑に参加したものは、労働階級であつた。かうしてヨーロッパの歴史には、無産階級革命の序幕が始まつたかようであつた。

しかし革命の波が退ぞいたあとには、到るところ、ブルジョアジーの力が一そう強よめられてゐた。或る處では、中世紀的支配がほとんど一掃され、他の國では、資本主義の發展が必要とした國民的國家の形成に一步を進めてゐた。労働者が街上に打ちのめされ、革命運動が無慈悲に壓伏されたあ

ともに、ヨーロッパのブルジョア階級はより多くの政治上の自由を持ち、資本の搾取と膨脹とを妨げてきた多くの中世紀的遺物の束縛から、大部分は解放されてきた。イギリスでは、一八三七—四四年に高潮に達したチャーティスト運動は、労働階級出身の指導者によつて指導された労働階級の運動であつた。けれどもそれにも拘らず、その結果は、ブルジョア階級の政治的地歩を鞏固にすることに終つた。一八七一年には、パリの労働階級は三ヶ月の間政權を掌握したが、こゝでもその結果は、ブルジョア階級の政權を確立したに過ぎなかつた。

かように一八四八年から一八七一年にいたるヨーロッパの不安と動搖とは、無産階級革命の序幕ではなくて、むしろブルジョア革命の大詰めであつた。労働階級は市街戦に動員され、政治の舞臺に登場した。けれどもそれは自分自身の役割を演ずるためではなくて、ブルジョア階級の役割を演ずるためであつた。かようにこの時代には、近代プロレタリアの独自の政治運動は、まだ生まれてなかつた。それは、ブルジョア階級の政權が確立せられた時、初めて生まるべきものであつた。

〔インタナショナルの先驅〕 しかしこの間にも、労働階級は、次第々々に、ブルジョア階級の利害と異つた自分自身の利害を見出した。さらに資本主義がヨーロッパの主要な部分にほゞ行き渡り、ブルジョア階級の政治的支配が確立せられると、経済的にも政治的にも、共通の立場におかれた近代労働階級の姿は、くつきりと浮き出してきた。経済的には、労働者は自國の資本家階級との間よりも

他國の労働階級との間に一そう緊密な利害の一致のあることを経験した。労働者が中世紀的な支配と闘つてゐた間は、自國のブルジョア階級はその戦友であつた。しかるにブルジョア階級の政治的支配が確立されるにつれ、各國の労働階級は、皆な一樣にブルジョア階級の政權と闘ふべき立場におかれてゐた。かうして最初はブルジョア階級のために動員され、そしてブルジョア階級の戦ひを闘つてゐた近代労働階級が、自分自身の獨立した政治上經濟上の利害を見出し、その闘争に獨立した目的を見出だすようになればなるほど、その運動は國際主義の精神によつて鼓吹せられるものとなつた。

かような國際主義の精神は、早くから、労働階級の運動を國際的に結びつけようとする試みとなつて現はれてゐた。

これらの最初の國際的な團結は、労働階級運動に固有な國際主義の精神の現はれではあるが、主として一八四八年の革命の失敗と反動時代の襲來のために亡命した革命家の集團であつて、實際に各國の労働大衆の運動を結合したものはなかつた。そして眞實に労働階級による國際的團結が初めて實現せられたのは、一八六四年の國際労働者協會の創立であつた。

〔インタナショナルの創立〕 國際労働者協會の生まれ出したロンドンのマルティンス・ホールの集會の直接の動機となつたものは、一八五〇年から六〇年代の労働争議にあたり、イギリスの資本家が大陸から罷業破りの労働者を輸入した苦がい経験から、イギリスの労働組合が、大陸諸國の労働者の間

に國際的團結の精神の宣傳につとめたこと、一八六二年にロンドンに開かれた萬國博覽會を機會として、英佛労働者の間に懇親の結ばれたこと、翌六三年、帝政ロシアの虐政に對して叛亂を起し、殘虐な鎮壓を蒙つたポーランド人のために起こした共同の抗議運動などであつた。

一八六四年九月二十八日のマルティンス・ホールの國際的な集會は、ポーランド人のために開かれた示威的集會の一つであつた。この集會において、労働者の國際的團體を組織することが、滿場一致をもつて決議され、國際労働者協會が創立された。この時以來、『インタナショナル』とは、労働階級の國際的團體を指す言葉となつた。そしてそれ以後のインタナショナルと區別するため、一八六四年に創立された國際労働者協會は、第一インタナショナルと呼ばれてゐる。

〔第一インタナショナルの諸傾向〕けれどもこの時なほヨーロッパ各國は、一樣に資本主義化されてはゐなかつた。従つて各國の労働階級も、階級としての一様な發展を遂げてはゐなかつた。ブルジョアジーは、或る處ではすでに確實に政權を握り、労働階級との政治的對立が明白になりかけてゐたにも拘らず、他の國では中産階級の革命がなほ完了されず、従つて中産階級は、多かれ少なかれ急進的な性質と氣分を保つてゐた。そして労働階級もまた、大部分、中産階級の急進主義から離脱してゐなかつた。そこで一八六四年の國際労働者協會には、かうした種々雜多な方向を代表する要素が集まつた。

當時、有力な労働組合運動の發達してゐたのはたゞイギリスであつて、イギリスの組合運動は、インタナショナルの主要な勢力であつた。けれどもロンドンの組合指導者は、舊式な労働組合運動の思想から一步も出てゐなかつた。當時彼らは、政治運動の必要に目醒めかけてゐた。けれどもその政治運動は、やゝもすればブルジョア急進主義の政治運動のうちに溶け去らうとした。

これに反して、ブルードンの空想的社會主義に支配されてゐたバリの労働者は、相互銀行や消費組合に労働階級解放の望みをかけ、同盟罷業をさへも否定する思想が有力であつた。と同時に、少數の精銳な革命家の集團による政權の奪取によつて労働者の解放を行はうとするブランキーの信奉者があつた。ドイツの労働者は、シユルツェ・デリツチの協同組合主義と、ラッサールの思想を持ち込んだ。しかるにイタリーのマヂニとその一派の思想は、純然たる小ブルジョア共和主義であつた。たゞこの間に、明確なプロレタリア社會主義の立場に立つて國際労働者協會の運動を指導しようとしたものは、マルクスおよびその周圍の極めて少數の人々であつた。

〔第一インタナショナルの發展と表裏〕第一インタナショナルの發展の歴史は、同時にマルクス主義の方向がその他の諸方向に打ち勝つて、國際労働階級運動の指導的な方向として確立せられる歴史でもあつた。國際労働者協會の準備委員會において、まづマヂニ派の思想はマルクス派の思想と對立してマルクス派の勝利となり、マヂニ派は協會から脱退した。

創立から一八六六年の第一回ジェネヴァ大会にいたる三年間は、国際労働者協会の創立時代であった。ローザンヌ(一八六七年)ブラッセル(一八六八年)の兩大會を経て、協會は急速に成長し、いよいよ無産階級の有力な國際的組織となり、支部は到るところに創立され、活潑な運動が行はれた。この時期はまた、ヨーロッパを通じて労働不安の時期であつて、到るところ大小の罷業が勃發したが、支配階級の目には、すべてこれらの動搖不安の裏面には、いたるところインタナショナルの魔の手が動いてゐるものと見えた。そしてインタナショナルの勢力の擴大と共に、各國における支配階級の彈壓が始まつた。かくて一八六九年のバーゼル大會は、インタナショナルの全盛期に開かれた。

ジェネヴァ大會からバーゼル大會にいたる三年間は、ブルードン派とマルクス派の對立の時代であつて、この二つの思想は、大會ごとに鋭く對立したが、ブラッセル大會において、ブルードン思想はすでに凋落し、バーゼル大會においては、マルクス派は決定的勝利を得た。ブラッセル大會では、土地、鑛山、交通機關の國有を可とする決議が、ブルードン派の猛烈な反對を押し切つて通過し、バーゼル大會では、集産主義への方向は一そう明確となつた。

ブルードン派が凋落すると、バーゼル大會直前にインタナショナルに這入つて來たバクニンの無政府主義とマルクス派の對立が表面に現はれて來た。マルクスの影響力が増大するにつれ、国際労働者協會は漸次に中央集權的な組織に進まうとした。これに反してバクニンは、地方分權主義を主張

した。そしてこの時各國において、それ／＼異つた情勢の下に成長を遂げつゝあつた労働階級の運動は、必らずしも中央からの指揮統制を喜ばなかつた。これはバクニンの地方分權思想の乘するところとなつた。かうしてバーゼル大會後になると、バクニン一派はロンドンの總務評議會に對して公然の反對運動を開始した。この時以後、インタナショナルの歴史は、大會においてもまた地方支部においても、兩派の對立と内訌をもつて終始した。

一八七一年にはパリ・コンミュンが樹立され、パリの労働階級は三ヶ月の間、政權を掌握した。コンミュンの没落と共に、フランス労働階級の精銳は根こそぎにされ、一時は會員四十萬と云はれたインタナショナルの勢力はフランスから一掃されたばかりでなく、イギリス労働組合の指導者も、漸やくインタナショナルから離れ去つた。

かゝる形勢のうちに、翌七二年には、ヘーグに大會が開かれたが、この大會はマルクス派對バクニン派の正面衝突であつた。大會はバクニン一派の除名を決議し、表面、マルクス派の勝利とはなつたが、同時に大會の決議によつて、總務評議會をニューヨークに移轉した。かうして第一インタナショナルは、最終の會議が一八七六年フィラデルフィアに開かれるまで、名目上の存在をつゞけたが、事實上は、ヘーグ大會をもつて終焉したものであつた。バクニン派はなほ數次の大會を開いたが、これもまた、漸次に、大衆から離れた少數無政府主義者の集團となつて消滅した。

〔第一インタナショナルの意義〕 第一インタナショナルは僅かに十年間の存在ではあつたが、無産階級運動の上に不朽の足跡を残したものであつた。ブルジョア急進主義の運動のうちから漸やく芽ぐみ出し、そして思想的にはなほ混沌としてゐた各國の労働階級運動は、國際的な一つの大きな熔鑪に投げ込まれ、かきこで精煉せられることによつて、初めて社會主義的な一定の方向を與へられた。この方向は、爾後、各國の無産階級運動の確乎として不變な方向となつた。

のみならず、第一インタナショナルは、各國における孤立散在した労働階級運動を國際的に結合することにより、それ／＼の國內における運動の力を強よめたばかりでなく、その發達を促がした。言ひ換へれば、國際的な團結は、國際的な運動の成長發達を促がした。そしていろ／＼の條件と事情を異にする環境の下に、國際的な運動がなほ一そう成長し、その結果が持ち寄られて、さらに國際的に組織せられる必要の生じた時、第一インタナショナルは消滅したのであつた。

最後に、各國における第一インタナショナルの勢力は、インタナショナルの支部とした組織せられた本來の支部と共に、労働組合の加盟によつて成り立つてゐた。かように第一インタナショナルは、一方には労働組合の國際的結合として、他方には國際労働階級の政治的結社として發達し、その胎内には、未來の社會黨インタナショナルないしは共產黨インタナショナルと労働組合インタナショナルとの、二つの無産階級の組織を育てゝるたものであつた。

## (2) 第二インタナショナル

〔國民的政黨の發達〕 第一インタナショナルの終焉は、無産階級運動の歴史における新たな出發點となつた。これに續づく時期の特徴は、國民的（即ち、國際的）發達の傾向であつて、國際的な大貯水池から四散した勢力は、それ／＼の國において、多かれ少なかれその國の特殊な形勢に條件づけられた、労働階級の獨立の政治運動を發達させた。

かうしてイギリスでは、一八八三年には社會民主同盟とフェビヤン協會が創立され、六五年にはドイツの社會民主黨、七七年にはアメリカの社會労働黨、七九年にはフランスの労働黨、八五年にはイタリアとベルギーの労働黨が組織された。これらの運動を一貫した特徴は、第一には、労働階級がブルジョアジーの政治的影響から獨立し、そしてこれと對立した政治勢力として立ち現はれたこと、第二には、すべてこれらの政治運動が、社會主義といふ一定の方向を取つてゐることであり、社會主義はもはや何人の教理でもなくて、労働階級政治運動の追求する一般的な方向となつた。かように労働階級の獨立した政治運動と社會主義的方向とが、新しい時代の特徴であつた。そしてこれは各國の労働階級運動が、第一インタナショナルから受け継いだ遺産であつた。

かうして新時代の主要努力は、無産階級の國別的な運動の發展に向けられたとはいふものゝ、この間にも、國際主義の傳統は決して忘れられてはゐなかつた。そこで第一インタナショナルの崩解後も、新しい國際團體を組織しようとする試みか、しばしば繰り返へされたばかりでなく、特殊の目的をもつて、いろくゝな國際的の會議が開かれた。

〔新インタナショナルの復活〕 しかるに一八八九年には、フランスにおけるマルクス派社會主義者と改良派社會主義者によつて、二つの對立的な國際大會がパリに開かれた。このマルクス派の大會は、一般に第二インタナショナルの起原と見做されてゐる。一八九一年のブラッセル大會においてこの兩派は合同し、こゝに第二インタナショナルとして知られる國際社會黨大會の基礎が定まつた。第二インタナショナルは、その創立から歐洲大戰までに、九回の大會を開いた。

- 一八八九年（パリ大會）
- 一八九一年（ブラッセル大會）
- 一八九三年（チュリヒ大會）
- 一八九六年（ロンドン大會）
- 一九〇〇年（パリ大會）
- 一九〇四年（アムステルダム大會）

一九〇七年（シユツツトカルト大會）——代議員二十六ヶ國、八百八十六名）  
 一九一〇年（コペンハーゲン大會）——代議員二十四ヶ國、八百九十六名）  
 一九一二年（バーセル臨時大會）——代議員五百五十五名）  
 第十回大會は一九一四年にウイennaに開かれる豫定であつたが、開戦のためにお流れとなつた。  
 一八八九年のパリ大會から一九〇〇年の再度のバリ大會にいたるまでは、三年ごとに各國の社會黨労働黨の代表者が集まつて論議するといふだけで、何ら常設的な機關さへもなかつたが、この大會において、第二インタナショナルは初めて一定の國際的な組織となつた。即ちこの大會で、以後三年ごとに開かれるこの大會を國際社會黨大會と呼び、かつ常設的な國際中央機關として、ブラッセルに國際社會黨事務局を置くことが決定された。また大會は、加盟團體の資格を次の如く限定した。

- (一) 社會主義の根本原則——即ち、生産および交換手段の社會化、労働者の國際團結と國際的行動、階級的黨に組織せられたプロレタリアによる政權の獲得——を奉ずるあらゆる團體。
- (二) 階級闘争の原則を承認し、政治運動に直接参加せざるも政治行動（立法上議會上の）の必要を承認するすべての労働團體。

けれども國際社會黨事務局は單なる事務的な機關であつて、第一インタナショナルにおける總務評

議會ほどの権能はもつてゐなかつた。大會もまた決議の仕放しであつて、何らこれを遂行する行動の機關がなかつた。一九〇七年のシユツトガルト大會において、各國一様に二票づつをもつた従来の票決方法を變へ、運動の實際勢力に比例して、各國に票數を割當てることゝなつた。この新制度により、大會の決議はやゝ實力を伴ふものとはなつたが、大體において、第二インタナショナルは緩やかな聯合體であつて、有力な集中的の統制力を持つてゐなかつた。

〔第二インタナショナルの特徴〕 かように第二インタナショナルを第一インタナショナルにくらべて見ると、その差異は、やがて實際の形勢の相異を反映してゐることが分かる。第二インタナショナルの時代には、運動の重點は、おの／＼の國別的な黨にあつた。第二インタナショナルは、それ／＼の國の多かれ少なかれ異つた形勢に適應して成長發達したこれらの國別的な黨の勢力を糾合したものであつて、第一インタナショナルが、まづ國際的な中心から出來上がり、これによつて國別的な運動が促進されたのとは、全く情勢を異にした。かように第二インタナショナルは各國の労働階級の國別的な根柢の上に成長した政黨（または組合）から成り立つてゐたといふことが、國際的な一中心からこれを一律に指揮することを困難にした。

次に、第二インタナショナルは労働組合の参加を認めたが、しかしその性質は、明らかに無産階級の政治的の結合であつた。また第二インタナショナルは、明らかに社會主義インタナショナルであつ

た。これは第二インタナショナルが獨斷的な教理によつて結合しようとしたことを意味するものではなくて、社會主義は、もはや無産階級政治運動の一般的な方向となつた事實を反映するものであつた。第三に目につくことは、第一インタナショナルの大會にくらべると、第二インタナショナルの諸大會の議題が、著るしく當面の實際問題に觸れてきたことであつた。

### (3) ドイツの社會民主黨

〔ラッサールの運動〕 無産階級が國民的な基礎の上に、根柢ある獨立した黨を結成するかうした新運動の先頭に立つたものは、ドイツであつた。

一八四八年の革命時代には、ドイツ労働者の間には、全國的な労働團體を組織する試みが行はれ、そのうちには労働者友愛協會のような、半ば政治的、半ば職業的の團體もあつた。けれどもこの時は、ドイツの労働者は、まだ完全にブルジョアジーの影響の下にあつた。そこで四八年の革命には、労働者はブルジョアジーの闘争に動員され、彼らのために中世紀的勢力と戦つた。さらに五〇年代の終りになつて、革命の敗北につゞく反動の勢力がやゝ下火になると、中産階級自由主義の政黨として進歩黨が組織された。進歩黨は、労働階級をその勢力下におくために、多くの地方に労働者團體の組



織を促進した。當時これらの労働團體が公然と政治上の目的を標榜することは、官憲の彈壓を招いたので、労働者教育協會といふ名稱を取つた。かくて一八六三年には、ライプチヒの労働者教育協會は、全國労働者大會を召集するために委員會を設けた。

しかしこの時、労働階級中の先進分子は、漸やく、進歩黨の指導に不満を持ちはじめた。そこで委員會は、フェルディナント・ラッサールに向つて、労働階級の取るべき行動について意見を徴した。これに對するラッサールの答は、かの有名な『公開狀』であつて、労働階級が獨立した政黨を組織する必要を主張したものであつた。つゞいて開かれたライプチヒの集會においても、彼の見解は壓倒的の多數をもつて採用された。これに自信を得たラッサールは同年五月、プレスラウにおいて全ドイツ労働者同盟を組織したが、それは『平和的合法的な方法により、ことに輿論の味方を得ることによつて、平等直接普通選舉を確立すること』を唯一の綱領とした。ラッサールは非凡な才幹と驚くべき精力をもつて、一ケ年間の輝やかしい煽動運動の後に斃れたが、彼の運動の組織上の收獲は、宣傳運動の華々しさには及ばなかつた。ラッサールはそのあとに、會員五千に満たぬ全ドイツ労働者同盟を残し得たに過ぎなかつた。けれどもラッサールによつて踏み出されたこの一歩こそ、ドイツ労働階級の獨立した政治運動への第一歩であつた。

〔アイゼナツハ派の運動〕

全ドイツ労働者同盟の勢力は、主としてプロシアと北部ドイツ地方に伸

びた。しかるにサキソニーと南部ドイツにおいては、労働者教育團體の多數は、ラッサールの運動に参加しなかつたばかりでなく、ブルジョア自由主義者はラッサールの勢力の侵入を阻止する目的で、これらの労働者團體の聯合を組織した。労働者教育同盟は一八六三年以來、毎年大會を開いたが、六年の大會では、新たに同盟の今復の運動方針が討議された。これより先きウィルヘルム・リーブリネヒト、ペーベルらのマルクス派社會主義者は同盟の内部にあつて活動し、同盟を社會主義の方向に導くために努力してゐたが、六八年の大會では、彼らは決定的の多數を占め、大會は國際労働者協會の綱領を採用する決議をした。そして翌六九年のアイゼナツハにおける大會において、社會民主労働黨が組織された。かくて普佛戰爭後、一八七一年のドイツ帝國最初の總選舉には、全ドイツ労働者同盟と社會民主労働黨とは合せて十萬二千の得票と二人の議員を出だし、七四年では、三十五萬三千票と十の議席を得た。

〔兩派の合同とドイツ社會労働黨の創立、鎮壓令〕

この間、無產政黨に對するドイツ反動政府の迫害は苛酷を極めたが、これは戦線の統一を促がし、七五年のゴータ大會において、兩派の合同によつて新たにドイツ社會労働黨が樹立された。この合同大會によつて採用された綱領が、かのゴータ綱領であつて、これは主としてマルクス主義に立脚したものであつたが、なほ多分にラッサール思想のまざつたものであつた。

合同政黨の威力は、まもなく七七年の總選舉に現はれた。新黨は五十萬に近い投票と十二の議席を得たばかりでなく、ことにベルリンやハンブルグの如き大都市、サキソニーとライン地方の工業都市における得票は、支配階級を脅やかした。この恐怖は、翌七八年に社會主義鎮壓令の發布を促がした眞實の動機であつた。

しかしビスマルクの比類のない鎮壓政策も、無産階級の政治勢力の結成を阻止することはできなかつた。そして社會労働黨の得票は、鎮壓令下に次の如く激増した。

總選舉	得票	投票總數との%	當選
一八八一年	二二二、〇〇〇	六・一	一三
一八八四年	五五〇、〇〇〇	九・七	二四
一八八七年	七六三、〇〇〇	一〇・一	一一
一八九〇年	一、四二七、〇〇〇	一九・七	三五

かくて九十年、この抗すべからざる大勢の前に鎮壓令は撤廢され、黨はハーレの大會において組織を建て直すと共に、ドイツ社會民主黨と改め、さらに翌年のエルフルト大會において、ゴータ綱領に代はる新綱領を採用した。この綱領は、ラツサール派の思想を清算し、完全にマルクス主義の基調に立つものであつて、歐洲大戰以前の時期における無産政黨の最も進歩した綱領と認められ、従つて、

この時代における社會主義政黨の綱領の標本的なものであつた。

〔エルフルト綱領〕 かようにエルフルト綱領は、無産政黨運動の歴史における最も重要な文獻の一つであるから、こゝにその全文を掲げてみよう。

『アルサヨア社會の經濟的發展は、必然的に、労働者とその生産手段を私有することを基礎とする小生産の没落に導びく。それは労働者とその生産手段から引き離し、財産のない無産者に變形する。しかるに生産手段は比較的少數の資本家と大地主の獨占到歸せしめる。』

『生産手段のかゝる獨占化は、巨大な大生産が分散した小生産に取つて代ること、道具が機械に發達することとして人間労働の生産力の驚くべき増加とを伴ふ。けれどもこの變化の一切の利益は、資本家と大地主によつて獨占されてゐる。そしてプロレタリアと沈淪してゆく中間階級——小商人と小自作農——にとつては、加はりゆく生活の不安、貧困と、抑壓と、隸屬と、墮落と、搾取との増大を意味する。』

『無産者の數はますます増加し、過剰労働者軍はますます増大し、搾取者被搾取者間の間隙はますます廣くなり、近代社會を二つの敵陣に分つてゐるところの、そしてすべての工業國の共通の性質たるアルサヨアとプロレタリアとの間の階級闘争は、ますます激烈となる。』

『富者と貧者との間の深淵は、資本主義生産方法からおのづから起る恐慌——それは愈々ますます凄まじい破壊的なものとなり、一般的な不安を社會の普通状態たらしめ、そして生産力が現存社會を追ひ越してゐること、生産手段の私有がその合理的な使用と充分な發達と兩立しがたいものとなつてゐることを立證するところの——によつて、一そう押し擴げられてゐる。』

『かつては生産者に、自己の生産物の所有を保證する手段であつた生産用具の私有は、いまや小自作農、手工労働者および小商人を收奪する手段となり、非労働者、資本家および大地主をして労働者の生産物を占有せしめる手段となつた。たゞ生産手段——土地、鑛山、原料、道具、機械、交通機關——の資本家的私有を社會的に變改し、商品の生産を、社會のためにそして社會によつて營まれる社會主義的生産に轉形することのみが、大生産と社會労働の絶えず増大する生産力とが、今まで搾取せられてゐる諸階級にとつて貧困と抑壓との源泉となる代りに、最高の福祉と全面的な調和ある發展との源泉となるようにならしめることができる。』

『この社會的變形は、たゞにプロレタリアばかりでなく、現在の狀態の下に苦んでゐる全人類の解放を意味してゐる。けれども、これはたゞ労働階級の事業でしかあり得ない。なぜならば、その他のすべての階級は、彼らの利害が互ひに衝突し合つてゐるにもかゝらばらず、生産手段の私有の上に立つてをり、現存社會の基礎を維持することを、彼らの共通目的としてゐるからである。』

『資本家的搾取に對する労働階級の闘争は、必然に政治闘争である。労働階級は政治上の諸權利なくしては、この經濟闘争を行ひ、その經濟上の組織を發達せしめることができぬ。それは政權を握ることなしには、生産手段を共同的社會の所有たらしめる變化を實現することはできぬ。』

『労働階級のかゝる闘争を、一つの意識した統一された闘争に形成し、これに不可避的なその目標を指示すること、これが社會民主黨の任務である。』

『資本主義生産方法の行はれるすべての國々においては、労働階級の利害は同じである。世界通商と世界市場との擴大につれ、一國の労働者の境遇は、いよ／＼ますます他の諸國における労働者の境遇に依存するものとなつて来る。それ故に、労働階級の解放は、すべての文明諸國の労働者が均しく利害關係を有するところの任

務である。ドイツ社會民主黨はかゝる認識の下に、他のすべての國々の階級意識ある労働者との一致を感じ、かつ宣言する。

『故にドイツ社會民主黨は、新たな階級的特權と排他的な權利とを主張するものではなく、階級支配と階級そのもの、撤廢を主張し、性と門地の區別なく、萬人の平等の權利と平等の義務とを主張する。かゝる見地から、ドイツ社會民主黨は現在の社會においては、たゞに貧窮労働者の搾取と抑壓に對して闘ふばかりでなく、階級に對して行はれると、黨に對し、性に對し、または人種に對して行はれるとを問はず、あらゆる種類の搾取と抑壓に對して闘ふものである。』

『これらの諸原則に基づいて、ドイツ社會民主黨は次の如く要求する——』

- (一) 二十歳以上のすべての男女に對する、無記名投票による一般、平等、直接の選舉權。比例代表制、その實施までは、人口調査ごとに法律による議席の割當替へ。選舉は法定休日に行ふこと。議員歳費支拂。選舉權剝奪の場合を除き、一切の政治的權利の制限撤廢。
- (二) 發議權 (イニシャティヴ) および一般投票 (レフェレンダム) による民衆の直接立法。帝國、州、縣、村における人民の自治。人民による官吏の選舉、官吏の責任制。
- (三) 人民皆兵制による訓練。人民軍を以つて常備軍に代へること。人民の代表者による媾和および宣戰の決定。一切の國際紛議を仲裁によつて解決すること。
- (四) 言論の自由、團結および集會の權利を制限しまたは抑壓する一切の法律の撤廢。
- (五) 公事または私事において、婦人を男子よりも不利益ならしめる一切の法律の廢止。
- (六) 宗教は私事たるべきこと。如何なる基金も教會および宗教に關する目的に使用すべからざること。教

會および宗教に關する團體は、完全な獨立をもつてその業務を營む私的團體と認めること。

(七) 學校を宗教から分離すること。公民學校への義務的入學。公民學校における教育、學用品、および食費を無料とすること。また高等の諸學校においても、その才能が上級教育に適するものと認められる男女に對しては、同様たるべきこと。

(八) 裁判および辯護を無料とすること。裁判は人民の選舉する裁判官によつて行ふこと。刑事事件の控訴制度。罪なくして起訴、收監、斷罪せられたものに對する賠償。死刑廢止。

(九) 助産および治療手段をも含め、醫療は無料とすること。無料埋葬。

(十) 一切の公費は、租税によつて支辨する必要がある限り、累進的な所得税および財産税によること。相續税は金額および親族關係によつて階段を設けること。すべての間接税、關稅、および集團的利害を特權的少數者の利害の犠牲とするその他の財政々策の撤廢。

『ドイツ社會民主黨は労働階級の保護のために、次の如く要求する——』

- (1) 次の如き基礎による、有効な國內的および國際な労働者保護立法。
  - a 八時間を越えざる標準労働日を定めること。
  - b 金儲けのためにする十四歳以下の兒童労働の禁止。
  - c 技術上の理由または公益上の理由のために、その産業の性質上これを必要とする部門を除き、夜業の禁止。
  - d すべての労働者に對し、毎週少なくとも三十六時間連続した休暇。
  - e 實物支拂制度の禁止。

かようにエルフルト綱領は、原則的な部分と行動に關する部分から成り、前者においては、労働階級政治運動の目標として、マルクス主義の一般的な理論が掲げられ、後者においては、當面の闘争の目標として、政治上および産業上の要求が掲げられてゐる。

〔歐洲大戰と社會民主黨——その分裂〕 エルフルト綱領はドイツ社會民主黨の方向を定めたもので

あつて、その後黨内には、マルクス主義を改良主義的に修正したベルンシュタインの謂ゆる修正主義の思潮が現はれたが、論争の上では、正統マルクス主義を奉ずるカウツキの主張が勝利を得た。けれども實踐的には、ベルンシュタインの改良主義は克服せられてゐなかつた。

一九一四年七月、歐洲大戰が勃發するや、ドイツ社會民主黨は戦争反對の態度を一變して、政府の軍事費豫算に賛成した。けれども戦争の進行と共に、社會民主黨議員の間には、再び本來の戦争反對の主張に返へり、軍事費豫算に反對する分子が漸次に増加した。これらの分子は相次いで黨から除名

(2) 帝國労働省、地方労働局、および労働會議所によるすべての工場の監督、都市および農村における労働状態の視察と取締。工業衛生の完全な制度。

(3) 農業労働者および使用人を、工業労働者と同一に取扱ふこと。使用人規則の廢止。

(4) 團結權に確實な基礎を與へること。

(5) 帝國は全労働者の保險に任じ、労働者をして、その管理に有効に協力せしめること。

され、一九一七年に獨立社會民主黨を組織した。

一九一八年十一月の革命によつて、社會民主黨兩派の聯立による第一次の共和政府が生れたが、まもなくこの聯立は破れ、獨立派は内閣を去つた。その後獨立派の勢力は急速に成長し、一九二〇年には黨員九十萬に達し、同年の總選舉には社會民主黨の得票五百六十萬、議席百十三に對し、獨立派は四百九十萬、議席八十一を獲得し、ほゞ伯仲する勢力となつた。

〔獨立社會民主黨の再分裂〕けれども獨立社會民主黨には、軍事費豫算に對する反對においてこそ態度が一致してゐたが、ロシア革命によつて具體的に提起せられた根本的な諸問題——ことにプロレタリア獨裁の問題、ボリセウイズムに對する態度の問題——について見解の異なる要素を含んでゐた。そして第二インタナショナルに對立した第三インタナショナル(共產黨インタナショナル)の創立と成長とは、この問題に對する明確な答を迫つてゐるものであつた。そこで一九一九年には、獨立社會民主黨の最左翼たる舊スバルタクス團の一派は脱退し、新たにドイツ共產黨を創立した。しかるに黨は翌年の大會において、コミンタールン加盟問題について再び分裂し、多數派たる左翼は、ドイツ共產黨と合流して合同共產黨を組織した。

一二年、獨立社會民主黨は再び社會民主黨に復歸合同した。これに先だつて社會民主黨は前年ゲルリッツ大會において、新に政治上經濟上の形勢に應じた新綱領を採用した。エルフルト綱領の原則部

分が、資本主義から社會主義への必然的な推移についてのマルクス主義の一般的理論を叙述してゐたのに反し、ケルリッツ綱領の原則部分は、當面の情勢に即した具體的なものとなつたと同時に、ドイツ社會民主黨の改良主義への方向は、この綱領によつて、明確に言ひ表はされたものと云はれてゐる。

#### (4) イギリスの労働黨

〔初期の政治運動〕十八世紀の六十年代から十九世紀の三十年にいたる時期は、イギリスが産業革命を通過してゐた時代であつて、工業は前代未聞の急速度をもつて發達し、新興資本家階級の手に驚くべき勢ひで富が蓄積せられる一方には、土地から、生産手段から、従來の生活方法から追ひ拂はれた無産の労働者が、大量的に造り出されてゐた。これらの無産民は僅かな賃銀を追うて、農村から都會へ、一つの都市から他の都市へ、と流れ込んでゐた。當時は、被雇傭者を壓迫する種々なる規定があつたが、労働者の利益を保護する何らの法律もなかつた。婦人と幼年労働の搾取が、戦慄すべき光景を呈したのもこの時代であつた。これは必然に、労働者のおのづからな反抗を挑發せざるを得なかつた。罷業の結核、機械の破壊、政治上の示威運動と請願運動は相次いで行はれた。この情勢が生み出した最初の政治團體は、ウィリアム・ラヴェットの指導の下に、普通選舉獲得運動に活動した全國労働

階級 同盟であつた。しかし一八三二年の選挙法改正は中産階級の勝利であつて、労働階級は何物をも酬いられたなかつた。政治運動の結果に對する失望は、労働階級の熱情を經濟運動の方向につた。イギリス労働階級のかうした心境を捉へたものは、オウエンの協同組合および労働組合運動による社會主義實現の思想であつた。全 國 大 合 同 組 合は忽ちにして五十萬の労働者を糾合し、イギリス組合運動の歴史における最も感奮的な一時期を現出した。

〔チャーティスト運動〕 しかしオウエン思想の運動がまもなく凋落すると、労働階級は再び政治運動に立ち返へつた。一八三八年、労働階級出身の指導者ラヴエツトを中心とする労働團體代表者と急進主義議員の會合は、『人民憲章』として知られる(一) 男子普通選挙權(二) 平等選挙區、(三) 無記名投票、(四) 議會の年々召集、(五) 下院議員の財産資格撤廢、(六) 議員の歳費支給の六項目の要求を起草した、これがチャーティスト運動の綱領となつたものであつた。

かくて急速に全國的な運動となつたチャーティスト運動はラヴエツトの指導の下が労働階級を主要な勢力とする運動であつたが、その綱領が示してゐる通りに、小ブルジョア層によつても支持された。そして獨立した労働階級議員を有しなかつた當時の状態の下においては、議會における自由主義者と提携することは、必要やむを得ぬことであつた。かようにチャーティスト運動は、労働階級を主要たる要素とする運動ではあつたが、なほブルジョア自由主義の影響下にある運動であつた。一般に

自由主義的な小ブルジョア層が尙早的に革命的な作用を失つて労働階級と袂を分つたところでは、ブルジョア・デモクラシーの發達はおくれをり、従つて中世的勢力の遺物を多く残してゐるが、これに反して、自由主義ブルジョアと労働階級との協力が久しく續いたところでは、ブルジョア・デモクラシーが發達してゐる代りに、小ブルジョア自由主義のイデオロギーは、労働階級の間の一そう根強く浸透してゐると云つてよい。イギリスの労働階級が自由主義の影響から離脱し、獨立した政治運動に目醒めることを困難にした理由の一つも、かゝる事情にあつた。

〔イギリス資本主義の黄金時代〕 かくてイギリス労働階級の血を沸かしたチャーティスト運動も、畢竟、ブルジョア自由主義の全盛時代の到來に貢献するものとなつた。

十九世紀の五十年代から七十五年にいたる時期は、イギリス資本主義が潑刺たる生氣をもつて成長發達の上向線上を進んだ時代であつて、イギリスは『世界の工場』となり、その前には世界市場の展望が涯りなく開けてゐた。そして労働階級も、資本主義經濟の繁榮によつて生活を改善することができた。労働階級はその全注意を、労働組合と協同組合の建設に向け、しかもこれらの運動は、資本主義制度の外にその目標をおくものではなくて、資本主義が永久的な社會秩序と見られたように、労働組合もまた資本主義秩序の永久的な一部分をなすものと考へられた。少なくとも労働階級の當面の必要は、自由主義的な資本主義の範圍内に求め得られるものであつた。そこでこの時代のイギリス勞

働階級は、完全にブルジョア自由主義の思想によつて支配せられてゐた。この時期は組合運動の方面では、堅實にして才幹ある少数の組合幹部の指導の下に、『標本組合』と呼ばれた熟練労働者の大組合の發達した時期であつた。

とは云へこの時代にも、労働組合の法律上の地位を確立するために、種々なる政治運動が行はれた。また一八六〇年にはグラスゴウ、シエフィールド、リヴァプール、エディンバラに、六一年にはロンドンに、労働組合評議會が恒常的な組織として設けられた。これらの組合評議會は、多くは労働争議のうちから生れたものであるが、漸次に、労働組合の政治的な活動に當るものとなつた。たとへば一八六六年には、ロンドン評議會は國際労働者協會と協力して選挙法改正運動や、ヨーロッパ諸國の政府に對する民主主義的改革を要求する運動を行つた。六四年には、傭主および使用人法改正要求の運動を契機として、主として労働組合評議會の努力によつて、最初の全國的な労働組合會議が開かれた。そのほか組合基金の沒收に對する保證の確立、ピケッティングの權利の獲得、ことにシエフィールドにおける労働争議暴行事件を口實にして労働組合を彈壓しようとする政府の企てに對しても、組合は有力な反對運動を試みた。これらの運動には、労働組合指導者は進歩的な學者や法律家の援助を借ることを躊躇しなかつたが、それにも拘はらず、これらの運動は、労働者自身の運動であるといふ明白な意識の下に行はれたものであつた。かようにイギリス労働階級は、すでに労働階級の獨立し

た政治運動に目醒めつゝあつた。けれどもそれはなほ、労働階級が單なる組合運動によつて獲得することのできないものを、ブルジョア自由主義の範圍内において、政治的な手段によつて獲得しようとするものであつて、謂ゆる組合主義政治運動の埒内にあるものであつた。労働階級の眼界はなほ狹隘であつて、政權獲得の問題は、なほ彼らの眼界の外にあつた。

〔轉換の時期〕 この間に、一八六七年の選挙法改正によつて、労働階級の一大部分は選挙權を獲得した。六八年には正規の労働組合大會が創立され、七一年には大會の議會委員會が設けられた。六九年の總選挙には、少数の労働者議員を候補に立て、その他の選挙區では、労働組合の要求を支持する候補者に投票する方針を取つた。しかし次の總選挙には、十三名の労働者候補をもつて、自由保守兩黨に對立した。かうして労働階級の一部分が選挙權を得るや否や、原則としては獨立の労働者候補を立て、自由黨候補者の支持が問題になつたのは、たゞ獨立候補のない場合に限られた。

一八七九年には、イギリスの經濟界は俄然として恐慌に襲はれた。久しく順潮に棹さしてゐた組合運動の上には、受難の時が來た。そしてイギリス資本主義の前途にも、一抹の不安が現はれた。かくて七九年の恐慌は、イギリス労働階級の運動に一轉機を與へたものであつて、久しく背景に押込められてゐた社會主義運動は再び前景に現はれた。一八八一年には、ハインドマンらによつて社會民主同盟が組織され、八四年には、ウェッブらによつてフェビヤン協會が起された。前者がマルクス主義の理論

を宣傳したのに對し、後者はその教化運動によつて、實際政策化された社會主義を普及させた。さらに九三年には、ケヤ・ハーディーらによつて、英國最初の社會主義政黨ともいふべき獨立労働黨が創立された。

新たな時代は、組合運動の方面にも開けてゐた。一八八〇年代になると、トム・マン、ジョン・バーンス、ベン・テイレットらの社會主義者の指導の下に、主として不熟練労働者の間に、新たな方向を取つた組合運動が勃興した。さきの時代に發達した大組合が専ら熟練工の組合であつて、一般に保守的傾向を現はしてゐたのに反して、これらの新組合は極めて闘争的であつた。そして舊組合とその指導者とは、政治運動に對して極めて警戒的だつたのに反して、社會主義の影響を蒙つた新組合運動は、獨立した労働階級政治運動の有力な主張者であつた。かうして八〇年代の新組合運動は、漸やく沈滞したイギリス組合運動に、新たな方向を與へ、新たな生命を與へると同時に、労働階級の獨立した政治運動への進出に拍車を加へたものであつた。

〔労働黨の成立〕 かくて一八九九年の労働組合大會は『先年來の決定にかんがみ労働者の利害が下院に一そう有効に代表せられるために』『すべての協同組合、社會主義團體、労働組合およびその他の労働階級諸團體』に對して『特別の代表者大會を召集し』『次の議會に労働議員を増加する方法を考究する』提議をなすことを大會の議會委員會に命ずる決議をした。この決議は五十四萬の賛成投票

によつて可決せられたが、なほ四十三萬の反對投票があつた。

この決議にもとづき翌年二月、五十七萬人を代表する七十二團體の代表者がロンドンに會合し、前提の目的のために、十二名から成る労働議員選出委員會を組織した。その割當では労働組合側七名、獨立労働黨と社會民主同盟から各二名、フェビヤン協會から一名であつた。しかし社會民主同盟は、獨立労働黨との意見の對立から、早くも翌年、委員會を脱退した。また委員會の或る委員は、獨立労働黨と自由黨との競争區において自由黨候補者を後援した、めに物議をかもししたが、一九〇三年の會議は、委員會の委員および委員會に加盟する團體の役員は、自由保守兩黨のいかなる部分とも提携すべからずといふ決定をした。かくて一九〇六年一月の總選舉には、委員會は五十名の候補者を立て、二十九の議席を得た。委員會の立候補した五十選舉區における總投票數八十六萬のうち、委員會候補者の得票は三十二萬を占めた。また自由黨に屬する坑夫組合聯合會は別に候補者を立て、十四名の當選者を出した。そして突如として現はれたこの新勢力に對して、イギリスの全社會は目をそばだてた。

この成功の直後、同年二月の會議において、労働議員選出委員會は労働黨と改稱され、こゝに労働組合、労働評議會、協同組合、社會主義團體、地方労働黨の聯合から成る全國的政黨が成立した。

〔労働黨の發達〕 かようにイギリスの労働黨は、團體の聯合體であるが、これらの構成要素の壓倒的な部分は、労働組合員である。成立當時(一九〇六年)の加盟組合百七十六、その組合員九十七萬五



千に對し、社會主義團體二、その會員二萬であるが、歐洲大戰勃發の年(一九一四年)には、加盟組合百一、この組合員百五十七萬に對し、社會主義二團體の會員は三萬三千であつた。かように労働黨における社會主義團體の數量上の割合は小さいが、黨の有力な指導者の大多數は獨立労働黨の出身者であるし、所屬議員の大半もまた獨立労働黨から出だしてゐる。かように黨は、少數者たる社會主義團體によつて指導せられてゐるので、戦後の時期にいたるまでは、労働黨は何ら社會主義的な綱領をかげてゐなかつた。のみならず、これらの社會主義團體も、マルクス主義を奉ずるものではなかつた。ことにフェビヤン協會は、反マルクス主義的理論の上に立つてゐた。正統マルクス主義を標榜した社會民主同盟は、その後再び労働黨に復歸したが、労働階級の間は何らの勢力がなく、ことに歐洲大戰後は、公然と國民主義的方向を取つた。

歐洲大戰に對しては、労働黨はイギリスの戦争参加に反對した。ことにマクドナルドは最も熱心な平和論者であつた。けれどもまもなく黨の大多數は戦争を支持するにいたつたので、マクドナルドは院内總理を辭し、これに代つてヘンダーソンがその職に就いた。そして一九一五年には、ヘンダーソンは自由黨のアスキスを首班とする聯立内閣の一員となつた。

一九一八年には、労働黨は組織の改造を行ひ、『黨規および綱領を承認する男女』の個人的な加盟をも認めることゝなつた。この改造によつて、労働黨は從來の、専ら團體の聯合體たる性質から、一般

に門戸を開いた政黨となつた。この組織改造は、大戦中における經濟上社會上の動搖が、急速に労働黨の勢力を擴大せしめる形勢を生じたこと、しかるに同年の選舉權擴張によつて參政權を得た新要素(二十歳以上の男子および三十歳以上の世帯主たる婦人)の上に黨勢を擴張するためであつた。

それと同時に、労働黨は黨の目的のうち、生産手段の公有と産業の民衆的管理によつて、筋肉または頭腦生産者とその勤勞の全成果と出來得る限り公平な分配とを確保するといふ、社會主義的な項目を挿入した。また黨はこの大會において、初めて長文の綱領を採用したが、その要點は、(一)國民的最低生活の一般的保障(二)産業の民主的管理(三)國家財政の革命(四)剩餘の富の公共福祉のための使用を主張したものであつて、この綱領の起草者ウェッブは、労働黨は「戦争中はじめて、「労働問題」のみに局限されないうで内政の全般に亘り、なほ外國關係にまで及ぶ廣汎にして周到なる綱領を以て自らを裝うた。終始一貫、本質的に社會主義的性質を有し、また社會改造の理想および即時に實行し得べき詳細な改良を包含するかやうな綱領の作製は……英國労働黨を他の諸國の黨派に卓越させたところの注目すべき功績であつた。のみならず意味深長な社會的綱領および戦争が表面上そのために戦はれた原則に基く「平和條件」の作製は、労働黨を單に筋肉労働者の利益を代表する團體から、一國の政府を引受けて一定の原則の下に内外の政治を指揮する準備のある、國家的眼界を有する完全な組織の政黨に變形した……』と述べてゐる。

同じ大會によつて、労働黨は政治的休戦の破棄を宣言し、聯立内閣との關係を斷つた。かくて新陣容の下に同年末の總選舉に臨んだが、戰爭中の非戰論に累ひされてマクドナルドその他の多くの有力者が落選したにもかゝらず、議席は五十七に増加し、得票は全投票總數の四分の一を占めた。二二年の總選舉には議席は一躍百四十二に、二三年には百九十一に増加して議會の第二黨となり、翌二四年、自由黨が勅語奉答文に對する労働黨の修正案を支持したゝめに保守黨内閣は倒れ、労働黨の最初の内閣が組織された。

### (5) ロシアの社會民主労働黨

〔ナロドニキの農民運動〕 ロシアにおいては、資本主義の發達は、西歐諸國にくらべて遙かにおくれてゐた。ロシアに資本主義が漸やく發達しかけたのは十九世紀の後半からであつて、その時まで、ロシアの社會が中世紀的な全貌を保つてゐたことは、六〇年にいたつて初めて農奴の解放を見たことによつても知ることが出来る。

一方には專制主義の極度の虐政があり、他方には人口の壓倒的な部分たる農民が無殘な搾取と抑壓の下に呻吟してゐた絶望的な社會状態は、多くの知識分子をして、革命的な熱情に燃えしめた。こ

の時代の革命思潮を代表したニヒリズムの特徴は、現存するあらゆるもの、消極的な否定であつて、その解放運動は何ら積極的な展望をもつてゐなかつた。けれどもこの時すでに、社會主義思想は少數の知識分子や學生によつて受容れられてゐた。けれども彼らが『人民の中へ!』と叫んだ時、この人民とは農奴の状態を去ること遠からざる農民であつて、彼らの社會主義思想は、現實な社會における社會主義の要素と結びつくことはできなかつた。この運動はナロドニキの運動として知られてゐるもので、マルクス派社會主義者が、ロシアにおいても資本主義の發展を経て社會主義が實現せられることを主張し、従つて近代的なプロレタリアをもつて革命の主要勢力と認めるに反し、ナロドニキは、ロシアは資本主義の發展を通過しないで、特殊な經路をへて——即ち往時の農村共產體を基礎としてその上に——社會主義新社會が實現せられると信じ、従つて農民を主要な革命要素と見た。この傾向の流を汲んだものは、後年の社會革命黨であつた。

しかるに十九世紀の七十年代になると、ロシアの資本主義は急速に發達し、これに伴うて近代的なプロレタリアが徐々に成長した。これらの労働者によつて組織せられた最初の團體は、一八七〇年代の終り頃にペテルブルグに生れた北露労働者同盟であつたが、同盟はまもなく彈壓された。さきの時代に革命的熱情をいだいて『人民の中へ』往つた知識分子——學生や醫師や教師——の一群、即ちナロドニキの人々は、その一部はブルジョア自由主義に移行し、他の一部は個人的なテロリズム

ムに走つたが、そのうちからは少数のマルクス主義者が成長した。ブレハノフはその最も重要な人物であつた。

〔最初のマルクス主義團體〕 一八八三年には、當時スキスに亡命してゐたブレハノフを中心とする数人の舊ナロドニキの人々によつて、労働解放團が組織された。この團體によつて採用せられた綱領は、ナロドニキの誤謬を棄て、社会民主主義の原則を完全に受容れたものであるが、綱領は特に専制主義に對する政治上の闘争を重要視したもので、『ロシアの社会民主主義者は、革命的労働者黨を組織することが第一にして最重要な任務である。けれどもこの任務の遂行は、ロシアの専制主義の下においては甚しい障害を受ける。それ故に、將來の労働黨の萌芽たるべき労働者團體にとつては、専制主義に對する闘争が絶対に必要であつて、これを撤廢することはその第一の任務である』と述べてゐる。労働解放團の目的は、いふまでもなく、將來、ロシア本國にかゝる労働者黨を樹立することであつた。

一九七〇年代の末年には、ロシアは早くも經濟上の恐慌に襲はれ、九〇年に入つては、饑饉と恐慌が相次いだ。これは労働者の自衛のための闘争と團結とを促がした。ことに九一年の飢饉は労働大衆の生活状態を悪化し、大規模な罷業運動を惹き起した。しかるに大資本と大工場の急速な發達、工業都市の發展は、労働運動の展開される條件を造り出してゐた。かくて九五年には、政治上工業上の

中心たるペテルブルグの労働者によつて労働階級解放闘争同盟が組織され、さきの労働解放團のとはほぼ同一の綱領を採用した。この種の半ば組合半ば政黨の性質を帯びた社会民主主義の労働者團體は、同年にはモスクワに、九七年にはカルコ、エカテリノスラフ、キエフに、次いでイワノウオオスネ、センスクなどにも組織された。また九五年には在外ロシア社会民主主義者同盟が組織され、九七年には、『プリント』として知られる、階級闘争の立場を取るユダヤ人の同盟が組織された。かうして九〇年代の末年になると、これらの諸團體を統一して、社会民主主義政黨を組織すべき機運が熟して來た。

〔社会民主労働黨の創立〕 一八九八年三月、この機運に促がされて、ペテルブルグ、モスクワ、キエフ、エカテリノスラフ各地の労働者解放闘争同盟、『プリント』および『労働者新聞』の代表者によつて、ミンスクに秘密の會議が開かれた。この會議によつて、ロシア社会民主労働黨の創立が決定され、黨の宣言、黨規が決議され、中央委員會が選舉され、黨は名目上は成立したのであるが、中央委員および多數の代議員は會議の直後に逮捕され、黨は事實上樹立されなかつた。かように、官憲の壓迫が全露的な組織の確立を極めて困難ならしめたばかりでなく、當時、社会民主主義者の間には、無産政黨の樹立に反對する意見がなほ有力であつた。當時、社会民主主義者の間には、ブレハノフ、レニンの代表する傾向と、スツルーズエ、ツガンバラノフスキの代表する二つの傾向があつた。ナロドニキに對しては、この二つの傾向は共にマルクス主義の立場から反對した。また運動の方法につ

いても、ナロドニキの陰謀運動やテロリズムに對して、兩派は共に大衆的な合法運動の必要を主張した。けれども経済主義者と呼ばれたスツルヴエら一派は、ロシアの労働階級が意識的になほ幼稚なといふ理由から、ツアーとブルヂョアとの抱合した勢力と直接に對峙することは危険であつて、労働階級の闘争はこれを經濟上の領域にとゞめ、政治上の闘争はブルヂョア自由主義者に一任すべきであると主張した。従つて、この一派は、統一的全国的な労働者政黨の組織に反對し、労働階級の組織を、現在の分散した労働團體の状態にとゞめようとした。これに反してプレハノフ、レーニンの一派は、労働階級を獨立した政治勢力に結成し、ツアーとブルヂョアジの支配と闘ふ必要を主張した。

〔イスクラ團の活動〕 一九〇〇年には、ブスコフにおいて社会民主主義者の秘密會議が開かれたが、シベリヤの流通地から歸つたレーニンもまたこの會議に列席した。この會議は機關紙『イスクラ』の發行を決議し、レーニンはその任務を帯びて國外に逃がれ、プレハノフ、マルトフ、アクセルロド、ヴェラ・ザスリツチらと共に、翌九一年、ジェネヴァにおいてその初號を發行した。爾後レーニン、プレハノフを中心とするジェネヴァにおける同志の一團は、イスクラ團として知られてゐる。イスクラ團は、一切の革命的社會民主主義の諸勢力を結束せしめることを任務とし、機關紙『イスクラ』を通じて重要な役割を演じた。それと同時に、イスクラの重要な任務は、經濟主義者との闘争であつた。レーニンが『何を爲すべきか?』の中で、結合するためには（即ち全国的な社会民主主義黨に結合す

るためには）まづきれいに別れなければならぬと主張したのは、この經濟主義者とのことであつた。一九〇一—二年には、ロシアは又もや經濟上の恐慌にさらされた。そして大小のストライキは所在に頻發したばかりでなく、それはますます政治的な性質を帯びて來た。かゝる形勢を背景として、一九〇二年にはピエロストックにおいて、イスクラ派の大會が開かれた。この大會は、ロシア社会民主労働黨の大會召集を決議し、また黨の綱領を討議した。この綱領は翌三年のロンドン大會において正式に採用され、一九一七年の革命にいたるまで持續せられたものである。

〔大會と分裂、ボルシェヴィキとメンシェヴィキ〕 翌三年八月、ロシア社会民主労働黨の大會がブラッセルに開かれたが、ベルギー政府の壓迫のために、ロンドンに會場を移して議事を終了することができた。この大會は、普通に第二回大會と呼ばれてゐるが、事實上は、創立大會とも見るべきものであつた。

大會には、四十三名の代議員と、發言権のみを有する十四名の代表者が參加した。この大會において社会民主労働黨は、二つの分派に分裂した。分裂の直接の動機となつたものは、黨員資格を定めた黨規第一條についてであつた。レーニンは黨員資格を嚴格にし、黨を集中的な統一のある活動分子の鞏固な結合たらしめようとしたが、これに反して、マルトフはすべての同情者に對して、廣く黨の門戸を開かうとした。レーニンの主張は二名の多數をもつて勝利を占めた。この時から、レーニン派は

ボルシェヴィキ(多数派)と呼び、マルトフ派はメンシエヴィキ(少数派)と呼ばれた。自由主義者に對しても兩派は異つた態度を取つた。即ち、ボルシェヴィキが自由主義者に對して假借なき批判と暴論をもつて臨まうとしたのに對し、メンシエヴィキはこれと提携しようとした。

爾來この二つの方向は、名目上はロシア社會民主労働黨内の二つの分派ではあつたが、事實上は獨立した別個の組織であつて、おの／＼獨立した指導部を持ち、獨立の機關紙を發行し、その對立はますます深刻となり、遂に融和しなかつた。

〔一九〇五年〕一九〇五年には、ロシアは革命状態に陥入り、労働階級はサヴェートを組織したが、レーニンは當年の政治的罷業運動のうちから自然に發生したこれらのサヴェートを日撃して、將來の革命におけるプロレタリア支配の形態を先見したと云はれてゐる。けれども革命は遂に失敗に歸した。しかしその結果は、民衆に對するツァーの政治的讓歩として、憲法の制定と國會の開設が約束された。これによつて、政黨の合法的な運動が可能となり、立憲民主黨、十月黨の二つのブルジョア自由主義の政黨が相次いで組織された。ナロドニキの流をくむ社會革命黨は一九〇一年に創立され、この時まで非合法的な存在だつたが、この年初めて最初の大會を開いた。社會民主労働黨もまた初めて公然と政治運動の舞臺に姿を現はした。かくて一九〇六年の最初の國會には、議員の總數五百二十四名のうち、社會民主労働黨は僅かに十五の議席を得たに過ぎなかつたが、七年の第二回の國會

には、議員總數五百七十五名のうち、社會民主労働黨は六四、社會革命黨は三十四の議席を得、これに反して立憲民主黨は、百七十九名から、九十二名に減少した。しかるに同年十一月の第三回の議會では、選挙法の反動的な改正と官憲の干渉壓迫のために、社會民主労働黨の議席は二〇に激減した。

〔合同の試み、決定的な分裂〕 革命失敗後の反動の波が高まるにつれ、兩派合同の要求は次第に高まつた。そして一九〇六年にはストックホルムに、七年にはロンドンに、八年にはパリに合同のため會議が開かれたが、合同の試みは何らの効果をも残さなかつた。ロンドン大會における分裂以來、兩派はおの／＼その會議や大會において、それ／＼獨自の見解を發展させてゐた。ことに五年の革命の經驗に對する態度と見解とは、兩派の間隙をますます深からしめた。ことに彼らの見解を根本的に對立せしめたものは、来るべき××と政權掌握の問題であつた。ボルシェヴィキは来るべき××においては、プロレタリアは農民と同盟して直ちに×××政府を組織すべきことを主張したが、これに反してメンシエヴィキは、××後の臨時政府に對して、プロレタリアは單に徹底的な反對派たる立場に止まらうとした。またメンシエヴィキ内部の有力な一派には、從來の非合法的な運動方法と黨の組織とを清算して純然たる合法的な運動形態を取り、専ら労働階級の經濟上の要求を満さうといふ謂ゆる清算派の主張があつた。そしてボルシェヴィキはこの傾向とも鋭利に對立した。

かくてストックホルム、ロンドンの諸會議には兩派の参加を見、形式上、兩派は單一な黨を形成し

てゐるものゝ如くであつたが、事實はそうではなかつた。のみならず、兩派おのゝの内部も、分派に分れてゐた。當時ボルシエヴィキの内部は四つの對立した分派に分れ、メンシエヴィキは三派に分れてゐた。メンシエヴィキの内部にラーリンらの清算派とプレハノフらの非清算派とがあつたように、ボルシエヴィキの内部には、議會やその他の合法的な労働者團體の利用に反對し、黨をして大衆から孤立せしめるような極左的な主張があつた。そこで後日ボルシエヴィキの本流をなしたレーニンらは、これらの内外の敵と闘つた。

一九二二年一月、ボルシエヴィキ派は社会民主労働黨大會の名の下に、ブラーグに大會を開き、これに對抗して、メンシエヴィキは八月、ウイーンに別個の大會を召集した。この兩大會は、兩派を決定的に分裂せしめたものであつて、この時以來、兩派はあらゆる場面において公然と對立した。同年の國會には、ボルシエヴィキは六名、メンシエヴィキは七名の議員を送つたが、議會内の闘争においても、兩者はもはや何らの提携をもしなかつた。

一九五〇年の革命當時における社会民主労働黨の黨員は五萬に達してゐたが、學生その他の知識分子が大なる部分を占めてゐた。黨が少なくとも半ばは合法的に存在するようになって、黨員は十五萬に激増した。けれども再び反動の時期に入ると、黨員は再び激減し、ボルシエヴィキは僅かに二千に足りない小黨派となつた。そして一九一七年の三月革命の直後には、黨員は四萬に増加した、けれ

どもボルシエヴィキの實力は、黨の置かれてゐた環境と黨の性質から、必ずしもその黨員の數によつて測定せられるものではなくて、その實力は、この組織が大衆の上に持つ影響力にあつた。

〔三月革命と十一月革命〕一九一七年三月には、ロシア革命は成功し、共和政治が布告された。歐洲大戦による民衆の極度の窮乏、ことに都市労働階級にとつては搾取の増大と食糧の欠乏、農民にとつては戦争に對する嫌惡、これに加ふるに政府と議會から軍閥警察にいたるまでツアーの政治支配の全機構の内部的な腐敗と弛緩と自壞の状態——これは三月革命を不可避なものにした。三月八日にはペトログラードの労働者が蹶起し、コサツク軍がこれに加擔した。十二日にはペトログラード・サヴェートの最初の會議が開かれた。十四日には臨時政府が成立し、十五日にはツアーの退位と共和政治が布告された。

かように三月革命を遂行した主たる勢力は労働階級であつたが、この革命によつて、政權はツアーと貴族の手から、ブルジョアジーの手に移轉したに過ぎなかつた。この意味で、三月革命はブルジョア・デモクラシーの革命であつた。そしてロシア革命をこの段階まで指導したものは、自由主義ブルジョアジーと提携した社会革命黨とメンシエヴィキであつて、ボルシエヴィキの活動はなほ地下に沈んでゐた。三月革命後の時期においても、多くのサヴェートには、ボルシエヴィキではなくてメンシエヴィキが多數を占めてゐた。けれどもこの革命によつて、ボルシエヴィキは初めて公然の黨として活

動の舞臺に登場することができた。

この時ボルシェヴィキは、重大な岐路に立たしめられた。三月革命はブルジョア民主主義の革命であつて、その結果は、ブルジョアジーの民主的な共和政府であつた。プロレタリアは反動革命に對して民主的政府を擁護し、憲法議會に参加して革命の成果たる民主政治を確保し、この民主政治の下にプロレタリアの勢力の成長を期すべきであらうか？ それともプロレタリアは、この革命をブルジョア民主政治の確立に固定せしめることなしに、直ちにサヴェートによる政權掌握に進むべきだらうか？ そしてあらゆる現實な諸條件の下において、これは果して可能だらうか？ これがボルシェヴィキの立たしめられた重大な岐路であつた。そしてボルシェヴィキはレーニンの指導の下に、第二の道を取つた。

かうして十一月革命は成就した。この革命を指導したものは、もはや社會革命黨とメンシエヴィキではなく、ボルシェヴィキであつた。ボルシェヴィキは一九一八年の大會によつて、ロシア共產黨と改稱された。そして漸次にブルジョア黨の方向に移行しつゝあつたメンシエヴィキと社會革命黨は十一月革命を境として急速に大衆の支持を失ひ、完全にブルジョアジーと協力する反革命的勢力となつた。

## (6) フランスとアメリカの無産政黨

〔フランスの社會黨〕 以上によつて、無産政黨が異つた経路をへて發達した標本的な三つの場合を説明したが、なほその他の一二の國々について、簡単に記述してみよう。

フランスでは、ブルジョア政黨が常に分離集散を繰り返へし、いまなほ小黨分立の状態にあるように、無産政黨もまた最近にいたるまでは、分裂に分裂を重ねてゐた。またサンヂカリズムの影響のために、無産政黨と労働組合とが、久しく對立的な状態にあつたことは、フランスの特徴の一つであつた。

一八七一年のバリ・コンミュンの没落は、多くの社會主義分子を失はしめた。しかし七六年になると、五ヶ年の亡命生活を終へて故國に歸つたジュール・ゲードは労働者の間にマルクス主義の運動を開始した。この時まで共濟主義の思想に支配せられ、社會主義を排斥してゐたフランスの労働組合は、一八七九年マルセイユに開かれた第三回の労働組合大會において初めて、新たな方向を取り、大會はゲードの起草した政治上經濟上の綱領を採用した。この綱領の政治的方面は、無産階級の政權獲得と獨立の階級的政黨の必要とを主張したものであつた。この見解にもとづいて、大會はフランス社會

主義 労働 黨の創立を決議し、こゝにフランス最初の労働階級政治團體が現はれた。

しかし党内には、この新政黨の綱領問題をめぐつて、早くも二つの傾向が對立した。綱領の草案は、親しくマルクス、エンゲルスの助言によつてゲード、ラファルグの起草したもので、ゲード、ラファルグ、ドヴィルらのマルクス主義者は、この綱領を新政黨の統一的な綱領として採用することを主張した。これに反して、革命的方法による社會主義の實現を不可能とし、現實に可能な改良の獲得を主張するブルウス、アルマンらの謂ゆる可能派は、選挙戦を有利に行ふために、各地方團體が、その狀況に應じて異つた綱領を掲げることが主張した。かくて一八八二のサン・エティエンヌ大會において兩派は分裂し、マルクス派は直ちにロアンヌに大會を開いてフランス労働黨を組織し、可能派はフランス社會主義労働者聯合を組織した。聯合は別名を革命的社會主義労働黨と呼んだ。この黨は、一八九〇年にはブルウス派とアルマン派との二つに分裂し、アルマン一派は、翌年同名の黨を組織し、一八九七年まで存続したが、九六年にはさらにその一部が分裂して革命的共產主義同盟を組織した。アルマンは労働組合の經濟労働に對して、政黨の運動を從屬的の地位におき、主として労働組合、特にその地方同盟の性質をもつたブルースの間に勢力を扶植した。

これらのほかに、ブランキ派の流をくむ地方的なグループの聯合體の中央委員會は、一八九八年に革命社會黨(ヴァイヤン、ザンバ、ボール・ルイら所屬)なる名稱を取つた。また

一八八一年に社會共和同盟の離散したあとには、いづれの主要團體にも屬しない獨立社會主義者のグループが生じたが、一八九三年には、ヴィヴィアニ・ミランを中心とする獨立社會主義者のグループによつて、セイヌ社會主義共和聯合を組織した。ジョーレスの如きも、獨立社會主義者の一人であつた。

かゝる分裂状態の弱點は、つとに感ぜられてゐた。そこで早くも一八八三年以來、種々なる形において、各派を接近せしめる試みが行はれた。一八九六年の地方選挙では、多くの主要都市の市會において、社會主義者は多數を占めた。この機會にも、主としてミランの首唱によつて合同の試みがなされたが、遂に成功しなかつた。ことに九九年にはワルデック・ルソー内閣が成立し、ミランの入閣を見るや、ブルジョア政府に参加することの可否が問題となり、反對の立場を取つたフランス労働黨と革命的共產主義同盟との間にまづ單獨の合同が成立し、一九〇一年、フランス社會黨が創立され、翌九一年には、フランス社會主義労働者聯合、獨立社會主義者團體、その他の地方團體の合同によつてフランス社會黨が組織され、兩黨間の鋭利な對立状態となつた。けれども第二インターナショナルの阿姆斯特ダム大會(一九〇四年)入閣主義を否定して、社會黨各派の合同を勧告した。この勧告にもとづき、翌五年四月、パリ大會において、ミラン、ブリアンらの一派を除き、兩社會黨の合同が實現された。爾來、フランス社會黨の勢力は急速に成長し、合同當時の黨員三萬八千から、一九一



三年には七萬三千となり、總選舉における得票は、一九〇六年の八十八萬から、一九一四年の百四十萬に増加した。

かようにフランスでも、無産政黨運動は労働組合との密接な關係をもつて生れたものであつて、種なる組合の全國的聯合體たる労働組合聯合は、ゲード派の影響下にあつた。しかるにこれに對立して組織せられた組合の地方同盟の聯合體たるブルース聯合の間には、組合の經濟運動を偏重するブルース、アルマンの影響や無政府主義、サンヂカリズムの勢力が壓倒的に強よかつた。ことに無産政黨が分裂に分裂を重ね、その間に對立抗争が繰返へされてゐる限り、労働組合運動はこれらの一切の政黨關係のほかに立つことが、全國的な統一を實現するために必要であつた。この實際上の必要はサンヂカリズムの思想と結びついて、労働組合の政治的中立主義に理論化された。一八九五年に労働總同盟が組織され『加入團體はすべての政派の外に立つ』といふ原則を確立して以來、フランスの労働組合運動は無産政黨に對して、常に消極的態度をつゞけてゐた。

歐洲大戰の危機が迫るや、フランス社會黨はドイツ社會民主黨と呼應して開戦防止につとめ、ジョーレスは遂に非戦論のために斃れた。けれども開戦と共に、社會黨は愛國主義と舉國一致論の大浪にまき込まれ、ヴァイヤン、ザンバラの入閣となり、戦争遂行のためにブルヂョアジーと協力した。しかるに戦争の進行と共に、黨内には再び戦争反對の少數派を生じ、その勢力は漸次に増大した。かく

て一九二〇年の黨分裂の危機を導びいたのであつた。

〔アメリカの社會主義政黨〕 アメリカにおける社會主義運動に新たな刺激を與へたものは、一八七二年、國際労働者協會の本部がニューヨークに移されたことであつた。けれどもこの時なほ、アメリカの労働階級は充分に成長してゐなかつた。従つてアメリカにおけるインタナショナルの主要人物は、マルクス派のゾルゲやワイデマイヤーの如きドイツ亡命者であつて、インタナショナルの影響も、主としてドイツ移民の間にあつた。ゾルゲもワイデマイヤーも、早くから労働者の小團體を造つてゐたが、これに對してラッサール派のドイツ移民によつても、數個の地方的團體が組織せられてゐた。一八七六年、これらの諸要素とアメリカ労働階級の先覺分子との合流によつて、フィラデルフィア合衆國労働黨が組織せられたが、その内部には、マルクス派とラッサール派との抗争が斷えなかつた。翌七七年の大會では、ラッサール派の方針が勝利を占め、黨名を社會主義労働黨と改めた。この間に組合運動の方面では、一八六九年に秘密團體として生まれた『労働騎士團』は、一八八六年には全盛期に達し、會員六十萬を擁する全國的な労働團體となつた。しかるに一八九〇年代になると、新たに組織せられた労働組合の全國同盟アメリカ労働聯合會の活動は活潑を加へ、漸やく前者を凌ぐとする勢ひを示した。社會主義労働黨はダニエル・デレオンの指導の下に、これらの労働組合の内部に勢力を扶植し、これによつて社會主義的な方向に導びく方針を取つた。けれどもこの政策は

遂に失敗に終わったので、一八九五年には、黨は従来の方針を棄て、その直接の指導の下に、社會主義的職業および労働同盟なる組合團體を組織した。この二重組合主義は、社會主義労働黨と二つの全國的労働組合團體とを決定的に對立させた。この時以後、黨はすべての非社會主義的な労働組合に對して、常に反對の態度をつけて來た。

この間、黨内には内訌が断えず、しばしば反對分子の除名が行はれたが、一八九九年には、労働組合に對する従来の政策を固執するヒルキットの一派は脱退して、ロチエスター社會労働黨を創立した。

しかるに西部地方には、云はゞアメリカ自生の社會主義運動が漸次に成長しつゝあつた。米國鐵道従業員組合の組織者にして一八九七年の有名な鐵道罷業の指導者、ユーチン・デブスを中心を集まつてゐた社會主義的傾向の労働者は、一八九七年、ヴィクトル・バーチャーの率ゐる地方的な社會主義團體と合流して、アメリカ社會民主黨を創立した。けれどもこれらの要素のうちには、社會主義的な新植民地の建設を夢みる前時代の空想的社會主義者の多くを含んでゐた。そこで團體はまもなく分裂し、デブスらは新たにアメリカ社會民主黨を組織した。

けれども一九〇〇年の大統領選舉運動における共同闘争は、合同の機運を促がし、社會主義労働黨内のデレオン派を除く三黨合同によつて、一九〇一年、アメリカ社會黨の樹立を見た。社會主義労働黨がヨーロッパ移民を主要要素としてゐるに反し、社會黨はアメリカ人を主要要素とし、その政策は

米國の事情に即してゐた。従つてその勢力は、急速に西部地方における鑛山労働者と農業労働者の間に伸張し、まもなく社會主義労働黨を凌駕して、アメリカ社會主義運動の主流となつた。かくて一九一二年には黨員十二萬となり、同年の大統領選舉には、デブスは九十萬の投票を獲得した。

けれどもアメリカ労働聯合會に統一せられた労働組合は、依然として政治的中立の態度をつけてゐた。従つて組織労働者に對するアメリカ社會黨の勢力は、依然として堰き止められてゐた。しかるに一九〇五年には、A・F・Lの職別組合主義に對立して産業別組合主義を主張する世界産業労働者(I・W・W)が創立され、デブス、デレオン共にこの新團體を支持したが、翌六年には、デブスと共に有力な西部坑夫聯合の脱退となり、I・W・Wの運動は大きな打撃を蒙つた。まもなくデレオンもまた、意見の相異によつて脱退した。けれども職別組合主義に對する産業別組合主義の思想は、社會主義労働黨の間にもすくなく有力となつた。そして一九一二年の社會黨大會では、この問題は重要な論争の焦點となつた。これより先き一九〇八年には、I・W・Wはサンデカリズムを奉ずるシカゴ派と、社會主義労働黨の影響下にあるデトロイト派とに分派したばかりでなく、I・W・Wの罷業戦術はますます暴力的な傾向を取つた。そこで一九一二年の社會黨大會は、一方、産業別組合主義を是認した決議を採用すると同時に、暴力およびサボターヂユを否認し、これらの闘争方法を主張しまたは政治行動を否認する者は除名するといふ一項を黨規に挿入し、I・W・Wの指導者ヘイウッドは政治行動を否認

認するものとして、黨の執行委員を免ぜられ、社會黨とI.W.Wとの關係は斷絶した。かうしてアメリカにおける社會主義政黨の労働組合對策は、こゝでも成功しなかつた。

歐洲大戰に對しては、アメリカ社會黨は、米國の嚴正中立を主張して軍需品輸出の禁止を要求し、翌一五年の社會黨中央委員會は、黨員にして米國の軍備擴張に賛成したものは除名する決定を行つた。その後社會黨内には參戰を主張する少數派を生じて多少の動搖を見たが、一九一七年の緊急大會の決議により、米國が獨逸に對して宣戰を布告した後も、依然として戰争反對の態度をつづけてゐた。アメリカ社會黨が戰争反對の態度のために打撃を蒙つたことは、云ふまでもない。一九一六年の大統領選舉には、社會黨はベンソン、カークパトリックを正副大統領候補として參戰反對の旗幟によつて戰つたが、その得票は、前年のそれよりも激減した。のみならず、一七年の黨大會が戰争反對の態度を決定するや、若干の組合指導者やスバルゴその他の國民主義者の脱退となつた。

かくてアメリカにおける社會主義政黨は、この國に特殊な情況から、重要な勢力とはなり得なかつた。これらの情況としては、廣大な富源を擁したアメリカ資本主義がなほ發展の一路を辿つてをり、少くとも労働階級の一部——熟練労働者——に比較的に優れた労働條件を保障してゐたこと、かくて労働階級の構成の齊一と利害の一致が妨げられてゐたこと、これらの優越的な熟練労働者は、その出發から、社會主義的影響の外に、保守的な職別組合に固定化せられたこと、しかるに左翼的または

革命的な組合運動は、この組織の内部からではなくて、常にその外に、これと對立的に起こつたこと、加ふるに不熟練労働大衆の大部分は外國からの移民であつて、組織に困難であつたこと、さらに國土の廣大は、労働階級を政治的に全國的に統一することを極めて困難ならしめてゐることなどを指摘することができる。

### (7) 第二インタナショナルの崩解

〔戦前の社會主義政黨〕 第一インタナショナルの崩解から歐洲大戰にいたる時期に發達した各國の無產政黨を見ると、いづれも(一)現在の資本主義經濟に代はる集産的な經濟の實現を目標とし、(二)労働階級の政權獲得を必要とせざるその手段と認められた點において、社會主義政黨であつたといふことができる。もちろんその社會主義は、理論上意識上の明確さにおいて、決して同一ではなかつた。けれども、少なくとも大體において、すべての無產政黨は社會主義の方向を追うてゐたものと云つてよい。また労働階級の獨立した政治運動は、これ以外の方向を追ふことはできなかつた。これらの諸政黨のうちには、その綱領のうちに、社會主義政黨たる性質を明確に言ひ表はしてゐないものもあつた。しかしこれらの政黨も、漸次にこの方向を明らかにしてゐたのであつた。のみならず、これ

らの政黨の或るものは、嚴密にマルクス主義の理論を言ひ表はした原則的な綱領をもつてゐた。

しかしながら(一)これらの無產政黨の掲げた社會主義の綱領、生産機關の公有と資本主義の撤廃、賃銀制度と資本家的搾取の廢止等々は、資本主義經濟がなほ旺盛な生活力を示しつゝ、上向發展してゐる當時にあつては、それはよし労働階級の意識を明確にし、ブルジョアジーの影響から獨立せしめるために必要缺くべからざる目標ではあらうとも、當面の實踐とはかけ離れた遠い日の理想であつた。また労働階級の政權掌握の問題——ことに×××方法による即時の政權掌握の問題は——少なくとも中世紀的專制政治に對するブルジョア×××の機運が×××プロレタリアの成長と共に熟しつゝあつたロシアを除く資本主義の先進國においては、現實な形勢のうちの何處にも見出だすことはできなかつた。そこで當面の實際の問題は、社會主義の綱領を掲げてゐる社會黨にとつても、これを掲げてゐない労働黨にとつても、同じように、現在の資本主義とブルジョアジーの政治支配の下において實現することのできる部分的な利益の伸張と、部分的な改良との獲得であつた。

(二) 従つてまた、科學的社會主義をかゝるものとして——即ち、たゞ遠い日の理想として——受容される程度の意識水準に達した要素でさへあれば、それ以上の見解の一致と相異とは問題としないで、主として當面の改良を目的とした要求——即ち行動綱領——の一致によつて、社會民主黨の綱領の下に集まることが出来た。そこで労働階級による政權の掌握と資本主義から社會主義への推移とが、現

實性をもつた問題となつて來るまでは、社會黨といへども、大體において労働黨と同じように、主として當面の行動の綱領に基づいて結合した政黨であつたと云ふことができる。

(三) 現實な革命的な形勢のうちに置かれてゐなかつた當年のこれらの社會主義政黨は、資本主義から社會主義への推移を、資本主義社會の發展の法則としては承認したが、この推移に必要な労働階級の積極的な行動の基準については、精密な綱領、即ち精密な戰略を持つてゐなかつた。少なくとも、當年の社會黨は、綱領のこの部分についての、精密な見解の一致によつて結合したものではなかつた。

(四) かように直接の革命的な形勢のうちに置かれてゐなかつた革命黨の行動は、従つてまた、事實上、改良主義的な行動の範圍内に制限せられてゐた。かうした形勢のうちに成長し、そして多年かうした形勢にその行動を順應せしめてゐるうちに、社會黨は當然にも、改良主義の政黨となつた。それ故にまた、ドイツ社會民主黨の間でも、理論上の鬭争ではカウツキーの革命主義が勝利を得たにもかかはらず、實際においてはベルンシュタインの改良主義が勝利を占めざるを得なかつた。

(五) かうして社會黨は、資本主義の埒内において實現することのできる部分的な改良のための政黨となつたばかりでなく、この部分的な改良のための鬭争もまた、ブルジョアジーの政治的支配の機構の埒内において——即ち、主として議會において——行はれるものとなつた。少なくともブルジョ

ア民主主義が或る程度に發達してゐる國々では、かうして社會黨は、漸次に議會主義の政黨となつた。

(六) 社會民主主義とは、マルクス主義政治運動の目標を言ひ表はしたものであつて、經濟的には資本主義經濟に代はる社會主義の要求を示し、政治的には、新たに支配階級の地位に登つたブルジョアに對する民主主義の要求を示してゐる。しかるに資本主義社會の實際の形勢が、社會黨の行動を事實上、議會主義の範圍内に閉ちこめるに従つて、社會民主主義は、漸次に異つた意味を持つものとなつた。即ち社會主義政黨の民主主義とは、ブルジョア階級の支配に對する労働階級の民主主義獲得の闘争から、ブルジョア階級の支配が實現してゐる民主主義的な政治機構——議會はこの主要なものである——を通じてのみ、労働階級の政權掌握の目的が達成され、資本主義から社會主義への社會的變革が行はれるものだ——或は行はれなければならぬ——といふ見解に變化した。ことに或る國々において、社會黨または労働黨が議會に相當の議席を占めることに成功した事實は、ブルジョア民主主義によつて、労働階級の政治勢力はブルジョア階級の政治機構のうちに侵入し、これによつて労働階級への政權の移轉が(ブルジョア階級の一つの分派から他の分派への政權移轉が圓滑に行はれるのと同じように)確かに行はれるかのような展望を持たしめた。

(七) のみならず、かようなブルジョア民主主義に對する信頼は、かくして——即ち、ブルジョア民

主主義的な方法で——獲得せられた政治權力を労働階級はどのような方法で行使すべきかといふ問題についても、同じような答を與へさせた。即ち、労働階級はブルジョア階級が發達させた民主主義的方法を通じて政權を獲得するといふことにとゞまらないで、さらに一步を進めて、労働階級はかうして獲得した政治權力をブルジョア階級が發達せしめた民主主義的な方法そのものによつて、即ちブルジョア民主主義的な政治形態と政治機構そのものを通じて行使しなければならぬ、そしてこれが社會民主主義であると解釋せられるようになった。

(八) 社會民主主義に對する各國の社會黨の見解は、漸次にかうした方向に移行してゐたのであるが、これは資本主義の向上的な發展期において、この一定の環境に順應しつゝ成長した社會黨にとつては、むしろ避けがたきところでもあつた。けれどもこの事はまた、かゝる環境が一變すると同時に——即ち資本主義そのものゝ状態が一變し——經濟上および政治上の危機的瞬間が切迫した形勢を現出すると同時に、かゝる政黨はもはや階級闘争の組織ではなくなつて、却つて現存の資本主義秩序を維持する勢力となるといふことを意味してゐる。各國の社會黨が知らず識らずのうちにその方へ移行しつゝあつたかような見解は、ロシアにおける無産階級の政權掌握とプロレタリア國家の樹立の試みが、全く異つた方法によつて行はれたことを動機として、またこの事實を裏書きする理論と對立のうちに、初めて意識的な明確な理論の形を取るようになった。そして今日は、この理論を指

して、社会民主主義と呼んでゐる。

(九) これらの社会党または労働党の成長発達した時期は、無産階級の政治勢力が国民的な線に沿って結成され、国民的基礎の上に立つ政黨の發達を特徴とする時期であつた。社会党はマルクス主義の原則に忠實に、その綱領や宣言のうちには國際主義を高唱しつゝ、實際の行動の上では、明らかに國民的な方向を追うてゐた。この二つの方向の矛盾は、國際戦争に對する社会党の態度といふ問題の形で、しばしば國際大會の議場に現はれた。しかしこの問題は、遂に眞實の解決を見ぬまゝで、歐洲大戰の當時に持ち越されたのであつた。そこで一度戦争が勃發し、國際主義が階級協力による國民的防衛かのいづれかを現實に選ばなければならぬ形勢に迫られると、ロシア社会民主労働党のボルシェヴィキ派を初めその他の一二の例外を除いては、各國の社会党は、まづこの問題について破綻を暴露したのであつた。イタリア社会党の左翼、アメリカの社会党などは、戦争反對をつゞけてゐた。けれども、それは國內的にも國際的にも、戦争に反對する戦争とはなり得なかつた。

〔歐洲大戰と第二インタナショナル〕 大戰勃發の前夜までは、各國の社会党からは戦争反對の叫びが擧げられてゐた。第二インタナショナルの國際事務局は緊急會議を開き、全員一致をもつて、關係列國のプロレタリアに向つて戦争反對の示威運動を勸説する決議をした。七月二十九日にはブラッセルに戦争反對の大集會を催はし、八月九日は第二インタナショナルのバリ大會の日と定められた。

ところが八月一日には、フランス社会党の議員團は、政府は戦争回避のためあらゆる手段を盡したものと認め、外敵の侵入に對して祖國に防衛の手段を與へることは、社会主義者の義務であるといふ態度を取らんとすることが明らかになつた。八月四日には、ドイツ社会民主黨は『外敵侵入の危機にかんがみ』軍事費に協賛を與へることを聲明し、同日フランスでも、社会党議員は全員一致、討論を用ひずして政府の軍事費に賛成した。かように『外敵侵入の危険に當面して、あらゆる手段によつて祖國を防衛する義務』を聲明し、政府の軍事費に協賛を與へること、これがロシア、セルビア、ポランド、イタリア、アメリカを除いて第二インタナショナルに屬するすべての黨が、世界戦争に對して取つた態度であつた。

そこで社会党が労働階級の間に勢力を持ち、従つて政府が戦争を遂行するために社会党を無視することのできない國々では、政府は社会党に對して入閣を要求した。フランスでは、佛軍の敗戦後はゲルド、ザンバ、トマらが社会党を代表して入閣し、ベルギーでも、ドイツ軍の侵入と共に、労働黨を代表してヴァンダヴェルトが舉國一致内閣に入閣した。初めイギリスの労働黨は軍事費の投票に棄權したが、まもなく兵士の徵募運動に協力し、ヘンダーソン、ブレース、ロバアツらが聯合内閣に入閣した。

かように交戦各國の労働組合が産業休戦を宣言したように、各國の社会党は政治休戦を宣言し、ブ

ルヂョアジに對する階級の闘争は全線的に放棄された。そしてこれらの政黨と組合との指導者の任務は、戦争の痛苦によつて高まりゆく大衆の不満をおさへ、彼らをして、血の最後の一滴まで戦はしめることにあつた。一五年には、聯合國側の社會黨はロンドンに會議を開き「自由が勝利を得るまで戦はんとする屈すべからざる意志」を表明し、中歐側の社會黨もウイennaに會合し、あくまで戦争の遂行に協する保證を政府に與へた。

かうして第二インタナショナルは、帝國主義戦争の嵐の前に、一たまりもなく吹き飛ばされた。けれどもロシアにおける三月革命は大いに形勢を變化し、この時から第二インタナショナル復興の試みはしばしば繰返へされた。ペテルグラード・サヴェートが國際事務局との協力の下に、七月を期してストックホルムに國際會議を開くべき招待状を發するや、それまでは斷乎として「敵」との會見を拒絶してゐた英佛獨逸の社會黨も態度を一變して参加を承諾したが、英佛政府が旅券の下附を拒んだので、會議はお流れとなつた。

### (8) 第三インタナショナルとその諸黨

〔第三インタナショナルの創立〕 インタナショナル復興の最初の試みは、一九一五年の九月、スウェ

のチンメルワルトに開かれた國際會議であつた。この會議はイタリー社會黨の左翼分子によつて提唱され「階級闘争と國際的團結との原則を忠實に守つてゐるすべての労働者團體」に参加を求めた。この會議には、各國社會黨内の左翼分子と平和主義者とを含んでゐた。翌一六年には、キエンタールに第二回の會議が開かれたが、この會議では、チンメルワルト會議の左翼派が大いに勢力を増し、戦争に對する國際的な闘争と、新インタナショナル創立の思想とは、この會議において初めて明白となつた。翌一七年にはロシア革命が成功し、チンメルワルト左翼中の最も活動的な分子は故國に歸つた。そこで新インタナショナル創立運動の中心は、おのづとロシアに移ることゝなつた。

一九一九年一月二十四日、ロシア共產黨中央委員會は、ポーランド、ハンガリー、ドイツ、オーストリー、レット諸邦の共產黨外國ビュロウ、フィンランド共產黨中央委員會、バルカン社會主義聯合、アメリカ社會黨と共に、次の如きアツピールを發した。

「こゝに署名した黨および團體は、××的な新インタナショナルの最初の大會を開くことを緊急な必要と認めるものである。戦時および革命中を通じて、從來の社會黨と社會民主黨、並びに第二インタナショナルの完全な破産が明らかになつたばかりでなく、從來の社會民主黨の中央派分子もまた、××的行動の力のないことが明らかとなつた。それと同時に、××的な眞實のインタナショナルの輪郭も、はつきりと現はれた」

このアツピールはまた、十二項目に亘つて社會黨の目的、戦術、行動を記述し、現在の時期は資本主義の分解の時期であり、従つて歐洲文化の崩壊の時期であること、プロレタリアの任務は、即時に政權を獲得してプロレタリア國家を建設し、金融資本の寡頭政治に過ぎないブルジョア・デモクラシーを××する必要を力説し、社會主義運動については三つの傾向を指摘し、完全にブルジョアジの味方となつた愛國社會主義者とは徹底的に闘争し、中央派に對しては、その指導者の行動を批判して分解作用を促進すると同時に、各國の労働運動中の眞實に×××な部分を結合する必要を説き、この大會の任務は『共產黨インタナショナルの運動を指揮統一し、各國における運動の利害を、國際的××の一般的利害に従屬せしめることを實現する任務を負うた闘争の機關を造る』にあることを述べてゐる。

かくて大會は、新インタナショナルの創立を決議した。ロシアの社會民主労働黨の左翼（ボルシェヴィキ）を初めとし、各國社會黨の左翼派は、第二インタナショナルの改良主義階級協調主義愛國主義と區別するために、従來の社會黨といふ稱呼を棄て、共產黨と呼ぶにいたつたが、新インタナショナルもまた共產黨インタナショナル（略してコミンタール）と名づけられた。共產黨インタナショナルは、第一、第二のインタナショナルに對し、第三インタナショナルと呼ばれてゐる。

〔第三インタナショナルの確立と成長〕 創立大會においては、第三インタナショナルは舊第二イン

タナショナル諸黨の左翼派を結束したといふだけで、内容の雜駁を免かれなかつた。ペテルグラードにおける翌二〇年の第二回大會では、新インタナショナルの性質は一そう明確に定められ、プロレタリア獨裁とサヴェート政權についての觀念も、各國においてこの標語を實際の運用に移す條件も、經驗にもとづいて一々明白にされ、プロレタリア×××における黨の任務と、集中主義にもとづく黨の組織も明確に定められた。労働組合運動については、コンミニュニストは組合を資本主義に對する闘争の組織となし、また××××學校たらしめるために、必ずこれに参加すること、コンミニュニストが組合から出ることは、ブルジョアジの協力者たる日和見主義指導者に大衆を引渡す結果になることを決議した。

なかんづくこの大會は、第三インタナショナルの規約を定め、かの有名な加盟資格二十一ヶ條を決定した。そして各國の加盟團體をして四ヶ月以内に臨時大會を開かしめ、この條件の承認を否決した團體は除名することとなつた。

この二十一ヶ條を中心として、各國の社會黨には急激な分離と結合の作用が行はれ、戦線の再整理が進行した。この年の九月には、チェク・スロヴァキアの社會民主黨が分裂し、その多数派は二十一ヶ條を承認して第三インタナショナルに加盟し、その後社會民主黨から分離して共產黨を組織した。ドイツでは、獨立社會民主黨は十月のハーレ大會で、その多数派は第三インタナショナル加盟を決議



した。十二月には獨立社會民主黨の左翼とドイツ共産黨(前スバルタカス團)との合同により、有力な黨が成立した。同じく十二月の末には、フランス社會黨の大多數も加盟の決議をした。イタリー社會黨はすでに第三インターナショナルに加盟してゐたが、その多數派は二十一ヶ條に反對し、翌二一年には分裂した。これと同じ過程は、全世界のほとんど到るところの社會黨の内部に行はれ、舊第二インターナショナルと新インターナショナルとの分野が明確になつたと同時に、新インターナショナルはこの二十一ヶ條によつて、その陣營から夾雜物を一掃した。

かように第三インターナショナルの成長と共に、第二インターナショナルの分解作用が進行し、多くの黨またはその左翼派は第二インターナショナルから離れたが、これらの黨はことごとく第三インターナショナルに加盟したわけではない。第三インターナショナルに加盟しなかつたこれらの黨は、別個の社會黨國際同盟を組織した。即ち、ウイenna・インターナショナルと呼ばれたものであつて、第二、第三兩インターナショナルの中間に動搖してゐるところから、『第二半』インターナショナルとも稱せられた。ウイenna・インターナショナルは、兩インターナショナルの合同を促進して、再び統一的なインターナショナルの創立を企圖したものであつた。かくて一九二二年には、ウイenna・インターナショナルの提唱によつて、第三インターナショナルの會議が開かれ、各インターナショナルの執行機關を代表する九名の委員會が組織せられたが、何らの成果を見ずして決裂した。

一九二二年には、第三インターナショナルは第四回の大會を開いたが、この大會は第三インターナショナルの集中主義の組織を確立し、インターナショナルが國民的共産黨の單なる聯合體にとゞまらないで、一個の世界共産黨の實現に巨歩を進めたものであつた。

一九二八年の第六回大會において、第三インターナショナルは初めて正式に綱領を決定した。この大會には全世界のほとんどすべての國を代表する五百十五名の代議員が参加したが、代議員の五分の一はヨーロッパ以外の國を代表し、さらにそのうちの四分の三が植民地および半植民地の代表者であつたことは、第三インターナショナルの重要な特徴の一つであると云つてよい。

大會によつて採用せられた綱領は、第三インターナショナルの根本見解と戰略戰術を詳細に規定したものであるが、こゝには僅かにその輪廓を知るために、その項目を掲げてみよう。

- (1) 資本主義の世界體系。その發展と必然的な没落。
  - a 資本主義の動的法則と工業資本主義の時代。b 金融資本の時代(帝國主義)。c 帝國主義の諸勢力とx の諸勢力。d 帝國主義と資本主義の没落。
- (2) 資本主義の一般的危機と世界xの第一段階。
  - a 世界戦争とxの危機の進行。b xの危機と反革命的社會民主主義。c 資本主義の危機とファシズム。d 資本主義安定の諸矛盾と資本主義のxの崩潰の必然性。

(3) 共産黨インタナショナルの究極目的——世界××××。

(4) 資本主義から社會主義への過渡期とプロレタリア獨裁。

a 過渡期とプロレタリアによる権力獲取。b プロレタリア獨裁とそのサヴェート形態。c プロレタリア獨裁と收奪者(過渡期の諸任務)。1. 工業、運輸および交通事務。2. 農業。3. 商業と信用。4. 生活および労働の諸條件。5. 住宅。6. 思想的影響の諸機關。d プロレタリア獨裁の經濟政策の基礎。e プロレタリア獨裁と諸階級。f プロレタリア獨裁制度における大衆組織。g プロレタリア獨裁と教化との革命。h 世界的プロレタリア獨裁との闘争と××の主要な類型。i 世界的プロレタリア獨裁と植民地××。

(5) サヴェート聯邦におけるプロレタリア獨裁と國際的××。

a サヴェート聯邦における社會主義建設と階級闘争。b サヴェート聯邦の意義とその世界××××義務。c サヴェート聯邦に對する××××プロレタリアの義務。

(6) プロレタリア獨裁への闘争における共産黨インタナショナルの戰略および戰術。

a 労働階級の間における共産主義に有害なイデオロギー。b 共産黨の戰略および戰術の根本任務。

〔各國の共産黨〕

第三インタナショナルの特質は、第二インタナショナルに對立した見解とそれに基づく行動にあることは云ふまでもないが、それと同時に、第二インタナショナルが國民的政黨の緩やかな聯合體に過ぎなかつたのに對し、第三インタナショナルが統一的世界的黨たらんとする組織上の點にもある。そこで各國の共産黨は、第二インタナショナルに對してその諸黨が支部と呼ばれた

のとは一そう強い意味において、統一的世界的國際的中心から指揮せられてゐるところの實際の支部と認められてゐる。

各國の共産黨がどのような徑路をへて生れたかは、極めて興味あることではあるが、こゝには叙述の餘白がない。共産黨が合法政黨として存してゐるのは、アルゼンチン、ベルギー、デンマーク、ドイツ、フランス、イギリス、カナダ、オーストラリア、オランダ、ノルウェー、オーストリー、ベルシヤ、スウェーデン、スイス、チエコスロヴァキヤ、サヴェート聯邦、合衆國等であつて、エヂプト、ブラジル、チリ、イタリア、文那、日本、リトアニア、スペイン、ハンガリーの諸國では非合法政黨である。またブルガリア、エストニア、フィンランド、ラトヴィア、ポーランドの諸國では、共産主義者は労働黨または労働者農民黨を通じて行動してゐる。従つて、下記の議員も、労働黨または労働者農民黨の議員である。(『アメリカ労働年鑑』三〇年版)。

議會に議員を選出してゐるのは、ベルギー(一名)、ブルガリア(三名)、チリ(八名)、チエコスロヴァキア(三〇名)、エストニア(六名)、フィンランド(二三名)、フランス(二二名)、ドイツ(五四名)、オランダ(二名)、ラトヴィア(六名)、パナマ(二名)、ポーランド(七名)、スウェーデン(八名)、スイス(二名)、ウルガイ(一名)等である。(同上)

### ⑨ 労働黨および社會黨インタナショナル

第三インタナショナル創立の翌月(一九一九年二月)舊第二インタナショナルの諸黨は開戦後初めての會議をベルンに開いた。この會議には二十九ヶ國の代議員が集まつたが、第二インタナショナル諸黨から分裂した各國の共産黨、チンメルワルド會議の立場を固守するスキス、セルビア、ルーマニアの社會黨は参加を拒み、ドイツ社會民主黨とオーストリー社會民主黨の左翼とは共に代表者を送つたが、これに反してベルギーの社會主義者は、ドイツ社會民主黨とは同席せずといふ理由で、参加しなかつた。

會議の最も重大な討論は、誰が歐洲戰爭の責任者であつたかといふ問題であつた。會議はまたデモクラシーとディクテータシップ(獨裁)かの問題を對議し、『デモクラシーによらないでは社會主義の勝利は不可能であることにかんがみ、本會議は、民衆の多數を糾合する何らの機會をも有せぬ方法に反對する。プロレタリアのたゞ一部分を基礎とするディクテータシップを樹立しようとする一切の企ては、労働階級に重大な危険をもたらし、労働階級を内亂戰の渦中に投ずるものであつて、内亂戰の結果は、反動のディクテータシップである……』といふ多數派の決議案は、議論沸騰の後に採決を保

留された。

同年四月には、アムステルダムに第二回の會議が開かれた。會議はヴェルサイユ媾和條件で決定した國際聯盟に對立して『眞實の國際聯盟』の樹立を主張し、ウィルソン十四ヶ條を支持する決議を行つた。八月には、ルカルノに第三回の會議を開き、會議の少數派は暴力の汚れであると罵つたが多數派はヴェルサイユ條約の調印を祝福した。

一九二〇年にはジェネヴァに大會が召集され、戦争責任論とデモクラシー對ディクテータシップの問題が繰返された。しかしこの大會で新規約が制定され、第二インタナショナルは再建された。その創立宣言は、一方には資本主義的隷屬に對し、他方にはボルシェヴィズムの暴君的獨裁に對して、民主的社會主義を實現するために闘ふことが主張せられてゐる。

一九二〇年、二十一ヶ條問題のために第三インタナショナルを離れてウィンナ・インタナショナルを組織した諸黨は、第三インタナショナル合同の試みが失敗に歸した後は漸次に第二インタナショナルに接近し、一九二三年四月、兩インタナショナルの合同によつて労働黨および社會黨インタナショナルが創立された。今日、第二インタナショナルと呼ばれてゐるのはこれであつて、新インタナショナルには三十ヶ國の四十三黨が参加した。最も主要な勢力は英國労働黨であつて、これについて數量的に重要なのはドイツ社會民主黨、ベルギー労働黨、オーストリア社會民主黨、オランダ社會民主黨な

どである。

各國の労働黨、社會黨の議會における勢力は、アルゼンチン(一〇名)、オーストラリア(四六名)、オーストリア(七一名)、ベルギー(七〇名)、ボリビヤ(一名)、ブルガリヤ(一〇名)、カナダ(四名)、チリー(二名)、チェコスロヴァキア(六〇名)、デンマーク(六一名)、エストニア(二五名)、フィンランド(五九名)、フランス(一〇一名)、ドイツ(一五三名)、イギリス(二八九名)、オランダ(二四名)、ハンガリー(一四名)、アイルランド(一三名)、ラトヴィア(二六名)、ルクセンブルグ(一二名)、ポーランド(五六名)、ルーマニア(九名)、スウェーデン(九〇名)、スエス(五〇名)、南米(八名)、ウルガイ(一名)、の諸國である。(『アメリカ労働年鑑』一九三〇年版)

〔II〕 吾國の無産政黨は如何にして生れたか？

## (1) 無産政黨以前—労働階級運動の出發

〔無産政黨運動の起原〕 わが國に無産政黨の組織せられたのは大正十四年であるが、すべての重要な社會現象と同じように、無産階級の獨立した政治運動の組織たる無産政黨もまた、その現はれた日に突如として生まれたものではなくて、多くの人々が無産政黨について何ら考へてゐなかつた時、社會的發展の作用は、そのうちに無産政黨を準備しつゝあつた。かうしてわが國における無産政黨の發生史は、少なくとも、大正八年—九年の時期に溯ほることが出来る。この時期は、歐洲大戦中にわが國の資本主義が飛躍的な發展を遂げ、經濟上の領域ばかりでなく、政治上においても、社會生活の關係においても、資本主義の形態が明確な姿を取るにいたつた時期であつて、その結果は、さまざまの形と方向を取つて、すべての社會層の意識に深刻な變化を齎らしつゝあつた。その上、大戦の末期から戦後にかけて緊張したヨーロッパ諸國における社會情勢、労働階級の擡頭、ロシアおよびドイツの革命の影響は、この時、わが國においても、徐々に現はれかけてゐた。かくてわが國には、未曾有の思想的動搖と社會的不安の時期が現はれた。労働組合運動と社會運動の勃興は、この時期の特徴であつた。そしてわが國における無産政黨の運動も、この社會的醗酵のうちにその萌芽を發したものであつた。

であつた。

〔明治維新と自由民権運動〕 けれども勞働者の政治運動と、無産者政黨樹立の計畫は、これ以前の時期においても、既に見ることができた。

明治維新の變革を實行したものは、武士階級の下層であつた。しかしこの變革の機關車を動かした動力は、封建制度の懐のうちに發育成長してゐた町人の金力であつた。町人の金力と名づける新しい勢力は、この機關車が突進する前に、すでに封建制度をその地下から掘り崩してゐた。そこで封建制度は、變革の實行者たる下層武士階級の手で引き倒されたものではあるが、封建制度がちょうどこの方向に倒れるかは、彼らによつて決定されたのではなくて、それ以前に、町人の新勢力による掘り崩し作業によつて決定せられてゐたのであつた。であるから明治維新の變革は、この變革の直接の實行者の思ひもよらぬ方向に發展したのであつた。

それと同時に、明治維新の變革が、来るべき新社會における經濟上の實力を代表する町人によつてでなく、封建社會における特權階級そのもの下層分子によつて遂行せられたことは、この變革に一定の特徴を與へた。すべてのブルジョア革命は、必然に妥協に終るべきものではあるが、わが國の場合には、この妥協の時期は格段に早く到來した。即ち政治の方面では、封建時代の殘存勢力に過ぎないところの下層武士階級の指導者が政權を握つて、藩閥政治と名づける一種の寡頭政治を發達させ、

この政權の極度の保護獎勵政策の温室のうちに、わが國の資本主義化が促成され、またこの政權の庇護の下に、資本主義化に必要な政商の大資本が培養された。かくて明治維新の政治的變革に端を發したブルジョア革命の運動は、そのエネルギーを喪失して早くも老衰し、金權と結託した寡頭政治を現出した。そして歴史がブルジョア革命をこれ以上に推し進めるためには、さらに一そう廣汎な社會層の動員を必要としたのであつた。

この必要な勢力は、維新の政變によつて特權的地位から解放された士族と名づける彪大な一種の失業群、變革によつて多くを酬いられた地主の階級、政權の配け前に漏れた諸藩の有力者、保守派の勝利によつて失意の境遇におかれた在野の政治家などによつて準備せられてゐた。ブルジョア革命が少數の政商の利害を代表する保護干渉政策と、金權と結託した寡頭政治とに停滯してしまつた現狀に不満を持つこれらの社會層の勢力が、フランス革命——典型的のブルジョア革命——を指導した思想と結合したものが、當年の自由民権運動であつた。

〔自由民権運動の妥協とブルジョア急進分子の勞働者運動〕 しかしこの時ヨーロッパでは、かつて自由平等の旗印を押し立て、中世紀的特權に向つて突撃してゐた階級は、それに代はつて完全に支配階級に成り済してゐた。そして『自由平等』はもはや現狀打破の標語ではなくなつて、勞働階級の『社會主義』が、それに代る現狀打破の標語となりつゝあつた。そこで歐洲文化のあらゆる産物を輸入す

ることに汲々としてゐた當時のわが國には、ヨーロッパの資本主義と、ヨーロッパの生産物と共に、ヨーロッパの文化と禮式と共に、そして自由平等の思想と共に、早くも『社會主義』と『社會黨』といふ言葉が輸入された。現に明治十五年には、東洋社會黨なるものが組織され、翌十六年には、社會黨にちなんだ『車界黨』の運動が起こされた。けれども實際には、この舶來品の性質と用途とは、彼らによつて眞實に理解されてはゐなかつた。わが國における社會主義運動の眞實の起原は、遙かに後年のことであつて、當時はたゞ、それが現状打破の運動であり、壯烈な革命的な壯圖であるといふ漠然とした感情から、現状に不満を持つ分子によつて共鳴せられたに過ぎなかつた。

東洋社會黨は明治十五年、肥前島原において、樽井藤吉、赤松泰助ら少數の同志によつて組織せられ、間もなく政府によつて禁止せられたが、これは、その頃高潮に達した自由民権運動の最左翼の運動であつた。當時、東洋社會黨の一黨員が官憲に提出した上申書の一節に、『儒、佛、及び西書等すべて道義を説くもの、悉く平等に歸せざるはなし、曾て太政官の告諭文中にも、上下を平均し人權を齊一にする云々の例あるも道義に基かれたるものにして、即ち社會主義なり……』とある一事によつても、彼らの『社會主義』がどのようなものであつたか分かる。

『車界黨』は自由黨の急進分子奥宮健之、大井憲太郎の抱へる車夫三浦龜吉らが、東京市内の車夫を糾合して起こした運動であつて、當時初めて敷設せられた馬車鐵道に反對することを直接の目的とした

ものであつた。當時、主として中流階級の知識分子を包容した改進黨が、代表的な政商岩崎の金權と結託した保守的勢力だつたのに對し、地方の不平等地主を主要な構成要素とした自由黨は、急進的な自由平等の主張をもつて金權政治に反對し、貧民の味方をもつて任じ、中流以下の社會層を味方とした。車界黨の運動はその性質において、決して社會主義的な運動ではなくて、産業革命の進行の途上にしぼ／＼見られる反動的な抗争に過ぎないものであつた。しかるに資本主義經濟の發展に對するこの反動的な抗争が、却つてブルジョア革命の進行——自由民権運動——の一つの勢力として動員せられてゐるところに、非常に興味がある。車界黨の運動は、何ら重要な効果をも残さなかつたが、ブルジョア革命の進行が、今やより廣汎な社會層にその動力を求めてゐることを物語る一つの挿話と見ることが出来る。

かうして社會的基礎を擴大し、そこから新たな推進力を得たブルジョア革命も、明治二十二年三月になると、欽定憲法の制定と國會開設の約束によつて、再び妥協に終らざるを得なかつた。かうして自由民権運動の退潮に取り残された急進分子の一部分は、絶望に陥入り、他の一部分は、社會の一番下層に喰ひ下がつてその支持を得ようとした。即ち明治二十五年には、大井憲太郎らは自由黨を脱して新たに東洋自由黨を組織したが、その政綱には『労働者保護』を標榜し、黨の別働機關として、『普通選舉期成同盟會』、『小作條令調査會』と共に『日本労働協會』なるものを組織した。當時これ

らの人々は、自由民権運動の思想から何ら離脱してはるなかつたし、その運動は自由民権運動の妥協に反対して、もつと向うまでこれを追求しようとする運動に過ぎなかつたが、同時に、従来の自由民権運動の指導者と、この運動の主要勢力をなした社会層とに失望し、一そう廣汎な、そして一そう下の方の社会層の勢力に據らうとしたものであつた。けれどもこの運動は、當年のブルジョア民主主義運動の停滞に對する反撥であつて、何ら重要な社会的役割を演ずる獨立の運動には發達しなかつた。東洋自由黨の存在は極めて短期間であつて、日本労働協會の手によつて二三の職別組合の組織を試み、千葉縣の一地方において農民運動を起さうとしたことを除いては、ほとんど効果ある運動をしなかつた。しかしこの運動は、それ以前の純然たる自由民権の政治運動と、それ以後に起らんとした労働者の組合運動との間隙をうづめる連鎖の性質を持つところ、興味がある。欽定憲法の制定と國會の開設によつて妥協に終らんとしたブルジョア民主主義の運動は、労働者と貧農とをこの運動に動員し、そこから新しい原動力を得なければ、もはやこの上進展せしめることが出来なかつた。それと同時に、單なる『自由民権』——政治上の民主主義——は或る程度まではこれを獲得し得たのであるが、その限りにおいては、政治上の民主主義が齎したところのものは、豫期に反してゐた。いはんや資本主義經濟の發達は、一日一日と、社會問題と名づける全く新規な問題を重要ならしめてゐた。かような形勢は、自由民権運動の急進分子をして、労働者の運動に轉向せしめた。彼らは、ブルジョア

ア民主主義運動と労働者の組合運動との中間に立つてゐた。彼らの企てた運動の特徴は、政治運動的な組合運動、組合運動的な政治運動であつた。即ち、労働階級の運動が組合運動(經濟運動)と政治運動とに分化する以前の原始的な運動の形を代表するものであつて、各國の歴史を見ても、労働階級が初めてブルジョア民主主義の運動に動員せられた時期においては、その運動は、概してかういふ形態を取つたのであつた。

〔社會主義思想の輸入〕 自由民権運動の早老と虚脱、達成せられた範圍内においての政治上の民主主義(欽定憲法と國會の開設)に對する失望、金權と結託した寡頭政治の依然たる優勢、經濟問題と社會問題の重大化——すべてこれらの事情の反映として、進歩的な學者と思想家の或ものは、もはやフランス流の政治上の自由平等論の一點張りに満足することができなで、當時ヨーロッパにおいて漸やく有力となりつゝあつた社會主義思想とその運動とに注意を向け、その研究と紹介とが、盛になつて來た。なかんづく徳富蘇峰の主宰した『國民の友』はこの方面に最も力を致し、絶えずヨーロッパの社會主義思想と社會黨の運動とを紹介したばかりでなく、その主張のうちには、明らかに社會主義思想の影響を蒙つたものさへもあつた。かような思想方面の運動は、現存秩序に反對する悲壯な運動として少數の急進分子からロマンチックな憧憬を拂はれてゐたにすぎなかつた社會主義と社會主義運動とに對する、内容的な理解を進め、かつ、これを普及せしめる上に効果があつた。



かように、今日ブルジョアが最悪の敵として怖れてゐる近代社會主義の思想的微菌は、當年のあらゆる歐洲舶來品——なかんづくブルジョア革命を推進するところのイデオロギーとなつた自由平等思想といふ輸入品——に附着して先づ日本に持ち込まれ、今日はブルジョアと反動との公然の擁護者となつてゐる人々によつてさへも熱心に宣傳せられたのであるが、それにも拘らず、當時、日本の社會經濟上の環境は、この微菌の繁殖に必要な條件を缺いてゐた。それ故に、社會主義は思想として紹介されたにも拘らず——或る場合には、ブルジョア民主主義を推進する手段と誤認せられて實用に供せられようとしたにも拘らず——何ら眞實に社會主義運動と名づくべきものを發生せしめるには至らなかつた。これに反して、フランス流の自由平等人権のブルジョア民主主義思想の方は、直ちに自由民權運動を實際に指導するイデオロギーとなつた。

ブルジョア革命は、必然に妥協に終らざるを得ぬ。明治二十二—三年の非妥協論者も、その究極の妥協を、數年または十數年の間延期したゞけであつた。

〔資本主義經濟の確立とブルジョアの勃興——二つの戦役〕 明治二十二—三年の欽定憲法の制定と國會開設によつて、自由民權の政治運動が一段落を告げると、この運動から復員せられた國民の活動力は、經濟上の方面に向けられた。

わが國の生産力は、封建的鎖國時代においても、ヨーロッパの産業革命の微かな餘波を受け、すで

に幾らかの部分的な發展を示してゐた。即ち佐賀藩の大砲鑄造、鹿児島藩の大砲鑄造、農具製造、造船機および榨油機製造、六千錘の紡績機械の輸入、水戸藩の石川島造船所建設の如きはその顯著な實例であつた。けれども封建制度は、生産技術の上のこれ以上の發展を阻止してゐた。

明治政府は、封建制度が生産の上に加へてゐたかゝる制限と拘束とを一掃したばかりでなく、ヨーロッパの先進國に倣つて、積極的にわが國産業の資本主義的發展を促進するために、進んで民業を保護奨励し、これがために先進國の苦心になる機械、技術、労働組織などを、計畫的に輸入した。最初は民間資本家（町人）には、進んで新事業に着手するだけの實力と經驗を持つものが少なかつたので、政府自ら經營したものが多かつた。

これは明治維新から十三年頃までの時期の特徴であつたが、この保護干渉政策の下に新興ブルジョアジーが漸やく成長した十三年の頃から、政府は多くの官營事業から手を引き、保護政策は主として民間事業への補助金交付、配當保證、國有財産や國有事業の無償または無償に近き拂下、獨占的營業權の賦與の如き形を取るようになった。

しかるに二十七八年の戦役は、わが國の商工業に異常な刺戟を與へた。即ち清國から受取つた三億六千萬圓の償金が企業資金の不足を補ひ、企業勃興の基礎となつたこと、わが國がいよゝゝ積極的に、帝國主義的な海外進出を試みたこと、そして朝野舉つて輸出獎勵政策に熱中した結果、日本

製品の海外販路が擴張され、これは農村の自給經濟が崩壊して商品經濟へ推移した、めに國內需要の擴大したこと、相俟つて、資本家的産業に取つての市場が、漸やく大量生産を消化し得るほどに擴大されたこと、勞働力に對する需要の激増によつて勞働賃銀が昂騰した、めに、勞働力を節約する機械の利用が促進せられたこと、獎勵法や關稅の設定による政府の資本家的産業保護の政策が確立して來たこと、最後に株式會社制度、社債制度が普及發達し、資本家の手に資本を集中する有力な方法となつたことなどによつて、あつた。かうして明治二十六年六月現在の株式會社は千三百三十五社であつて、資本金總額一億八百九十九萬圓であつたが、戦後の二十九年六月には千四百七十一社、資本金總額一億八千九百三十八萬餘圓となり、社數において三〇%弱、資本において七五%強の激増を示してゐる。資本金額の増加が會社數の増加の二倍以上に達してゐることにより、資本と企業の集積がいかに急速に進化したかを覗ひ知ることが出来る。金融業の方面でも、二十六年六月の銀行數百三十五、資本總額六千二百九十一萬餘圓は、三年後には千九百九十七行、この資本總額二億一千四百四十三萬といふ驚くべき増加となつた。

それと同時に、明治政府の家庭的な庇護の下に成長してゐた財閥的大資本の實力は、戰爭によつて初めて明白に承認せられるに至つた。この時まで、封建政治の遺産の一つとして、謂ゆる官尊民卑の思想は依然として有力に残つて居り、眞實の主人であり支配者であるべき新時代の資本家は、依然と

して舊時代の町人をもつて遇せられてゐた。ことに政府當路の人々から見れば、富豪資本家は、その恩顧の下にある御用商人の一種に過ぎなかつた。しかるに一度び戰爭が開かれてみると、戰爭の遂行と勝利との鍵を握つてゐるものは、大政治家ではなくてこれらの財閥大資本家だつたといふことが、明らかになつた。戰爭するためには、政府は先づこれらの財閥大資本家の批准を得なければならなかつた。そこでこれらの資本家の資本は、戰爭によつて益々大きくなり、その經濟上の支配力がいよいよ擴大したばかりでなく、それは新しい時代の眞實の主人であること、そして獨り經濟上の方面においてばかりでなく、政治上の方面においても、眞實の力の所在は、これらの資本と資本家階級であることが漸やく明らかになつた。資本主義の下におけるブルジョア階級の社會的、政治的地位は、この戰爭によつて初めて承認されたのであつた。

かように經濟上の事實においても、またこれに伴ふ意識狀態においても、わが國は二十七八年の戰爭を経て、著るしく封建社會の色彩を脱し、資本と資本家階級を中心とし、資本家的産業を中心とするところの、資本主義社會の性質と體裁とを整へてきた。

以上によつて知られるように、おくれればせに資本主義世界の舞臺に登場し、ことに外來勢力の刺戟によつて封建制度からブルジョア制度への變革の第一歩を踏み出したわが國の新興資本家階級は、何事につけても獨り立ちが出来ないで、事ごとくに國家權力の助けを必要とした。日本の資本家的經濟

は、國家の保護干渉の温床のうちに、促成的に發育せしめねばならなかつた。また、わが國が資本主義的に目醒めた時には、先進國の資本主義がその門前に立つてゐた——といふよりも、先進國の資本主義の壓力によつて、この門戸は開かれたのであつた。それ故に、わが國の資本主義的發達は、最初の第一歩から、優越的な先進資本主義の壓力を感じてゐた。そこで國家の保護干渉政策は不斷の必要であつて、わが國の資本主義の歴史には、自由放任主義が充分に開花した時期は殆んど存しなかつたと云つてよい。それは田口鼎軒のような經濟學者の主張に痕跡をとめてはゐるが、遂に、實際の政策を指導する支配的な思想とはならなかつた。そこでわが國の資本主義は、最初から帝國主義的な色彩を濃厚に帯びてゐた。日清日露の二つの大きな戦争が、日本の資本主義發達史の二つの大きな時期を劃する標木となつたことも、決して偶然ではなかつた。

〔近代的な勞働階級の形成〕 かうしてわが國でも、日清戦争前後において、ほゞ産業革命の時期を経過し、封建的な濃厚だつた社會は、大體において資本主義の黄金色に塗り替へられ、かつての町人は、近代ブルジョアの風采をと、のへて來た。けれども、前掲の數字に現はれてゐるような資本と企業との集積は、廣大な社會層をますます大規模にプロレタリア化することによつてのみ、行はれたものであつた。また商工業の發達と農村の自足經濟の崩壊とは、農民の生活を壓迫し、農業の支へ得る人口を相對的に減少した。しかるに一方、好景氣と企業熱とは、農村におけるこれらの過剩人口

を、新たに興つた工業が即時に吸収することのできる所要以上に、都會に吸引した。これは新興の工業に豊富にして安價な勞働力の供給を保證すると同時に、これらの勞働力の賣手に對する資本家の支配を確實にした。これに反して物價の騰貴、國費の膨脹、増税又増税による負擔の増大は、都會と農村とにおける下層民の生活を甚だしく壓迫した。

かくて二十七八年の戦役により、日本の資本主義經濟がいよゝく確立せられたといふ事實の反面は、すでに數量から見て相當に大きな近代勞働者の階級を生じたこと、そしてこの勞働階級が、國家の産業政策によつて掩護せられた資本により、ほとんど無制限な搾取を受けるに至つたことである。封建時代の手工業から轉化した家内工業組織が依然として支配的な生産形態だつた製糸、織物、染色、陶磁器、各種の工藝品製造のような産業では、いはゆる膏血制度なるものが行はれ、一般勞働者、ことに婦人や幼年の酷使が行はれてはゐるが、近代的な勞資關係は、まだ充分に成立してゐなかつた。しかるに綿糸紡績、機械織布、造船車輛その他の機械工業、セメント、硝子、煉瓦などの窯業、マッチ、製革、ペイント、人造肥料などの化學工業、麥酒、製糖、製粉業などには、小規模ながらも工場制度が行はれ、ことに従來わが國に手工業として發達してゐなかつた産業には、やゝ大規模の企業が現はれた。これらの産業部門では、既に近代的な勞資關係を生じてゐた。そして近代的な勞資關係の成立は、勢ひ、勞働者の自然發生的な抗争運動となつて現はれた。即ち、明治三十年には、

全国に互つて三十二件の同盟罷業が起り、翌三十一年には、四十二件に増加した。労働問題、社会問題は、當面の問題の一つとして、これを論議する聲が漸やく高まつた。かうして近代的な資本と労働の關係、ブルジョア階級の成長に照應する労働階級の成長は、新たな社会問題を提起すると同時に、この問題を挾んで資本家階級と労働階級の運動は漸次に分岐し、往年のブルジョア自由民権の政治運動から分離した獨立の労働者運動が発生し、従つてまた、労働階級の政治運動としての社会主義運動の種子の芽生えるべき土壤が用意されたのであつた。

〔労働組合運動の勃興〕 この時期における特筆すべき事柄の一つは、労働組合運動の勃興であつた。これより先き、明治十七年には、早くも印刷工の純職業的な組合の組織が企てられ、二十年には鐵工の組合が計畫されて一度び失敗に終つたが、二十二年にいたり、石川島造船所、陸軍造兵廠、海軍造兵廠、田中機械製造所、鐵道局の鐵工によつて同盟工進組合が組織せられた。この組合は「機械部職工（旋盤、鑄鑿、鑄製、煉鐵、木形、鑄物師）を以て組織し」「各工場主と約束を結び、雇主被雇主の關係を調理し、兩者の便益を謀る」ばかりでなく「漸次規模を擴張し、積立金凡そ金一萬圓に達するを程度とし、一の工場を設け、職工志願者の技術練習所とし、又組合員の被雇工場休工中の工場に供す」ることを目的としたもので、こゝには團體契約の思想と共に、生産組合による失業救済の思想が現はれてゐるが、組合はまもなく自滅した。二十三年には、活版印刷工同志會が成立した

が、これまた内証のために消滅した。かように、この時期に先だつても、既に一二の労働組合の試みが行はれたのであるが、ほとんど云ふに足る成果を残さなかつた。

これより先き、アメリカにおいて、日本人青年の一人は職工義勇會といふ團體を組織してゐたが、明治廿九年にはこの一團中の二三の青年が歸朝すると、彼らは翌三十年、東京に職工義勇會なるものを起した。在米時代の同志高野房太郎、その頃キリスト教社会主義の思想を携へて歸朝し、故國における運動に着手しようとしてゐた片山潜らもこの運動に加はり、織田純一郎、島田三郎、佐久間貞一、松村介石、日野資秀、村井知至、安部磯雄などといふ知名の人々もこの運動を援助した。職工義勇會は七十一名の會員を得、間もなく労働組合期成會と改稱し、組合運動促進のために各地を遊説し、同盟罷業を援助し、工場法制定のための運動などを行つた。この運動に刺戟せられて起つた労働團體には、組合員一千八百の鐵工組合(三十年)、日本鐵道會社の機關手四百名の罷業のあとに組織せられた會員一千名の日本鐵道矯正會(三十一年)、組合員二千名の活版工組合(三十二年)、東京船大工組合、東京馬車鐵道會社、車掌同盟期成會、料理人組合進德會などを數ぞへることが出来る。労働組合期成會の運動は、前年の大井憲太郎らの日本労働協會によつて僅かに暗示し前兆せられた新傾向が、一そう明確な形を取つて現はれたものであつて、さきの時期における労働運動組織の試みが、自

由民權運動の急進分子が新興の労働者階級に支持を求めんとする運動だつたのに反し、この時期における組合運動は、多くはキリスト教や社會主義の影響を蒙つた新人の後援によつて行はれたことも興味がある、かくてわが國には、初めてブルジョア政治運動から分離した労働者の經濟運動——即ち、組合運動——を見ることのできた。

同じく明治三十年には、大井憲太郎は大阪に大日本労働協會を起し、労働組合の促進を計ると共に、失業者に對する授産場、労働者子弟の教育機關、紡績工の寄宿舎、施療院、労働者の貯蓄銀行、職業紹介所などの設置を目的とする運動を開始した。労働組合期成會の運動は、労働者自身の團結によつてその境遇を改善しようとする自助共済の運動であつたが、大日本労働協會の運動には、なほ政治運動の色彩が多分に残つて居り、その主張は、主として政府または公共の力によつて、社會政策的施設を行ふことにあつた。

〔組合運動の凋落——十年の睡眠期〕 明治三十四年の春には、二六新報の主催により、日本労働者懇親會が開かれ、資木家官憲の妨害があつたにも拘らず、五萬の労働者が東京向島に集まつた。懇親會は、片山潜がその席上における演説のうちに労働者の希望として述べた五ヶ條を取つて、そのままこの集會の決議とした。

第一、吾等労働者は、政府に保護を要求しなくてはならぬ。

第二、吾等労働者は權利を伸張し得るために選舉權を得なくてはならぬ。

第三、吾等労働者は、幼年婦女子にして労働者たる人々の爲めに、政府の保護を求めてやらなくてはならぬ。

第四、吾々労働者は、教育を求めなければなりません。

第五、毎年四月三日労働者大懇親會を開かうであります。

しかし翌年の四月三日には、第二回の労働者懇親會を見ることはできなかつた。なぜならばこの労働者大會は、三十年三十一年に勃興した労働組合運動の最後の火花であつて、この時すでに、組合運動は沈衰の状態にあつた。労働組合期成會は、會員五千七百に達した明治三十二年を境として、衰退し、この時期に生まれた前記の有力な組合は、一年ないし二年の後には早くも頽勢を現はし、まもなく消滅した。

のみならず、日清戦後の著しい資本主義的發展と勞資關係の重大化とに刺戟せられた政府は、二十九年、早くも『職工の取締及び保護に關する件』を農商工高等會議に諮問し、ついで工場法の制定を企てた。この工場法案は遂に暗から暗に葬られたが、職工の『取締』の方面のみは、三十三年三月の治安警察法のうちに實現され、この法律の條項によつて、同盟罷業を合法的に遂行することは、ほとんど不可能となつた。かうした支配階級の警戒的な態度もまた、その後の組合運動の振はなかつた理由の少なくとも一つとなつたことは、疑ひがない。

その後の十年間は、わが國の労働組合運動史における殆んど空白のページであつて、たゞ活版工組合がいろいろに形を變へて存続したこと、一部の鑛山に組織運動の試みられたこと以外には、ほとんど見るべきものがない。

〔社會主義思想運動の發祥〕 労働者運動の勃興と同時に、社會主義の學術的研究を目的とする知識分子の運動が一定の組織をもつて生まれたのも、同じくこの時代であつた。即ち明治三十一年十月には、高木正義、河上清、豊崎善之介、岸本能武太、新原俊秀、片山潜、佐治實然、神田佐一郎、村井知至、幸徳傳次郎、安部磯雄、平井金三、杉村廣太郎らによつて、社會主義研究會が組織された。この團體は『社會主義の原理と、これを日本に應用するの可否とを考究する』ことを目的としたものであつて、必ずしも社會主義者の團體ではなかつた。ことに上記の會員の顔觸れによつて、當年の日本において、社會主義に最も早く且つ最も多く關心を持つたものが、如何なる種類の人々であつたかを知らることが出来る。

この研究會では如何なることが行はれ、また、それは如何に成り行いたかは、次の抜萃によつて窺ふことができる。

『會は毎月開會せり。初めは歴史講演より漸次に實際問題に及べり。予は岸本能武太氏がサン・シモンを述ぶるを聞けり。豊崎善之介氏がブルワドンを讀するを聞けり。河上氏が土地制度を講するを聞けり。佐治實然氏

が市政を談するを聞けり。而して予は謂へらく、此會や實に眞面目なる學者の淵藪にして、熱誠なる志士の集合なり。此會にして能く發達せば、日本思想界の一勢力、一明星たること、猶ほ英國のフェビアン協會の如くなるを得んと……斯くて社會主義研究會は一個の學術團體として二年有餘の命脈を保ちしも、後にはその事業の單調なるが爲め、會員多く倦怠の色を生じ萎靡して振はざるに至れり。』(幸徳秋水)

『會員は交互例會に於て、サン・シモン、フウリエー、ブルワドン、マルクス等の社會主義に就て講演を開き、特に實際問題を捉へて討論せしこともありき。此の如く社會主義研究會は殆んど二年間、全く研究的態度を執り、其會員中には社會主義を奉ずるものもあり、之に反對するものもありと云ふ有様なりしが、三十三年の暮に至り、活動的態度を取ると同時に社會主義者のみの團體を組織するの必要ありたるを以て、其名稱を社會主義協會と改め、社會主義者にあらざる者は其際に於て退會することとなりたり。然れども活動を試みんとて起りたる社會主義協會は僅かに三四十名の會員を有するに過ぎざりしを以て、未だ政治運動を開始すること能はざりき。』(安部磯雄『開國五十年』)

かようにわが國でも、資本主義經濟の確立と殆んど時を同うして、早くも社會主義を研究するための團體を生じ、やがてはこれらの人々は、たゞに團體内における研究に満足しないで、何らかの活動を思ふにいたつた。

〔この時期の特徴〕 この時期にいたつて現はれた著しい特徴は、さきにも述べたように、自由民権論の政治運動以外に、そしてこれらの政治運動に多かれ少なかれ労働者が動員せられたといふこと

以外に、全然別個の、労働者自身の運動としての労働組合運動が起こつたことであつた。即ち、労働者運動は政治的な色彩を帯びた運動から、経済上職業上の運動となり、かうしてブルジョア政治運動から獨立する方向を取つたのであるが、それと同時に、自由民権運動が現はしたような、急進主義的な情熱は、もはや労働者の運動には見ることができなかつた。現に職工義勇會は、アメリカ労働聯合會にならつた純然たる舊式の職業組合主義の運動であつて、その宣言は明らかに、「社會の進歩なるものは遅緩にして秩序ある者なるに、革命なる者は之に反して、急速突飛を要素とすることなれば、兩者の行道全然相反す……されば我輩は諸君に向つて、斷乎として革命の意志を拒めよ、嚴然として急進の行ひを斥けよ……と忠告するに躊躇せざる者なり」と云つてゐる。そして職工義勇會が、革命にかへて労働者に勧告してゐるものは、團結の力によつて職業上の利害を擁護するための「同業組合」を組織することであつた。これは獨り職工義勇會の特質ではなくて、この時代における労働者運動を一貫した方向であつた。そこでこの時期に、ブルジョア自由民権主義の政治運動から獨立した労働者自身の労働運動が起こつたといふ意味は、労働者の階級意識にもついた政治運動、即ち獨立した労働階級政治運動が起こつたといふことではなかつた。かうした労働階級の政治運動は、労働者がその利害を階級的に理解し、さらにこの階級利害が、多かれ少なかれ社會主義的に理解せられた時に初めて現はれるものであつて、それは明白に社會主義を意識した運動でないまでも、少なくとも

社會主義の方向を指した運動としてのみ考へ得られるものである。そこで、この時期にブルジョア自由民権主義の政治運動から獨立した労働者自身の労働運動が起こつたといふ意味は、労働階級の政治的な階級意識にもついた運動が起こつたといふ意味ではなくて、労働者自身の職業上の利害にもついた運動が起こつたといふ意味である。要するにこの時期の特質は、一方においては、ブルジョア階級は往年の急進的な性質を失つて、その自由民権運動は虚脱し、他方においては、労働階級はなほ政治的に自らを意識した階級として歴史の舞臺に登場せず、なほ獨立した労働階級政治運動が生れ出ないといふ状態であつた。さらにこの時期において、労働者の運動が労働組合運動として自由民権運動から分化したように、社會主義もまたこの時期において、自由民権思想から漸次に分離し、従つて自由民権運動からは獨立した別個の思想運動に發達した。かうした推移は、當時の社會主義思想運動の主要人物の上にも現はれてゐる。明治三十一年に社會主義研究會を組織した人々の多數は、もはや自由民権運動のうちに生まれた人々、そして自由民権思想の限界を突破して成長した人々、ないしはこの運動から落伍した人々ではなくて、その多くはアメリカに遊學し、新たな教養と共にキリスト教思想を携へて歸つた新人であつた。そしてユニテリアン協會の機關紙『六合雜誌』は、この新しい社會主義思想運動の機關紙であつた。

けれどもこの社會主義運動は、純然たる思想運動であつて、『未だ政治運動を開始することはできなかった』。この『思想』が労働階級と結合した時に、社會主義は初めて、政治運動としての近代社會主義運動となり、労働者の運動は、初めて階級的な政治運動となるのである。

## (2) 無産政黨以前——社會主義運動の發展

〔社會民主黨の創立〕 しかるに明治三十四年になると、『社會主義を日本に應用すること』を目的とする運動が、初めてわが國に現はれた。この年の四月、安部磯雄、片山潜、幸徳傳次郎、木下尚江、河上清、西川光次郎は初めて政黨の創立を協議し、こゝへて五月二十日、前記の六名は社會民主黨を組織して宣言を發表した。この宣言と、八ヶ條の理想および實際運動の綱領によつて、吾々はこの運動の思想的內容を知ることが出来る。

### 理想 (八ヶ條)

- (一) 人種の差別、政治の異同に拘らず、人類は皆同胞なりとの主義を擴張する事。
- (二) 萬國の平和を來す爲に先づ軍備を全廢する事。
- (三) 階級制度を全廢する事。

- (四) 生産機關として必要なる土地及び資本を悉く國有とする事。
- (五) 鐵道、船舶、運河、橋梁の如き交通機關を悉く之は公有とする事。
- (六) 財産の分配を公平にする事。
- (七) 人民をして平等に政權を得せしむる事。
- (八) 人民をして平等に教育を受けしめる爲に、國家は全く教育の費用を負担すべき事。

### 實際運動の綱領 (要目)

- 一、獨占事業を市有とする事。
  - 一、高等小學卒業迄を義務年限とし、其の費用を公費とする事。
  - 一、労働局を設置して労働に關する一切の事を調査せしむる事。
  - 一、日曜日の労働を廢し、日々の労働を八時間に制限する事。
  - 一、普通選挙を實行する事。
  - 一、公平選挙法を實行する事。
  - 一、死刑を全廢する事。
  - 一、貴族院を廢止する事。
  - 一、新聞紙條例を廢止する事。
- また宣言には、次の如き一節があつた。



「……貴族院が少数の貴族富豪を代表するは云ふ迄もなく、衆議院と雖も其の内容を分析すれば、悉く地主資本家を代表せるものに非ざるはなし。されば今日の國家を稱して富者の國家といふも決して誣言にあらざるなり。然れども記憶せよ、國家の大多數を占むるものは田島に鋤鋤を採る小作人、若くは工場に汗血を絞る労働者なることを。彼等は何故に参政の權を有せざるか。何故に自己の代表者を議會に送ること能はざるか。是れ果して彼等が無智無能なるためか。將た亦た富者に比して彼等の道德劣等なるが爲か。否々決して然らざるなり……」

『我黨は茲に多數人民の休戚を負うて生れたり。然れども貧民を庇つて富者を敵とするが如き狹量のものに非ず。而して其の志す所は我國の富強を謀るはあれども、然も外國の利益を犠牲にして顧みざるが如き唯我的のものに非ず。若し直截に其の抱負を言へば、我黨は世界の氣勢に鑑み、經濟の趨勢を察し、純然たる社會主義と民主主義に依り、貧富の懸隔を打破して全世界に平和主義の勝利を得せしめんことを欲するなり……』

この宣言と綱要とによつて知られることは、社會民主黨によつて豫期せられた運動は、それ以前の如何なる運動よりも、一そう明確な社會主義思想の上に立脚した運動であつて、わが國における社會主義運動の一進境を代表するものだといふことである。それはまた、過去數年間の、わが國における一團の社會主義者の『研究』の收穫を代表するものでもあつた。それと同時に、社會民主黨の行動綱領は甚だ具體的なものではあつたが、『宣言』や『理想』に言ひ現はされたところの、これらの綱領の基づく根本思想のうちには、マルクス以前の空想的社會主義と共通な人道主義と理想主義の傾向

が、自由平等論の音調と共に、なほ多量に残つてゐる。また社會民主黨の創立は、思想運動としての、教育的宣傳的な運動としての社會主義が、政治運動としての社會主義に一步を踏み出そうとする試みでもあつた。けれども、社會主義が眞實に近代的な政治運動となるためには、社會主義は労働階級の運動とならねばならぬ。しかるに社會民主黨は『多數人民』の休戚を負うて生れたものである。この運動とならねばならぬ。被搾取者階級たる『多數人民』自らの抗争たる性質を備へてはゐなかつた。これは社會民主黨の創立者の罪ではなくて、當年の労働階級のなほ幼稚な發達状態と、階級闘争の實際が何ら今日見るような進展を示してゐなかつた事實とを反映したものにほかならぬ。わが國の労働階級は、獨立の政治運動に着手するほどに、階級としての成長發達を遂げてゐなかつた。それ故に明治三十四年の社會民主黨創立の運動は、正確には、政治運動としての社會主義の發足と見るべきものでなく、實質においては、寧ろ社會主義思想運動の一節と見るべきものであつた。

社會民主黨は、時の政府（伊藤内閣）によつて即時に解散を命ぜられ、その宣言を掲載した諸新聞は發賣を禁止され、その責任者は罰金刑を科せられた。しかるに同年六月には、伊藤内閣が倒れて桂内閣がこれに代つたので、社會民主黨の創立者は、さらに日本平民黨の名稱をもつて再舉を試みたが、同じく解散を命ぜられた。

これより先き、社會主義研究會は三十三年に社會主義協會と改稱せられ、社會主義者のみの團體と

なつて存続してゐたが、社会民主党および日本平民黨創立の試みにより、政黨による政治運動への進出に當分望みのないことが明らかになつたので、一團の同志は再び社会主義協會による『教育傳道の方針』に立ち返ることをよぎなくされた。社会主義協會はなほ三年の間命脈を維持してゐた。この間協會は安部磯雄を會長とし、片山潜の發行した雑誌『労働世界』を『社会主義』と改題してその機關とし、茶話會、談話會、地方の『傳道』旅行などにより、やゝ活潑に社会主義思想の宣傳運動を行つた。

當時、社会主義協會のほかにも矢野文雄、田川大吉郎らの社会問題研究會、萬朝報社を中心とする理想園、大學教授らによる社会政策學會、普通選舉同盟會などの運動があつた。これらの運動は、もとより社会主義運動ではなかつたが、當時にあつては、多かれ少なかれ社会主義運動の側に近い運動であつて、現にその中には當時の社会主義者が参加してゐたし、ことに當時一般世間からは、これらの運動は、社会主義運動とほとんど同一に見られてゐた。

かゝる状態は、當時の階級關係を正確に反映したものであつた。新興の資本主義の内部における階級の分化は、まだ尖鋭に行はれてゐなかつた。そしてイデオロギーの上でも、當時の社会には廣大な中間地帯が存してゐた。これらの中間地帯には、寧ろ社会主義に對する同情の空氣があつた。その如く當年の社会主義者もまた、これらの中間地帯を支配したイデオロギーから、まだ全くは脱却して

ゐなかつた。

この前後に現はれた著書には、安部磯雄の『社会問題解釋法』、幸徳秋水の『社会主義神髓』、矢野文雄の『新社会』、片山潜、西川光次郎の『日本の労働運動』、神戸正雄の『十九世紀の社会主義運動』、幸徳秋水の『帝國主義論』、福井準造の『近世社会主義』などがある。これらの著書によつても、社会主義思想の内容が、さきの時代に比して遙かに豊富となり明確を加へたことが窺はれる。

〔日露戦争とわが國の資本主義〕 對支戦争によつて飛躍の道の開かれたわが國の資本主義は、爾後十年間の發展の歸結として、第二の關門に達した。即ち、滿洲におけるロシアの勢力との對峙であつた。帝政ロシアの帝國主義は、絶えずヨーロッパを威嚇してゐたように、日本をも、その北方から壓してゐた。帝國主義的發展を生命とするわが國の資本主義は、滿洲において、必然にこの反對勢力と當面したのであつた。

〔平民社運動とその思想〕 この時、社会改革を標榜する『理想園』運動の本城たる新聞『萬朝報』には、幸徳秋水、河上清、斯波貞吉、堺利彦らが筆を執り、社会主義的色彩が濃厚であつた。對露戦争の危機が切迫するや、社長黒岩涙香は人道主義の立場から、内村鑑三はキリスト教的平和主義の立場から、幸徳、堺らは社会主義者として、いづれも『萬朝報』に據つて開戦に反對した。けれどもいよく開戦の間際になつては、この平和運動の本城も、高まりゆくシヨウヴィニズムの大波にさら

はれ、『萬朝報』はその態度を一變して主戦論となつた。明治三十六年十月八日は、ロシアの滿洲撤兵第三期日であつて、避くべからざる開戦は目睫に迫つてゐた。同夜、社會主義協會は神田青年會館に非戦演説會を開き、幸徳、堺はその席上において『萬朝報』退社の議を決し、十二日の朝報紙上にこれを發表した。

『萬朝報』を退いた幸徳、堺は平民社をおこし、十一月十五日をもつて『平民新聞』と名づける週刊新聞を創刊した。まもなく石川三四郎、西川光次郎もこの運動に加はつた。片山潜はこの年末に再びアメリカに去つたので、社會主義協會の本部は平民社に移され、協會の運動も、おのづから新興の平民社を中心とする活動に吸収された。

三十七年一月、いよく對露戦争が布告せられると、『平民新聞』は全國に捲き起つた好戦熱の渦巻きの中から『吾人は飽くまで戦争を否認す』と題する社説によつて、敢然として戦争反對の第一聲をあげた。日露戦争の間を通じて、『平民新聞』は勇敢に戦争反對の態度をつゞけると同時に、大小の演説會、婦人講演會、社會主義研究會などを開き、小冊子を發行し、かつ地方に遊説した。その結果『平民新聞』の讀者を中心として、諸地方に讀者會、研究會が起り、同年七月には、『平民新聞』の直接購讀者の數は、千四百名となつた。

かくて三月二十七日發行の『平民新聞』第二十七號は、『嗚呼増税』と題する社説のために、最初の裁判事件を惹き起し、堺利彦は發行人編輯人として禁錮二ヶ月に處せられた。堺の下獄は、わが國において、社會主義運動のために處刑せられた最初の記録であつた。

それより先き、三月十三日の『平民新聞』は、『與露國社會黨書』を掲載して、交戦國ロシアの同志に呼びかけた。こえて八月、阿姆斯特ダムに開かれた國際社會黨第六回大會には、日本の同志を代表してアメリカから列席した片山潜が、この國際的な壇上で、ロシア社會民主労働黨の代議員ブレハノフと握手して劇的光景を演じた挿話と共に、右の論文は、國際社會主義運動に記念せらるべき文獻となつた。

三十七年十一月十三日の『平民新聞』はその創刊一週年を記念するために、第五十三號の全紙面をさげ、マルクス・エンゲルスの有名な『共產黨宣言』の最初の邦譯を掲載した。またこの日を期し市外瀧の川に園遊會開催の企てをした。『平民新聞』第五十二號はその社説のために發賣を禁止され、西川、幸徳の二名が起訴せられたが、第五十三號もまた『共產黨宣言』のために發賣禁止を命ぜられ、西川、幸徳、堺の三名は告發され、同時に官憲は園遊會を禁止し、かつ社會主義協會の解散を命じた。翌三十八年一月、『平民新聞』は第五十二號に對する裁判により、發行停止の一审判决が下された。この裁判の確定に先だつて、『平民新聞』は一月二十九日の第六十四號を終刊號として、自發的に廢刊を宣言した。

かくて一年二月の短い期間ではあつたが、わが國の社會主義運動史を通じて、ほとんど前後に比類のないセンセーションを惹き起し、そして最も熱烈な殉道者の氣分によつて行はれた『平民社』運動が、いかなる思想によつて指導せられてゐたかは、創刊號にかゝげられた次の如き宣言によつて知ることが出来る。

- 『一、自由平等博愛は、人生世にある三大要素也。
- 『二、吾人は人類の自由を完からしめんが爲に平民主義を奉持す。故に門閥の高下、財産の多寡、男女の差により生ずる階級を打破し、一切の壓制束縛を除去せんことを欲す。
- 『三、吾人は人類をして平等の福利を享けしめんが爲に社會主義を主張す。故に社會をして生産、分配、交通の機關を共有せしめ、其の經營處理一に社會全體の爲にせんことを要す。
- 『四、吾人は人類をして博愛の道に盡さしめんが爲に平和主義を唱道す。故に人種の區別、政體の異同を問はず、世界を擧げて軍備を撤去し、戰爭を禁絶せんことを期す。
- 『五、吾人既に多數人類の完全なる自由、平等、博愛を以て理想とす。故に之を實現するの手段も亦た國法の許す範圍に於て多數人類の輿論を喚起し、多數人類の一致協同を得るに在らざる可らず。夫の暴力に訴へて快を一時に取るが如きは、吾人絶對に之を否認す』

こゝでも全思想の基調は、お馴染みの自由平等博愛である。この運動の主要目標であつた戰爭反對にしても、そのうちのどれだけが帝國主義戰爭に對する社會主義の立場から行はれた結論であつて、

どれだけが人道主義的ないしはキリスト教的平和主義によつて鼓吹せられたものであつたかは、甚だ疑問であつた。宣言は生産手段の公有と、社會全體のためにその社會的利用を主張した點において、明らかに社會主義的ではあつた。けれども考へ方全體は、科學的社會主義の考へ方ではなくて空想的社會主義の考へ方であつた。のみならず、この宣言に言ひ表はされてゐる範圍内に限つて見れば三十四年の社會民主黨の宣言綱領に言ひ表はされてゐるところよりも、思想的には一步の後退を示してゐると云ふことさへもできる。要するにこの宣言に現はれてゐる全思想は、往年の自由平等論とキリスト教的人道主義との合流に、僅かに社會主義思想を接ぎ植したものにほかならぬ。ことにこの時、一方においては『共產黨宣言』の重要性に着目されかけてゐたかの如く見えるにも拘らず、なほこの宣言においても、これ以前の社會主義思想においてと同じように、唯物史觀的な考へ方の影は、ほとんどまだその痕跡さへも表はしてゐない。また階級闘争には、何らの意味も認められてゐなかつた。宣言は階級打破を主張してゐるが、階級そのもの、概念も、近代社會主義からの概念ではなくて、寧ろブルジョア自由平等論からの概念であつた。このことは、當年の社會狀態においては、資本主義社會の特徵たるブルジョアジーとプロレタリアとの階級の分化と階級の對立は、なほ充分に行はれてをらず、これに反して、封建社會から承継した社會的地位の不平等の方が、寧ろ前景を占めてゐた事實を反映する。この事實は、三十四年の社會民主黨の綱領が、獨占事業の公有、勞働局の設置、八

時間労働等を擧げてゐるにも拘らず、その宣言においては、立法機關のブルジョアの性質を指摘するに當つても資本家地主と云はないで、『地主資本家』と云ひ、國民の多數者たる被搾取大衆について、先づ第一に『田島に鋤取を取る小作人』を擧げてゐることに、明白に現はれてゐた。プロレタリアといふ言葉は、當時のわが國では、まだ『平民』といふ概念しか與へなかつた。これを要するに、當年の社會主義者は、わが國の資本主義制度がこの時早くも露出し始めてゐた幾多の社會的缺陷を見せつけられてはゐたが、この資本主義制度から社會主義制度への推移の動力となるべき現實な勢力は、彼らの周圍には尙ほ求めることが出来なかつたのであつた。

明治三十七八年の『平民社』運動が、自由民権思想から變形した社會主義的傾向と、キリスト教のうちに育まれた社會主義的傾向との二つの要素の混合を代表したことは、當時この運動の中心とその周圍に立つた人々の人的要素の配合の上にも、或る程度までは現はれてゐた。當時『平民新聞』を支持し、これに執筆した人々には伊藤銀月、細野猪太郎、片山潜、金子喜一、田岡嶺雲、村井知至、野上啓之助、小泉策太郎、安部磯雄、齋藤綠雨、木下尚江、斯波貞吉、平福百穂、小川芋銭、中里介山、大石誠之助、山口義三、白柳秀湖、久津見藤村、杉村廣太郎らがあつた。

〔社會主義運動の一新時期〕 しかしながら『平民新聞』によつて、社會主義的思想運動が初めて全國的な運動となつた——といふことが出来ないなら、少なくとも、その種子は全國的にふり撒かれた

と云ふことができる。社會主義的思想は、もはやこれまでのように、首府東京における少數の知識分子の集團の間に、云はゞその研究室のうちに培養せられてゐるものではなくなつた。多くの地方には社會主義的傾向をもつた『同志』の小中心が起こつて地方的に活動し、『平民新聞』はおのづからこれを聯結する中央機關紙の形となつた。この種の地方的な小團體には、早稻田社會學會、横濱平民社、下關社會主義研究會、神戸平民俱樂部、土佐平民俱樂部、丸龜平民黨、北總平民俱樂部、福岡平民新聞讀者會、大阪同志會、岡山いろは俱樂部などを算ぞへることができた。すべてこれらの團體の名稱が示してゐるように、『平民』は、この時期における運動の合言葉であつた。當年の社會主義者は、その運動を、『平民』階級の運動として理解したのであつた。そして平民は、前資本主義社會における被支配階級を表はす言葉であつた。

『平民社』運動が、わが國における社會主義運動に一新時期を劃したもう一つの重要な事實は、この時以後、社會主義の運動が、初めて連続した歴史となつたことである。これ以前にも、社會主義的傾向をもつた運動は、孤立した出來事としては幾度びも起こつたが、そのあとには、何らそれを繼承し、それを發展せしめる運動をも残すことなくして、消滅した。もちろんそれらの運動は、そのあとに何らかの影響を残したには違ひない。けれども嚴密には、それらの運動は連続した流れではなくて一つの泡沫であり、成長し發展してゆく一つの運動ではなくて、孤立した偶發的な事實であつた。こ

の意味において『平民社』運動は、初めてわが國における社會主義運動史の第一頁を書きおろしたものであつて、それ以前の運動は、その序言に過ぎなかつた。

『平民新聞』の廢刊は、實際の運動には何らの變化をも齎らさなかつた。同志は依然として平民社を維持し、『平民新聞』に代はる週刊新聞『直言』を發行して、その運動を繼續した。

三十八年の總選舉には、木下尙江を社會主義候補として選舉運動を試み、三十二票を得た。またこの頃、山路愛山、斯波貞吉、中村太八郎らは國家社會黨なるものを組織して多少の運動を試みたが、この運動は、社會主義運動史のその後の時期には、ほとんど何らの影響をも残さなかつた。また樋口勘次郎は『國家社會主義』なる一書を著し、茅原華山は『新社會主義』なるものを提唱した。

〔社會主義思想の最初の分化〕 しかしながら、三十七八年の社會主義運動を構成してゐた種々なる思想の混合物は、この時漸やくその結合力を失ひ、分化の作用を始めてゐた。

七月には、幸徳秋水は五ヶ月の刑を終へ、九月には、西川光次郎は七ヶ月の刑期を終つて出獄した。この時、平民社の中心には、幸徳、堺、西川、石川のほかに、木下尙江が加はつてゐた。三十八年十月九日、平民社はこれらの人々の合議により、自發的に解散した。解散の理由は、財政の窮迫がその一つであり、これらの人々の私的關係が圓滑を缺くに至つたことも、その一つであつた。けれどもこの私的關係が圓滑を缺いた有力な理由の一つは、自由民權思想から來て唯物論的傾向に進んだ堺、幸徳

らと、キリスト教から來た人道主義的||理想主義的社會主義者たる木下、石川(社外には、同じ傾向を追ふ安部磯雄があつた)らとの間に、思想上に隔たりのあつたことに歸しなければならぬ。もちろん當時にあつては、この二つの思想傾向は、哲學の上において、または社會主義の方法論の上において正面から衝突したと云ふよりも、寧ろ主として、私的生活に對する態度の相異となつて現はれた。平民社解散のあとには、三つの新運動が起つた。西川光次郎は山口義三と共に凡人社を起し、半月刊雑誌『光』を發行した。『光』は『日本勞働者機關』『普通選舉運動の急先鋒』『印半天雜誌』『凡人主義の新聞』を以つて自任した。

石川三四郎は、木下尙江、安部磯雄らと共に新紀元社を起し、月刊誌『新紀元』を發行した。『新紀元』はキリスト教社會主義、理想主義的||精神主義的社會主義を標榜して、マルクス主義の唯物論に反對し、政治運動に疑ひを持ち、政黨運動を『俗悪』な運動として斥ぞけた。徳富蘆花が『新紀元』を援助したことによつても、この傾向の性質を知ることが出来る。

平民社解散の翌月、幸徳はアメリカに出發し、堺は翌年三月、月刊雑誌『社會主義研究』を創刊した。この雑誌はわが國において、社會主義の理論的研究を目的とした最初の雑誌であつて、僅かに五號を重ねたに過ぎなかつたが、マルクス・エンゲルスの『共產黨宣言』の全譯、エンゲルスの『空想的社會主義と科學的社會主義』の反譯を初めとし、多くの研究資料を供給して、社會主義思想の内容の

充實に貢献した。

平民社運動の分解したあとに残された三つの運動の第一は、後年の『現実的』ないしは改良主義的傾向を代表し、第二のものは、哲學的無政府主義の傾向を代表し、第三のものは、やゝドグマティックな性質によつて大衆から孤立した『正統的』マルクス主義を前影した。

〔日本社會黨〕 明治三十九年の一月には、武斷内閣をもつて知られた桂内閣が倒ふれ、そのあとには、比較的リベラルな西園寺内閣が出現した。そこで翌二月、西川光次郎、樋口傳らは、試みに『普通選挙の期成を圖るを目的とす』といふ簡単な綱領を掲げた『日本平民黨』の結社を届け出たが、政府はこれを看過した。

ついで堺利彦、深尾詔らは『日本社會黨』の結社を届け出た。日本社會黨は、『社會主義の實行を期す』といふ綱領を掲げたにもかゝらず、政府はこれに對しても、何らの干渉をも試みなかつた。そこで日本平民黨は日本社會黨に合併し、二月二十四日をもつて第一回の大會を開いた。この大會には三十五名の同志が参加した。大會は黨の機關として片山潜(不詳) 堺利彦(記者) 西川光次郎(記者) 加藤時次郎(醫師) 竹内余所次郎(藥劑師) 齋藤兼次郎(金庫職人) 樋口傳(骨董商) 岡千代彦(活版業) 森近運平(元官吏) 山口義三(記者) 田添鐵二(不詳) 幸内久太郎(幹職) の十三名を評議員に選舉し、九ヶ條から成る簡単な黨則を定めたが、黨則第一條には『本黨は國法の範圍内に於て社會主義を主張す』と規定

せられてゐた。かくて初めて、わが國に社會主義の政黨が公認され、まもなく全國に二百名の黨員を得た。

この時、東京市街電車料金値上げの問題が起こり、諸方面から反對の氣勢が舉がったが、日本社會黨は山路愛山らの國家社會黨と提携して反對運動を起こし、四月十一日、日比谷公園に第一回の市民大會を召集し、十五日には第二回の大會を催した。大會解散後の群衆は自然の示威行列となつて市街鐵道會社および東京市役所に殺到し、西川光次郎ら十名の日本社會黨員は兇徒嘯衆罪として檢擧された。この出来事は、わが國において、社會主義の運動が、民衆の日常生活の問題に關聯した實際運動として展開された最初の機會だつたと共に、社會主義者が街頭の運動のために處刑せられた最初の記録でもあつた。

〔直接行動か議會政策か〕 この間アメリカに遊んでゐた幸徳秋水は、三十九年六月に歸朝し、翌七月、片山潜は三度びアメリカに去つた。幸徳の歸朝を機會として、日本社會黨は神田錦旗館に演說會を開いた。幸徳は『世界革命運動の潮流』なる題下に、この演壇から、在米中に變化を蒙つた彼の思想——議會政策を排して労働階級の直接行動を主張する彼の最近の思想を公表した。幸徳の思想は、五年前の著書『社會主義神髓』に現はれたドイツ流の社會主義から徐々に推移してゐたが、いまこの急速な變化によつて、明らかに無政府主義への轉向を取つた。

幸徳の宣言は、日本の社会主義運動の前に、全く新たな問題を提起したばかりでなく、運動のその後の発展の上に、重大な影響を與へたものであった。

社会主義と社会主義運動とに關する思想は、日露戦争前後の時期にいたつてや、明確さを加へて来たことは、さきにも述べたとほりであつた。それと同時に、日本の社会主義運動の内部に、思想上の分派の起る徴候は、平民社解散の當時、すでに著るしく現はれてゐた。そしてこの傾向は、その時以來、發展をつゞけてゐた。

平民社の解散後、西川、山口は『光』を發行した。西川は啓蒙と通俗とに最も重きをおき、出來得るかぎり思想の水準を引き卸して大衆に近づかうとした。この限りにおいて、この方針は正しかつた。そしてこれはまた、彼の識見とその性格とに基づくものでもあつたらうが、同時に、彼の理論上の理解が不十分だつた結果でもあつた。このことはやゝもすれば、彼をして無理論、無原則な日和見主義に墮せしめた。かくて吾々は、日本の社会主義運動における改良主義的傾向の淵源とそのタイプとを、早くも西川（後には片山、西川）において見たのである。けれども西川の入獄中は、『光』は主として堺森近、荒畑勝三らによつて執筆編輯された。堺は、正統マルクス主義をもつて任じてゐた。そこで實際には、『光』は、正統マルクス主義からの改良主義の分化を代表するには至らないで、暫らくこの二つの要素を包容しつゝ、主として石川、木下、安部のキリスト教社会主義と對峙した。かくて『光』

による堺と、『新紀元』による石川らと、ならびに『獨立評論』による山路愛山との間には、當時、唯物史観、階級闘争などについての論争が行はれた。極めて少數の個人間において、しかも甚だ幼稚なものではあつたが、この種の理論上の闘争の行はれたことは、この時期にいたつて初めて現はれた事象であつた。また『光』の紙上では、社会主義對無政府主義の關係が初めに問題となつたことも、注意に値ひする。

かように社会主義運動内の思想上の分野は、漸次に鮮明となりかけてゐた。そこで日本社会主義の創立に當つても、唯物論的傾向に反對し、政黨の運動を俗悪として排斥する石川三四郎は、入黨しなかつた。木下尚江は名目だけは黨に加入したが『精神上的の變動が起つた』ため、まもなく脱黨して、信仰の古巢に立ち返へつた。その後『日刊平民新聞』の計畫にも、石川は参加を躊躇した。それにも拘らず、社会主義者が議會行動を取るといふことについては、當時は、ほとんど何人も疑ひを挿さんでゐなかつた。現に政黨の運動を俗悪として斥けた石川らの『新紀元』でさへも、大真面目で普通選挙制度の實施を當面の要求に掲げて、少しも不思議としなかつた。そこで幸徳の新宣言は、全社会主義者に大なる衝動を與へざるを得なかつた。

爾來この問題は、少數の人々の間に熱心に論議し考究せられてゐたが、翌四十年二月の日本社会主義第二回大會の期が近づくにつれ、それはいよいよ當面の問題となつた。幸徳は二月五日の日刊『平



「平民新聞」の紙上に『余が思想の變化』と題する論文を發表して、議會行動を排して専ら直接行動を取る彼の立場を再説し、これに對して、堺は十日の紙上に、『社會黨運動の方針』を論じて議會行動と直接行動との併用を主張し、田添鐵二は十三日十四日の兩日に互つて、直接行動を排して『議會政策論』を主張した。

これより先き、幸徳、堺、西川、石川、竹内兼七の五名により、『平民新聞』と題する日刊新聞の創刊が計畫され、四十年一月十五日その第一號を發行した。これと同時に『光』と『新紀元』とは廢刊せられ、一度び分派として對立しかけてゐた諸要素は、日刊新聞の創刊といふ新たな感激のうちに再び融合した。日刊『平民新聞』は今日にいたるまで、わが國の無産者運動の持ち得た唯一の日刊新聞であつて、いかに全國同志の熱情の的となつたかは想像するにたたくない。不幸にしてこの最初の日刊新聞は、極度の財政難、假借なき政府の彈壓、發賣禁止と裁判事件の繰出のために滿身創痍、存続わづかに四ヶ月、第七十五號をもつて廢刊した。

直接行動を主張した幸徳の論文が『平民新聞』に現はれた前日の二月四日、當時全社會の耳目を聳動した足尾坑夫の大暴動が勃發した。前年來、南助松、永岡鶴藏らは、足尾銅山に大日本労働至誠會をおこして鑛夫の組織に努め、しばしば會社に對して賃銀値上げ待遇改善の要求を試みたが、容れられなかつた。二月四日、労働至誠會の影響下にある一千二百の鑛夫は一齊に起つて電信線を切斷し、電燈

を消し、爆彈を投じて工場、事務所、社宅を襲撃して焼き拂ひ、倉庫を占領し、三個中隊の軍隊の出勤によつて漸やく鎮定した。

平民新聞特派員西川光次郎もまた檢擧され、平民新聞社は煽動の嫌疑によつて家宅搜索を受けた。この事變は全社會に異常なショックを與へ、支配階級の心膽を寒からしめた。人々は日本社會黨と足尾の暴動とを結びつけようとした。そして日本社會黨に對する時の政府の寛容的な政策は、政界の陰謀に利用され、謂ゆる西園寺内閣『毒殺』の用に供せられたと云はれてゐる。

組織と訓練のない労働者の鬱積した不満と反抗が暴行となつて所々に現はれたことは、當時の著しい傾向であつた。足尾鑛夫の暴動後まもなく、四月には、北海道幌内炭山の坑夫が賃銀値上げを要求して放火破壊を行ひ、六月には、四國の別子銅山の鑛夫が労働條件に關する不満から暴動を起し、第十一師團の出兵を見た。

〔日本社會黨第二回大會問題——彈壓來る〕この物情騒然たる形勢のうちに二月十七日、異常な緊張をもつて、日本社會黨は第二回大會を開き、六十餘名の代表者が參加した。大會は先づ黨則を改正し、舊黨則の第一條を、『本黨は社會主義の實行を目的とす』と改めた。次に、評議員會提出の決議案が議題に上げられた。

### 決議案

『我黨は現時の社会組織を根本的に改革して生産機關を社会の公有となし、人民全體の利益幸福の爲に之を經營せんと欲する者なり。我黨は此目的を持し、現時の情勢の下に於て左の件々を決議す。

一、我黨は労働者の階級的自覺を喚起し、その團結訓練に勉む。  
一、我黨は尾尾労働者の騷擾に對し、遂に軍隊を動かして之を鎮壓するに至りしを遺憾とし、之を以て甚だしき政府の失態なりと認む。

一、我黨は世界に於ける諸種の革命運動に對し、深厚なる同情を表す。  
一、左の問題は黨員の隨意運動とす。

イ 治安警察法改正運動

ロ 普通選挙運動

ハ 非軍備主義運動

ニ 非宗教運動

この原案に對し、田添鐵二は、決議の第二項として、『我黨は普通選挙を以て有力なる運動方法の一なりと認む』といふ一項を加へ、後段の隨意問題から(ロ)を削除する修正案を提出し、幸徳は決議の冒頭『我黨は』の次に、『議會政策の無能を認め、専ら』の一句を挿入し、同じく後段の(ロ)を削除する修正案を提出し、兩派の間に白熱した論争が交へられた。直接行動の主張者も議會政策の主張

者も、おの／＼その立場から、しば／＼足尾の事變における最近の経験に言及した。かくて田添案二票、幸徳案三二票、評議員會案二八票をもつて、大會は妥協的な原案を採用することによつて、黨は僅に分裂を免かれた。

この大會の記事を載せた二月十九日の『平民新聞』は、幸徳の演說筆記のために發賣禁止となり、編輯人發行人は朝憲案亂をもつて起訴せられ、こえて二十日、政府は日本社会黨の結社を禁止した。

わが國における最初の社会主義黨は、滿一年の間存在を許るされた。かつて三十六―七年度の『平民社』運動によつて、全國的に芽生えた社会主義的分子は、三十九―四十年の日本社会黨によつて一つの中心に結び合はされた。けれども日本社会黨の登録された黨員は、僅かに二百であつた。その中には極く少數の、一個人としての労働者を見出だすことは出来たにせよ、日本社会黨に對して、労働階級は何らの興味をも關心をも現はさなかつた。地方黨員の多數は、むしろ中流または中流下層に屬する比較的知識のある青年であつた。それと同時に、わが國における最初の社会主義研究者や先驅者の名は二三の例外を除いては、もはやこの運動のうちには見る事ができなかつた。このことは、社会主義運動の性質に、漸次變化の起つてゐたことを物語つてゐる。

〔社会主義運動における二分派の形成〕 日刊『平民新聞』廢刊後の四十年六月、森近運平は大阪に『大阪平民新聞』を創立し、同時に西川光次郎はそのころ再びアメリカから歸つた片山潜と共に、東

京において『社会新聞』を發行した。この兩新聞の對立は、舊平民社の解散前後に萌ざし、日刊『平民新聞』と日本社会黨との時期を通じては表面的には阻止せられ、しかも底流においては進展しつゝ、あつた分派の傾向が、一そう具體化したものであつた。日本社会黨の紐帯が破れると、その跡に對峙したものは、この二つの新聞によつて代表せられた二つの傾向であつた。『大阪平民新聞』には幸徳、堺らが主として筆を執り、その紙面には直接行動論、革命的社會主義、または無政府主義的傾向が濃厚であつた。これに反して西川、片山の『社会新聞』には田添鐵二らが協力し、議會政策主義、改良主義的社會主義の傾向が明確であつた。『大阪平民新聞』はまもなく『日本平民新聞』と改題し、當時における左翼の全國的機關紙の趣きを呈したが、裁判事件のために、翌年五月に廢刊した。『社会新聞』もまた翌四十一年、醜くき内訌のために分裂し、西川は新たに『東京社会新聞』を起こして片山の手に残つた『社会新聞』に對抗したが、まもなく入獄のために廢刊し、『社会新聞』はなほ五年の間、片山の手によつて、改良派の機關として繼續された。

四十年六月には、西川、田添らは『日本社会黨』の結社届をしたが直ちに禁止され、翌四十一年一月、片山は鈴木橋夫と共に『平民協會』の届出でをしたが、これもまた同じく禁止された。左翼側では幸徳、堺らは金曜會を組織し、専ら講演會茶話會などの小集會による宣傳運動を行つた。かように日刊『平民新聞』以後の運動は全く二つの分派に岐かれ、その間には激烈な抗爭が行はれ

た。當時の右翼が、直接行動論に對して議會主義を主張したことは前述の通りであるが、左翼との抗爭は一そう彼らを右傾させ、その主張は、純然たる改良主義、社會政策主義、ないしは階級協同主義に近づいた。これに反して當年の左翼分子は、改良主義に對する革命的傾向の一點においてこそ一致してゐたが、必ずしも同一の主張をもつてはゐなかつた。堺は理論上においては、常に右翼と、當時の極左翼たる無政府主義的傾向との中間の立場に立ち、正統的なマルクス主義の擁護にとめたが、實際の行動においては、常に極左分子と行動を共にし、彼らと共に當時の左翼を形造つてゐた。のみならず、當時はこの左翼的傾向が、壓倒的に優勢であつた。大杉榮はラテン系思想の影響の下に、最も早くから、明確に無政府主義の理論を持つてゐた。この點では、大杉は幸徳の先輩であつた。幸徳が『思想の變化』を宣言するまでには、彼はかなり長い間の思索を積んだ。ことにアメリカ滞在中の接觸範圍が、主として、實際運動の戦線に立つ無政府主義者であつたことは、その思想の轉向に有力な影響を及ぼしたものであつた。しかしながら、幸徳の直接行動論に共鳴した青年の多くは、必ずしも幸徳と同じ思索の骨折りをしたものではなかつた。何ら大衆との接觸がなく、大衆的な運動の觀念すらもなかつた者に取つては、××の手段として直接行動を採用することは、議會政策を弊履の如く棄て去ること、全く同様に、極めて容易簡單なことであつた。恐らくは多くの青年のうちには、××を遂行するためではなく、自らがより××的であることに満足するために、何らの困難

もなしに最も××的であり得る直接行動論に左祖したものが少なくなかつたらう。議會政策對直接行動の問題は、もと／＼戦術上の問題であるが、大衆運動のないところでは、眞實には戦術上の問題はあり得なかつた。従つて當時は、この戦術上の問題をめぐる抗争は、實踐とは全く引き離された、純然たる思想上の問題として展開された。日本社會黨が禁止され、社會主義者の運動が、再び純然たる思想上の運動に押し込められた結果は、一そうこの傾向を助けるものであつた。そして實踐の羈絆から全く解放された多くの熱情的な青年は、一そう容易に、左へ左へと觀念的に進んで往つた。その結果は、この抗争に携はつた人々の意識を、或る意味では高める効果があつた。けれども、それと同時に、これらの人々をして、自分自身の意識の高められてゐる過程が、現にその周囲において進行しつゝ、ある社會の客觀的な××の過程であるかの如く考へる笑ふべき錯覺に陥らしめた。當年の理論上の闘争と、この闘争における左翼の優勢とは、わが國における社會主義運動の本流を、改良主義への偏向から防衛した點では大なる功績があつたと同時に、それは大正十年の『方向轉換』を必要とするような形勢を順致した一つの要因ともなつた。

これに反して、マルクス主義の正統を守らうとした人々にあつても、マルクス主義に關する理解は極めて不十分であつた。當時の左翼的傾向の間では、正統のマルクス主義思想は、むしろ無政府主義思想のために壓倒せられてゐた。日本社會黨の解散後、まもなく、幸徳は宿痾のために郷里に退き、だが、當時幸徳と堺の間には、今後、日本社會黨第二回大會の決議（直接行動議會行動併用）に基いて協力するといふ協定が行はれた。しかしこの協定は、充分に守られなかつた。そして『日本平民新聞』は、純然たる直接行動派の機關であるかの如き光景を呈してゐた。

かように日本社會黨の解散後における分派の對立は、改良主義と漠然たる革命主義的傾向との對立であつた。この時期において先づ明確に分化したものは、改良主義の分派であつて、これに對立した左翼的傾向が、明確に無政府主義の陣營とマルクス主義の陣營とに分化するためには、その後の十年を必要としたのであつた。平民社解散のあとには、唯物論的傾向とキリスト教的傾向との對立を見た。しかるに日本社會黨解散後の時期には、キリスト教的傾向は、もはや分派問題の前景から姿を消してゐた。四十年の夏には、英國獨立労働黨の創立者ケヤ・ハーディーが來朝した。一八九三年、獨立労働黨が組織せられた當時、エンゲルスは全心的にこれを支持し、マルクスと自分とが待ち望んでゐた無産階級の政黨は、まさにかうした政黨であると語つたといふハーディーの談話は、左右兩翼の抗争の機會ともなつた。この夏、十日間に亘つて社會主義夏季講習會が開かれた。

四十一年六月、同志の入獄出獄を送迎するために、神田錦輝館に社會主義者の會合が開かれた。またま反對派に對する無政府主義者の示威的計畫は、集會の散會後、謂ゆる『赤旗事件』を惹き起こし、堺、大杉、荒畑ら十名の同志は、一年ないし二年の處刑を受けた。かくて中央における運動が麻

痺状態に陥つたばかりでなく、地方においても、官憲の極度の干渉壓迫のために、社会主義者の活動はほとんど休止した。

この時(四十三年の夏)晴天の霹靂の如く、突如として『大逆事件』なるものが起こり、幸徳秋水以下十一名の同志は死刑に、その他の十二名は無期懲役に、他の二名は長期の懲役に處せられた。

大逆事件の結果、従来公刊せられてきた社会主義に關する出版物もことごとく禁止となり、社会主義者の新聞雑誌は徹底的に彈壓され、集會の自由は全く奪はれた。そのころ東京の或る古本屋の店頭には『昆蟲の社会』と題する古本のあるのを發見し、警官が驚いて押収して往つたといふ話柄によつても、當時の状況を想像することができる。かくて日本全土に亘り、社会主義運動は全く熄滅したかの觀があつた。

〔嵐のあとの静寂——分派の發展〕 堺 荒畑、大杉らは四十三年の秋に出獄したが、もとより何らの活動の餘地をも與へられなかつた。大正元年九月、大杉 荒畑は雑誌『近代思想』を創刊し、主として文藝思想上の問題を批評した。大正三年九月にいたり、實際運動に進出するために、『近代思想』を廢刊して新たに『平民新聞』を發行したが、初號以來ことごとく發賣禁止となり、六號をもつて廢刊した。そこで大正四年十月、彼らは再び『近代思想』を再興し、政治問題時事問題を論じたが、これまた禁止の連續のために廢刊をよぎなくされた。

これより先き、堺は大正四年九月から雑誌『新社会』を發行し、社会主義運動の『小きき旗上げ』を試みた。『新社会』は主として堺 高島素之らが筆を執り、マルクス主義を標榜したが、『近代思想』は無政府主義的傾向を代表した。かつてキリスト教的傾向と唯物論的傾向とに分れたのが國の社会主義運動の分派は、議會政策論と直接行動論によつて改良主義と××主義的傾向との對立に發展し、さらに當年の××主義的傾向のうちに包容せられてきた無政府主義的傾向とマルクス主義的傾向との分化は、今や『近代思想』と『新社会』との對立によつて、初めて運動の分野の上に具體化されかけたのである。

しかるに大杉 荒畑の運動が、文藝思想上の運動から、實際運動の方向に進展しようとするに従つて、この二人の協力者の思想の差異は、漸やく前景に現はれた。そして荒畑と分離した大杉は、雑誌『文明批評』を創刊し、後には和田久太郎らと『労働新聞』を出した。荒畑は近藤憲二らと『青服』を創刊した。前者は無政府主義の立場を取り、後者はなほ著るしくサンデカリズムの影響を蒙つてゐるが、専ら労働組合運動の促進と團結權罷業權獲得の煽動に力を集中した。この二つの傾向の刊行物のいづれもが、純粹に労働者を目標として現はれたことは、すでに運動の一轉機を暗示してゐるものであつた。

堺は四十三年に出獄するや、同志のために生活の道を開く目的で『賣文社』なるものを創立したが、

賣文社は「新社會」の發行所ともなり、後にはおのづから社會主義運動の「中心」となつた。しかるに大正七年になると、賣文社の内部に「一種の暗流」が生じた。即ち高島素之らの一團は一種の國家社會主義を唱道し、「新社會」は彼らの主張する「皇室中心社會主義」運動の機關の如くになつた。

この時、歐洲戦争の末期から直後にかけての世界の形勢に促がされ、わが國にも自由主義的「民主主義」的な思想が勃興し、福田徳三、吉野作造らの如き當時の進歩的な學者により、黎明會の運動が起された。しかるに他方には、陸軍中將佐藤綱二郎らの帝國主義者軍國主義者は老壯會を組織し、帝國主義を有効に遂行する手段として、重要産業の國有などを含む國家社會主義的な政策を取り入れた主張により、黎明會の民主主義的運動に對抗した。この新興の民主主義的機運に對する態度の相異は、やがて賣文社を中心とする一團の人々の間における二つの傾向の、根本的に對立した性質を物語つてゐた。ブルジョア民主主義と社會主義との間には、何らの共通點がない、しかるに老壯會の運動は、よき主張においては、少なくとも社會主義的であるといふ點で、根本的な共通點がある。かういふ見地から、國家社會主義の傾向を取る人々は、ブルジョア民主主義の運動に對して、老壯會の運動と結びうとした。これに反して、マルクス主義を固守する堺らは、老壯會の國家社會主義の本質を反動主義としか見なかつた。彼らはブルジョア民主主義の運動を、進歩的な意義をもつものとして歓迎した。た

だ彼らの間には、或る者は、マルクス主義者は新興の民主主義的運動のうちに滲透しなければならぬといふ見解を取り、他の者は、マルクス主義の立場からこれを批判しなければならぬと主張した。翌八年二月、堺は賣文社を解散し、山崎今朝彌らと共に「社會主義研究」を創刊した。

皇室中心社會主義者の一團は、機關雜誌「國家社會主義」を發行すると同時に、独自の運動を起したが、何らの反響を見なかつた。當時社會主義者の一團は、依然として一般大衆から隔離せられてゐた。そして社會主義者が非常な勇氣をもつて舊套を打破せぬ限り、社會主義運動は依然として、大衆と融和せぬ少數の思想運動として、いつまでも、社會的に有力な運動に發展する希望も萌さしも見えなかつた。しかるに日本の社會状態とこれを反映した一般人心の奥底には、一種の動搖不安が流れてゐた。そこには何らかの形で、大衆的な動きの起らんとする豫感があつた。皇室中心社會主義の新運動は、社會主義者の從來の獨善的な態度に對する不満、新たな形勢を前にしての煩悶、この形勢に棹さゝんとする希望にもとづいてゐた。この限りに於いて、この新たな試みは、社會主義運動が大衆化しようとする新たな動向の一つを代表するものではあつた。けれども「皇室中心」といふ標語が、忽ちにして社會主義運動を大衆に結びつけるであらうといふ豫想は、見事に裏切られた。そして社會主義と大衆との握手は、全く別個の通路によつて行はれた。皇室中心社會主義の運動は、少なくとも當時においては全く失敗に歸し、同志は四分五裂してしまつたが、その後のファシスト運動

を前觸れしたものとては、注目に値する。

これより先き、大正五年の總選舉には、賣文社を中心とする社會主義者は塚を候補者にして、宣傳の目的をもつて選舉運動を試みたが、政見發表演説會はことごとく中止解散を命ぜられ、得票は僅かに四十五票であつた。

九年の初めには、労働團體とブルジョア急進分子との提携によつて、普通選舉獲得運動が起された。大阪、神戸では普選期成關西労働聯盟の主催の下に、東京では全國労働聯盟の主催の下に、示威運動が行はれた。

### (3) 轉換の時代

〔歐洲大戰とその影響〕 ヨーロッパの大戦が勃發すると、交戦各國の支配階級は、この未曾有の戦争を遂行し、この空前の大破壊から滅亡の運命を免がれて出て来るためには、労働階級の犠牲と協力を必要とした。戦争はもはや單なる武力の戦争ではなくて、産業の戦争なることが明瞭になつた。戦争を成功的に遂行するためには、産業機構の圓滑な運轉の持續せられることが、絶對の必要條件であつた。そこで彼らは、いはゆる舉國一致を得るためには、労働階級に對していろ／＼の政治上の讓歩

をなし、いろ／＼の經濟上の讓歩を約束した。これらの讓歩は、一面から見れば、支配階級が労働階級の援助を得るための讓歩であり、また一面から見れば、労働首領を帝國主義に買収するための代價でもあつた。けれどもいづれにせよ、ヨーロッパ各國における労働階級の社會的地位はそのために向上し、その政治勢力は著るしく増大した。いはんや聯合國側では、この大屠殺の名目は「弱小民族の自治とデモクラシーの擁護」であつた。大正六年三月には、ヨーロッパにおける反動勢力の牙城たるロシアの帝政が倒れてブルジョア・デモクラシーの治世が始まり、十一月には、プロレタリアの革命が成功した。かくて全世界に漲ぎつたデモクラシーの波は、戦争が終末に近づくにつれて高潮に上り、五ヶ年間の大破壊によつて資本主義機構の解體した箇所では、それは労働者××に發展し、または發展しようとした。

かような形勢は、勢ひわが國にも影響せざるを得なかつた。民主主義思想とその運動の勃興は、この影響の一つであつた。警察政治の重苦しい壓力の下に窒息せしめられてゐたわが國にも、いくらかの新鮮にして自由な空氣が動きだし、明治四十三年以來の久しい冬眠のうちにあつた社會主義運動も、いくらかは身動きのできる状態となつた。大逆事件のあとは、たゞ「社會主義」といふ言葉を用ひることさへも、極めて困難であつた。そこで大正七年に高島素之が、「社會主義と進化論」と題する著述を刊行しようとした時にも、發賣禁止の危険を冒して、思ひ切つてこの標題を選んだほどであつた。

労働組合運動の勃興も、その影響の一つであつた。けれども、すべてこれらの形勢の根柢には、歐洲戦争が生みだした經濟上の根據があつた。

歐洲大戦によつて、わが國の資本主義は初めて成熟した。開戦の初年には、わが國の經濟界は不況の影響を蒙つたが、まもなく交戦諸國における生産能力は不足を告げ、世界市場の大なる部分において、先進資本主義國の商品は著るしく競争力を減少した。そこで大正二年には六億三千万圓だつたわが國の輸出貿易は、大正五年には一躍、十一億に上り、八年には二十億を突破した。

かうしてわが國の資本主義は、國內市場の基礎から世界市場の基礎の上に置き替へられた。この間に、戦前（大正二年）には一萬五千四百六つた會社数は、戦後（大正八年）には二萬六千二百八十となり、その拂込資本は十九億八千三百萬圓から、五十九億七千五百萬圓となつた。また事業計畫資本高は大正二年末の三十八億から八年末の百三十三億となり、大正三年には一割四分六厘の利益率を示してゐた工業會社は、大正五年には四割二分二厘、六年には六割四分四厘の利益をあげてゐた。これらの數字は、この期間において、資本の蓄積が如何に急速に進行してゐたかを物語つてゐる。職工十人以上を使用する工場數も、戦前の一萬五千八百から戦後の二萬三千八百となり、その職工數は、百十萬から百四十萬に激増した。

戦争に刺戟せられたこの好景氣は、資本家の懐に、戦時の非常的な利潤を累積しつゝあつた。好

景氣は特殊な熟練工の收入を著るしく増加したばかりでなく、一般労働者にとつても、少なくとも労働の機會が充分に與へられる利益があつた。のみならず、名目上の賃銀も騰貴した。けれどもこの騰貴は、好景氣に促がされて農村から都會に流入するおびたしい労働力の供給によつて抑制せられたばかりでなく、好景氣を煽つてゐる物價騰貴はそれ以上の速度で進行して、労働者の生活を壓迫した。しかるに非常時の利潤を収めてゐる資本家に取つては、労働者の些々たる要求には讓歩して、その生産を続け、さらにこれを擴大することが利益であつた。かような形勢は、世界思潮の影響と相俟つて、労働運動の勃興を促がした。そこで戦前（大正二年）には僅かに四十七件だつた同盟罷業は、開戦後（大正八年）には四百九十七件となり、参加人員は五千人から六萬三千人に激増し、労働組合の數は、大正二年の六組合から、大正八年の七十一組合に増加した。同盟罷業の激増は大正五年に始まつてゐるが、労働組合が飛躍的に増加したのは、三年後であつた。このことは、労働者の一時的偶発的な闘争が、漸次に組織せられるに至つたことを物語つてゐる。

〔労働組合運動の勃興〕 明治三十年代に一時的に起こつた労働組合が泡沫の如く消え去つたあとには、労働組合運動と名づくべきものは残つてゐなかつた。かくて大正七―八年にいたるまでは、労働組合は孤立した事實としては稀には存在してゐたが、労働組合運動は存在しなかつたと云つてよい。たゞこの間に特筆すべきことは、大正元年に、鈴木文治が十數名の労働者と共に、後年の労働總同



盟の前身たる友愛會の組織運動に着手したことであった。創立當時の友愛會は、友愛、修養、地位改善を目的として、種々雑多な職業の間から會員を集めた労働團體であつて、労働組合の組織形態を備へてゐなかつた。友愛會は、創立の一年後には千三百名の會員を得、歐洲戦争初年の不況に伴ふ労働不安の時期を経て會員を倍加し、大正五年には、會員は一萬に達し、六年には三萬を突破した。友愛會は大正八年の第七週年大會において、大日本労働總同盟友愛會と改稱し、あらゆる職業の労働者を地方的に集めた従来の組織を、職業別組織に改める方針を決定すると同時に、大會の宣言は、従来の協調主義から階級闘争主義への著るしい轉向を示した。爾來十数年の間、労働總同盟は、わが國における組合運動の主流をなしてゐた。

大正八年は、大正五年以來いたる所に展開されてゐた労働者の闘争が、初めて恒常的な組織を持つに至つた年であつて、たゞに東京ばかりでなく、大阪、神戸、京都、中國、九州の諸地方に、すさまじい勢ひで組合が簇生した。

九年三月には、わが國の資本主義は、戦後まつ先きに、大恐慌の波に洗はれた。事業は急速に收缩し、労働の不安は増大した。けれどもこの時は、ともかくも生産を繼續することが資本家にとつて有利であつた好況時代のように、もはや労働者は、資本家をして容易にその要求を容れしめることは出来なかつた。そこで同盟罷業の数は前年の四百九十七件から二百八十二件に減じたばかりでなく、

漸次に労働者側の守勢的な争議に移つていつた。

労働組合もまた、もはや前年の勢ひで量的發達を續けることはできなかつた。資本家側の抵抗が増大すると、組合運動の現在の實力の不充分なことが證據立てられた。争議はますます深刻となり、しかも勝利の機會はますます少なくなつた。そこで組合運動者の注意は、組合運動の量的發達から、質的發達に向けられた。大正八年にやゝ亂雑に、量的に勃興した労働組合は、大正九年には、主として質的に整理された。即ちこの時期において、(一)多くの泡沫的な組合(たとへば大正八年の國際労働會議への最初の労働代表選定問題のために急造された藤籠組合の如き)が姿を消したことが、(二)労働組合の内部組織の上に著るしい整理と進歩とを見せたこと、(三)さらに進んでは、全組合運動を統一する全國的組織が初めて問題となつたこと、(四)組合運動における意識が飛躍的に發達したことなどは、『量から質へ』の著るしい特徴をなしてゐる。

この年初めて東京において、十五労働組合および社會主義思想團體の参加によつて、最初のメーデーが舉行され、治安警察法第十七條の撤廢、失業防止、および最低賃銀法制定要求の決議を行つた。このメーデーの舉行が機會となり、東京における九組合の参加によつて、永続的な聯合の機關、労働組合同盟會が組織された。ついで大阪でも、十三労働團體の参加によつて、關西労働組合聯合會が成立した。

大正八年九年の時期における著しい特徴は、第一に、それはもはや個々の労働組合が起こつたといふことではなくて、これらの労働組合の間には、多かれ少なかれ有機的な関係が成立し、互ひに作用し作用せられつゝ、連続した一つの労働組合運動を形成するにいたつたことである。第二には、一方には日常闘争の體驗により、他方には世界思潮の影響の下に、組合労働者の階級意識が著るしく發達したことである。階級協調の思想に代はつて、階級闘争の思想は漸次に労働大衆に受け容れられ、組合はますます、共済團體たる性質を棄て、純然たる闘争團體への方向を取り、明確にか不明確にか、資本主義の否定と賃銀制度からの解放は、労働組合運動の究極の目標として承認せられて來た。労働階級の意識に見た著るしい發達が、ロシア革命を尖端として世界に漲ぎつてゐた××的形勢の影響によるものであつたことは、云ふまでもない。大正六年のロシア革命の意義は、この頃にいたつて、漸次に消化せられ始めたのであつた。

第三には、この時期にいたつて、わが國の労働階級は、急速に社會主義の方向に動いて來た。けれども精密には、労働組合運動における先進分子を支配してゐたものは、サンチカリズムの思想的傾向であつた。この傾向は、一方には労働階級の政治運動、特に議會行動の否定となつて現はれ、他方には、一切の改良的な要求の否認となつて現はれた。かくて普通選挙權獲得運動、治安警察法第十七條撤廢の要求、團體交渉權獲得などの運動が否認せられたばかりでなく、甚しきに至つては、八時間

労働制を要求することの可否さへもが、組合の大會において問題となつたのは、この時期であつた。かうしたサンチカリズムの影響と、觀念的氣分的な××主義の傾向とは、わが國の組合運動のその後の時期にまで多くの損害を残したが、それと同時に、當時にあつては、サンチカリズムの反政治的傾向が、ブルジョア自由主義の政治的影響からわが國の組合運動を遮斷し、または急速にその影響から分離せしめる上に役立つたことを認めなければならぬ。

〔社會主義同盟の創立〕 吾々は以上によつて、明治年間から歐洲大戰後にいたるまで、労働組合と社會主義の運動について、その推移のあとを辿つた。そして何人もが見落し得ぬことは、この二つの運動は大正七八年のころに至るまで、ほとんど何らの關聯も交錯もない並行線として進んで來たといふことである。労働組合運動と社會主義運動とは、この時まで、一方が労働階級の經濟運動であつて、他方は同じく労働階級の、政治的な運動であるといふ風には理解せられてゐなかつた。

もちろんこの間にも、社會主義者は階級闘争の理論を説き、社會的變革の過程における労働階級の任務を、少なくとも理論の上では充分に解してゐた。けれどもかうした階級としての労働階級的作用を、どのようにして發展せしめるかについては、彼らは殆んど理解しなかつた。労働組合に對しては、マルクス派の社會主義者は、ちようどイギリスにおいてハインドマンらが労働貴族化した熟練工の組合に對して取つたのと同じような懷疑的な態度を取り、これに對して労働組合の指導者は、白眼をも

つて社会主義運動を眺めてゐた。かうして二つの運動の間には、何らの影響も交換されなかつた。しかるに大正七年にいたると、形勢は漸やく變化した。

七年の五月一日の夜、東京における舊來の社会主義者十數名が集まつてメーデーの小集會を開き、わが國において、初めてロシア革命を支持する決議を行つた。八月には全國各地に米騒動が勃發した。この事變は、一般大衆の思想に著しい影響を與へた。この時、社会主義運動の更生は、まだ一定の形を取つて現はれるには至つてゐなかつたが、その機運はいたるところに醸成せられてゐた。何人も、新しい黎明の近づきつゝ、あることを感知した。そして社会主義運動の内的發達には、この時すでに、次のような著しい特徴を看取することができた。即ち第一には、社会主義運動の社会的基礎が、さきの時代よりも遙かに擴大されたことである。そこで若し、社会主義運動が更生するならば、この擴大せられた基礎の上に更生しなければならぬといふことであつた。明治三十七年の平民社運動この方、社会主義運動は幾度びか伸びようとしたが、その都度に、政府の極度の彈壓によつて根こそぎにされた。けれどもその跡には、また新しい芽を吹いた。そして更生の度びごとに、運動は多かれ少なかれ新しい勢力を加へて再生した。けれども大體において、それは寧ろ伐り倒された古株が再び芽を吹き出した形であつた。しかるに大正七八年の時期における社会主義運動復活の機運は、大いに性質が異つてゐた。それはたゞに古株が新芽を吹き出すのではなくて、全く新しい地面に、しかも到る所に、

新しい種子が芽を吹き出そうとしてゐるものであつた。

第二には、社会主義運動と労働組合運動とが、初めて相觸れるに至つたことである。この新傾向の動きは、大正七年における大杉らの『労働新聞』と荒畑らの『青服』においても敏感に反應せられてゐるが、その後主として無政府主義的傾向をもつた分子によつて組織せられた『東京労働運動同盟』は、知識分子と労働組合の急進分子との協同の運動であつた。大正八年に荒畑らによつて組織せられた『労働組合研究會』に集つたものは、労働組合運動における當年の先進分子であつた。その後荒畑は大阪において『日本労働新聞』を發行し、L・L會を組織したが、この運動に参加したのも多くは組合労働者であつて、そのうちから、後年の多くの有力な組合指導者を生み出した。

九年の初めには、労働團體とブルジョア急進分子との提携によつて、普選獲得運動が起こされ、東京では全國労働聯盟の主權の下に、大阪では普選期成關西労働聯盟の主權の下に、おのゝ活潑な示威運動が行はれた。この運動は、一時はブルジョア急進分子の指導の下に、労働者の政治運動を發展せしめるかのように見えた。けれども間もなく運動は凋落し、労働組合は急進ブルジョアの政治的影響に對して、再びその門戸を閉鎖した。ことに普選運動反對の火の手は、まづ東京における労働總同盟の内部からあげられたのであつた。

すべてかような形勢を綜合して具體化したものは、大正九年—十年の『日本社会主義同盟』であつ

た。同盟は舊來の社會主義運動のあらゆる分派を糾合すると同時に、廣汎な範圍にわたる新要素と、労働組合運動の先進分子指導分子を包容し、わが國における社會主義運動の上に全たく新たな一時期を展開したばかりでなく、わが國における無産階級運動の歴史に、全く新たな一頁を書き卸したものであつた。大正九年九月五日、三十名の發起人によつて初めて社會主義同盟の計畫が發表せられるや、創立趣意書と規約草案とが直ちに頒布を禁ぜられたにも拘らず、二ヶ月の後には、全國にわたつて一千名の加入者を得、四ヶ月後には、加盟者の數三千に達した。十二月十日、同盟は政府のあらゆる妨害を冒して創立大會を開いたが、大會は直ちに解散を命ぜられ、多數の同盟員は檢舉された。翌十年五月九日、同盟は第二回大會を招集し、この大會もまた解散を命ぜられ、多數の犠牲を出した。つゞいて政府は、日本社會主義同盟を政治結社と認め、その解散を命じた。

社會主義同盟は、故意に長引かした準備期を加へても、僅かに一年に満たぬ短かい存在ではあつたが、その意義は永く消滅しなかつた。久しく別々に流れてゐた社會主義運動と労働組合運動とは、同盟によつて初めて一つの組織のうちに交錯した。社會主義によつて、労働組合運動は初めて、自ら意識した労働階級の運動となることができる。これに反して自ら意識した労働階級の無い社會主義運動は、畢竟、少數知識分子の思想運動にとゞまつてゐる。この二つの要素の相觸れた一點こそ、労働階級の政治運動としての社會主義運動——ブルジョアジーの政治的影響から獨立し、そしてこれ

と對峙した労働階級政治運動——の出發點なのである。かういふ意味で、吾々は「大正九年——十年の社會主義同盟において、わが國における無産階級の獨立した政治運動への眞實の第一歩を見たといふことができる。吾々は明治三十九年の日本社會黨において、無産階級政治運動を先き觸れする前驅を見た。大正九年——十年の日本社會主義同盟は、わが國における先無産政黨時代の終りであると共に、無産政黨時代の始まりであると云ふことができる。

社會主義同盟は、政黨の形態を取らなかつた。社會主義同盟が政黨として生れなかつたのは、一つには、政治結社としての解散命令を回避するためであり、一つには、無政府主義的傾向とサンヂカリズムの傾向をもそのうちに包容する必要のためであつた。けれども、それはまた、たま／＼當時の形勢と條件とに適合した組織形態でもあつた。

〔無政府主義と共産主義の對立〕 社會主義同盟により、わが國におけるあらゆる傾向と色彩との社會主義的要素は、同盟の一大貯水池に合流した。しかるに同盟の解散を轉機として、これらの流れは、再びそれ／＼の方向と進路を指して動きはじめた。なかんづく最も主要な二つの流れは、無政府主義および無政府主義的サンヂカリズムの傾向と、精密な意味での社會主義——即ちマルクス主義または共産主義——の傾向との分化であつた。この分化は、二つの事情によつて促進された。その一つは國際的な事情であつて、世界的な規模における階級闘争の形勢は、この分化を促がした。ロシアに

おけるプロレタリア革命の成功と経験とは、マルクス主義と無政府主義サンヂカリズムとの間の多年の論争を、實踐によつて一舉に決算したものであつた。

もう一つは國內的の事情であつて、社會主義運動と労働組合運動とが接觸し、社會主義運動がもはや少数の『社會主義者』の思想運動ではなくて、少なくとも或る程度までは、大衆的な政治運動たる本然の性質を帯びて來るにつれ、當面の實際上の問題と實際上の行動について、この二つの傾向の差異はますます顯著となり、ますます具體的になつてきた。無政府主義對マルクス主義の問題は、わが國においても十數年以前、社會主義運動の内部における論争の題目となつた。爾來この二つの傾向は、常にわが國における社會主義運動のうちに存してをり、社會主義同盟以前の時期においても、すでに分派の形を成してゐた。けれども社會主義運動が主として思想運動の限界内にとゞまつてゐた間は、無政府主義とマルクス主義との間に理論上の根據においてどのような相異があるかを論究することも、漠然たる社會主義といふ包括的な名稱の下に、この二つの傾向が協力を續つけてゆく上に大なる妨げとならなかつた。たとへば資本主義社會が崩壊したあとには、人々の労働時間に應じて生産物が分配せられる状態が出現するか、それとも人々の必要に應じた分配の行はれる状態が出現するか、政治の無い状態が出現するか、それとも無産階級の政治的支配の時期が現出するか——等々といふような問題は、それが現在の行動のプログラムを立てる基準となる時にこそ眞剣な問題となるのである。

が、現在の實踐を離れた問題それ自身としては、いかに熱烈な討論の題目とならうとも、あとでは笑つてお仕舞ひとなり得る問題であつた。

しかるに社會主義同盟解散後の時期になると、この二つの傾向の分化は、全く性質の異なるものとなつた。今やこの二つの傾向の前には、國際的にも國內的にも、具體的な問題が提出せられてゐた。そしてこの問題に對する具體的な答によつて、この二つの傾向は鋭く對立したのである。ことに同盟解散直後の時期においては、この具體的な問題は、主として組合運動に關聯した問題であつた。無政府主義者ないしは無政府主義的なサンヂカリズムの信奉者は、労働階級の究極的な解放の要求以外は一切の部分的な要求を、改良主義的要求として排斥したが、共産主義者は、労働者の日常生活の利害のためにする一切の闘争を重要視した。無政府主義者とサンヂカリストは、革命的な少数者のヒロイズムに重きをおき、共産主義者は、大衆的な階級勢力の結成に重きをおいた。前者は労働組合を、究極において、労働階級の先進分子の思想團體に變質せしめようとし、後者は労働組合を、最も廣泛にして包容的な、労働大衆の組織たらしめようとした。従つて無政府主義者とサンヂカリストは、改良主義的な労働組合に對して、無政府サンヂカリスト的な意味において『革命的な』左翼組合を對立させようとし、共産主義者は、すべての労働者を一つの組織に統一しようとした。組合の組織原則について、後者が集中主義を取るに反して、前者は自由聯合主義を主張した。かようにこの二つの流

れは、まづ労働組合運動の領域において最も尖鋭に對立し、大正十一年の労働組合總聯合の運動において、遂に正當衝突を行つた。

〔労働組合統一の運動、二大傾向の決戦的衝突〕 これより先き、大正九年の恐慌を轉機として守勢に陥入つた労働階級は、過去数年間の闘争によつて獲得した陣地が、資本の攻勢によつて漸次に奪還せられてゆくを見た。これは勢ひ、組合運動の戦線統一の必要を痛感させた。かように大正九年に始まつた『量から質へ』の運動は、今や組合の聯合體の形成となつて現はれてゐた。當時、組合運動の主要な分野は、労働總同盟に對して、主として東京における反總同盟系の組合からなる關東労働組合同盟と機械労働組合聯合會 大阪における反總同盟系組合による關西労働組合同盟とが對立した。大正八年の勃興期以來、労働組合運動の先進分子は、多かれ少なかれサンヂカリズムの影響を蒙つてゐたが、總同盟は最も早くこの影響から脱し、共產主義の影響がこれに代りつゝあつた。のみならず、當時、共產主義者のグループは、労働總同盟を中心勢力として、わが國の労働組合運動の全國的統一を實現しようとする一定の方針を追求してゐたのであつた。これに反して、謂ゆる反總同盟系の聯合體は、いづれもサンヂカリズムの傾向が有力であつた。

大正十一年には、組合運動の全國的總聯合の組織計畫が、總同盟と組合同盟とのおの／＼によつて進められ、九月三十日、その創立大會が大阪において開かれた。この大會において、労働總同盟と反總聯合の計畫も空中に爆破し去つた。

總聯合の計畫は、もと／＼純然たる労働組合の問題ではあつたが、實際には、當時における無政府主義サンヂカリズムと共產主義との全勢力がこの問題を中心として動員され、自由聯合主義と統一主義とに分かれて決定的な衝突を行つたものであつて、單なる労働組合の問題と云ふよりも、寧ろより多くの政治的意味を含んでゐた。この決戦によつて、二つの傾向の分野が截然として分かれたばかりでなく、これを轉機として、わが國の組合運動における無政府主義サンヂカリズムの影響は、急速に凋落した。そして労働階級の政治運動を否定する無政府主義サンヂカリズムの影響の凋落は、無産者政治運動の道を清めたものであつた。

〔一步退却か一步前進か？〕 大正十年の社會主義同盟の解散を轉機として、わが國の組合運動は、少なくとも表面は、再び社會主義運動から遠退いたかの觀があつた。けれども實際には、この二つの運動——と云ふよりも、この時はすでに、これらの二つの運動は、寧ろ労働階級運動の二つの現はれとなりつゝあつた——の間の相互作用は、一そう密接の度を加へてゐた。

これより先き、組合運動の先進分子がまづサンヂカリズムの影響を受け、初めて××的階級として

の意識に目覚めてくると、なほ生硬にして鍛錬のないこれらの左翼分子の行動は、著るしく觀念的となつた。そして組合の大會は、思想團體の研究會でもあるかのような光景を呈してゐた。そこで早くも大正八年には、組合運動の間に、『労働組合に歸れ！』の聲が聞かれてゐた。

この警戒の叫びには、充分の理由があつた。もし組合運動がかうした傾向を追ふたなら、やがては労働組合は大衆から引き離され、一握の觀念的なX X陶酔者の塊りとして、往年の社會主義者のグループに類するものとなつたらう。さもなくば、最善の場合にも、労働組合は半ば労働者の經濟闘争上の組織であり、半ばは思想團體または政治團體たる性質をもつた、畸形的の運動となつたらう。それ故に、心ある組合指導者がかような傾向に對して警戒を加へたことは、その限りに於いては、もとより正當であつた。けれども問題は、一度びX X的階級としての意識に目覺めた労働者が、労働組合の日常當面の闘争といふ限界のうちに立ち歸ることによつては解決できなかつた。それは一步退却することによつて解決せられる問題ではなくて、さらに一步の前進によつて——即ち労働階級が獨立した政治運動に進出することによつて、この政治運動が政黨に組織せられることによつて、そして政黨と組合との任務と行動とが適當に調整せられることによつて——のみ、初めて解決せられる問題であつた。

組合指導者の側におけるかうした警戒は、社會主義同盟の時期においてさへも、決して緩められなかつた。そこで多くの組合指導者は、社會主義同盟への参加を躊躇した。ことに組合大衆の上に、直接に

組合外の影響の働らくことは、彼らには忍ぶべからざることであつた。そこで組合指導者自らは同盟に参加してゐる場合にも、少なくとも組合員大衆が直接に同盟に参加することを欲しないで、暗にこれを阻止した實例が少なくない。

けれども、すべてかような努力は、大體において無効であつた。組合運動と社會主義運動との不斷の交流は、もはや阻止すべからざるものとなつた。そしてこの事實は、先きに述べた總聯合問題によつて、最もよく現はされてゐる。

のみならず、この時期における見落すことのできない現象は、労働組合の運動が、著るしく政治的な色彩を帯びるに至つたことである。大正十一年のメーデーの標語には、『勞農ロシアの承認』の一項が選ばれ、六月には、思想團體と労働團體との有志者によつて對露非干涉同志會が組織され、労働總同盟の第十一回大會の宣言も、勞農ロシアの承認、シベリア即時無條件撤兵、對露通商開始を要求した。翌十二年には過激社會運動取締法案、労働組合法案、小作爭議調停法案、失業防止問題などについて、各組合の猛烈な運動が行はれた。かうして一方には、普選獲得運動の如き政治運動からは全く労働階級の興味が失はれ、労働總同盟の大正十一年度の大會は『我等は労働者階級と資本家階級とが兩立すべからざることを確信す、我等は労働組合の實力を以て労働者階級の完全なる解放と自由平等の新社會の建設を期す』といふ新綱領を採用すると同時に、その主張のうちから『普通選舉』の

一項目を削除するに至つたが、同時に、他方においては、ほとんど全ての組合において、サンヂカリズムの反政治主義は事實上に清算され、組合は著るしく政治運動に進出した。そして多かれ少なかれ政治的性質を帯びたこれらの種々なる運動は、多くは組合の内外におけるコンミュニスト分子が實際の動力となつて促進せられたものであつた。

かうして労働階級の政治運動への動向は、一部の組合指導者の警戒にもかゝらず、事實において、労働組合の限界を踏み越えて發展したのである。

〔X×主義勢力の結成〕 社会主義運動の方面では、日本社会主義同盟解散後の時期——大正十年——十二年——の著るしい特徴は、多くの小團體が簇生し、これらの小中心に勢力が聚積せられたことであつた。この種の團體には、新人會、文化學會、曉民會、M・L・會、水曜會、建設者同盟などを數へることが出来る。これらの團體はいづれも思想團體ではあつたが、或る程度實際運動に進出した。そして多くは組合労働者が参加してゐた。且つ、ほとんどその全てが、X×主義の方向を逐うてゐた。そしてこれらの小中心の間から、わが國における初期のX×主義勢力が結成された。大正十二年六月に檢舉せられた謂ゆる第一次X×黨を構成したものは、主としてこれらの諸團體が生み出した活動分子と、労働組合——特に労働總同盟——内の先進分子であつた。

六月一日の有名な『曉の手入』によつて、日本X×黨は壊滅したが、X×主義勢力の結成する作用

を如何ともすることができなかつた。X×黨の壊滅した跡にも、依然としてその傳統を守る勢力があつた。そして五年の後には、さらに第二次X×黨の全国的な大檢舉を見たのであつた。

當時のX×黨が、果して黨と名づけるに足るものであつたか、それとも單なる集團と名づけることが適當であつたかは兎も角として、黨とすれば極めて原始的な黨ではあつたが、同時に、原始的にもせよ、X×主義政黨の組織は、すでにこの時に萌芽したのであつた。昭和三年二月、普選による最初の總選挙に當つて、日本X×黨は公然とその存在を宣言した。その結果は、三月および四月の檢舉であつた。大正十一年から昭和三年にいたる期間において、X×主義政黨の組織がどのような徑路を取つて成長したかは、極めて重要な問題であるが、遺憾ながら、これは尙ほ封印せられた事實である。そこでわが國において、X×主義者の萌芽的な組織が生まれた時期から今日に至る期間を通じて、それが單なる集團の狀態にあつたか、または形體と實質とにおいて、すでに政黨の狀態にあつたかは暫らく別問題として、以下、こゝには便宜のために、これを總稱して、コンミュニストの集團とか、コンミュニストの勢力などといふような不明確な言葉で言ひ表はしておく。

〔無産階級政治運動への機運〕 社会主義の思想が或る程度に大衆化したこと、たゞに思想としての社会主義が大衆の間に普及したといふばかりでなく、この大衆化の根據には、歐洲大戦中におけるわが國資本主義の飛躍的な發展と、これに伴ふ階級の對立と闘争とが現實に尖鋭化したといふ嚴肅な



事實が横はつてゐたこと、かくて社會主義は、もはや單なる思想、觀念、または社會的理想ではなくて、現實にこれを追求する政治上の運動に進出しようとしてゐたこと、資本主義に對する労働者の見解と階級意識とは、組合運動と經濟上の日常闘争とのうちに飛躍的に成長して、實踐の方向から社會主義思想を裏づけたこと、かくて社會主義運動と労働組合運動とが、密接な相互作用を持つにいたつたこと、加ふるに、戦後の不景氣と産業の收縮に伴ふ資本の攻勢に當面しては、日常の經濟的利害を擁護するといふ範圍においてさへも、從來の組合運動の力では不十分を感じたこと——すべてかような形勢は、無政府主義、サンヂカリズムの影響の凋落を伴ひつゝ、無産者政治運動への進出を促がした。

のみならず、この前後の時期において、わが國ブルジョア階級の政治上の地位も、いよいよ明白を加へて來た。かつては官僚政治の蔭から支配してゐたブルジョア階級は、漸やく政治的舞臺の前面に進み出で、名實共に政治上の支配階級たる名乗りを上げた。これは大正七年—十年の政友會内閣の成立、大正十三年の謂ゆる貴族院内閣に對する護憲運動の勝利などによつて明らかになつた。政黨内閣の確立は、政治の階級關係を單純にし、政治の階級性を一そう明瞭にしたものであつて、獨立した無産階級の政治運動を促進する有力な條件の一つであつた。

けれどもこの時なほ、無産階級は選舉權を有しなかつたので、政治運動への進出の機運は、多かれ少なかれ政治的性質を帯びた個々の問題について、一時的な運動が組織せられたに過ぎなかつた。

しかるに大正十年—十一年の頃になると、普通選舉の實現も遠くはないといふ形勢となつた。普通選舉運動に對する組合労働者の興味と熱意が冷めたにもかゝらず、ブルジョア反對黨は、一そう廣汎な社會層の支持を獲得し、新たな社會層に地盤を擴大することによつて、ブルジョア支配の内部における現在の勢力の權衡を打破する必要があるから、ますます熱心に普選を主張した。大正八年、第四十二議會が普選案の討論中に解散せらるや、在野黨は國論の喚起につとめ、爾後ほとんど毎年の議會に普選案の提出を見たが、大正十三年の護憲運動の勝利によつて成立したブルジョア三政黨の聯立内閣は、遂に普選を實行した。かうして普通選舉は、ブルジョア階級に對する無産階級の勝利として、はなはて、官僚政治の殘存勢力に對するブルジョア階級の勝利として實現せられたものであつた。

〔農民運動の勃興〕 農民が無産者運動の同盟者として現はれたことも、無産階級政治運動への進出を促進する有力な要素となつた。小作人の組合は早くも明治の初年、労働組合にさきだつて組織せられたものもあるが、何ら階級的な運動には發達しなかつた。けれども大正七八年になると、世界思潮の波紋は農村をも訪づれ、多年の間、半農奴的な搾取の下に眠つてゐたわが國の農民を揺り起こした。この時、たゞ六、七年、および十年の不作は、到るところ小作争議となつて現はれ、大正六年には八十五件に過ぎなかつた小作争議は、七年には二百五十六件となり、八年の三百二十六件、九年の四百八件から、十年には千六百八十件に激増した。そして争議の増加は、小作人組合（農民組

合)の増加と相伴ふた。即ち大正二年—六年の間には僅かに八十八の組合が組織されたに過ぎなかつたが、七年には八十八組合、八年には八十四組合、九年には九十一組合、十年には一躍三百七十三の組合が組織され、農民組合は漸やく全国的な現象となつた。

大正十一年はわが國の農民組合運動の一轉機であつて、この年の四月、杉山元治郎、賀川豊彦らによつて、全國の農民組合を統一する目的をもつて日本農民組合が組織され、小作人の組合は初めて全国的な運動となつた。爾來、昭和二年にいたるまで、年々五百以上の農民組合の組織を見た。

農民組合が全国的な運動として組織せられるまでは、農村における被搾取大衆の運動と都市における被搾取階級の運動との間には、ほとんど何らの有機的な相互作用をも見なかつた。しかるに日本農民組合が組織せられると、農民組合運動は急速に労働組合運動の影響を蒙つた。かくて大正十二年二月の日本農民組合第二回大會では、早くも『工業労働者組合との提携の件』が議題に上げられた。

農民の多數は、なほ農村對都市といふ思想に支配せられてゐた。農民運動者の間にも、社會主義と階級運動の性質を帯びた労働組合運動との接近については、一種の疑惑と恐怖さへもあつた。そこで第二回大會は、勞農提携の積極的具體的決定こそしなかつたが、少なくとも一般的には『無産者解放運動のために、産業労働者及び農民は共同戦線に立つべし、而して兩者は互に提携し、友誼關係を保つべし』といふ決議を行つた。

かように農民組合運動の勃興と共に、労働組合および社會主義思想團體の側からは、熱心に働らきかけが行はれたが、農民組合側は甚だしく懐疑的であつた。けれども農民の心理は、急速に變化した。日本農民組合の成立によつて、農民組合が統一された運動となるや否や、労働組合運動との接觸は不可避となつた。ことに日本農民組合所屬組合には、労働組合運動から移つた多くの指導者があつた。また組合の日常闘争には、社會主義者たる知識分子が熱心に働らいてゐた。これは農民組合運動の思想水準を急速に引き上げた。

のみならず、農民は生産の様式、經濟の形態、生活の全環境から受ける當然の結果として、工業労働者とは異つた心理状態の下に置かれてゐたことは云ふまでもないが、さりとてわが國の小作農は、純然たる小企業者としての自作農とは、經濟上の性質が異つてゐた。小作農はその眼前に、搾取者としての地主階級を持つてゐる。これは農民組合運動が農村における階級運動として、都市の階級運動に結合することを可能とした根本的の條件であつた。日本農民組合が創立の當初から、『耕地の社會化』を主張の第一に掲げてゐたことも、或る點まではわが國における小作農の性質を現はしたものであるとして、注意に値ひする。農民は地主と同盟して、都市と工業に對して農村の利害のために闘ふべきか、さもなくば都市の労働者と提携して、資本家地主の同盟と戦ふべきか？これが地主階級と労働階級との二つの側から農民運動に提起せられた問題であつた。農民組合運動と労働組合運動とのその

後の接近と提携とは、このイデオロギーの戦ひにおいて、いづれが勝つたかを物語つてゐる。

けれども労働者と農民の提携または同盟は、どのような行動領域において實現せられるだらうか？ 貸銀一割増額の要求が、農民の闘争題目となり得ぬように、労働者はその工場において、小作料の三割減額のために闘ふことはできぬ。即ち、純然たる経済上の闘争の範圍内においては、労働者と農民との利害は、相反せぬまでも、同一であるといふ意味で一致してゐるものではない。そこで労働者と農民の提携または同盟の成り立つのは、主として政治上の闘争についてである。かつては、地主階級は近代的な資本家階級と對峙してゐたが、もはや今日はそうではない。地主階級は從屬的な立場において資本家階級と同盟して、反動的なブルジョア政治勢力を構成する要素となつてゐる。それ故に、労働者は、同時にこの反動勢力の有力な支柱たる地主階級と闘ふことなしには、資本家階級と闘ふことが出来ないように、農民は、都市ブルジョア階級を同時に敵とすることなしには、地主階級と闘ふことはできぬ。そしてかうした階級勢力の關係にこそ、労働者と農民との提携または同盟の成立基礎があつた。

そこで労働者と農民との提携は、政治運動への進出に伴うてその必要が認められたものであり、また政治運動への進出によつて、初めてこの提携が、具體的に可能となつたものである。

この時、労働組合運動の間に政治闘争への進出機運の熟しつゝあつたことは、先きにも述べた通りであるが、農民組合運動もまた、久しく経済運動の限界内にとゞまることは出来なかつた。小作争議の主たる対象は、小作料の問題であつた。けれども小作料の軽減の闘争が一と渡り成功したあとでは、純然たる経済闘争の限界内にとゞまつてゐる農民組合は、勢ひ活動を失つて休眠に陥つた。そして農民組合運動の火の手は、他の處女地に移つて往つた。農民組合運動には、現にかうした傾向の現はれた時期があつた。

地主階級が土地返還の要求や、立入禁止のような方法をもつて攻勢的に臨んで來ると、農民はもはや、純然たる経済闘争の性質をもつた争議によつてのみ對抗することは出来なくなつた。また種々な租税や公課の負擔によつて蒙る生活の壓迫は、農民の場合には、労働者の場合よりも一そう痛切であつた。かうして農民運動の前には、幾多の政治問題があつた。日本農民組合が創立の當初から、『小作立法の制定』、『普通選挙』、『治安警察法の撤廢』をその主要な闘争目標に掲げてゐたことも、見落すことはできぬ。ことに地方自治體の選挙權の擴張は、議會の選挙權擴張に先きだつてゐた。さらに大正十一年の府縣制改正による納税資格の低下によつて、自治體選挙への参加は、農民に取つては當面の問題となつて來た。

かように農民の進出によつて、無産階級運動に有力な一新要素を加へたこと、しかるに労働者と農民との提携または同盟の具體的な形は、政治運動のうちにあつたことは、無産階級の政治運動進出の

機運を促進したばかりでなく、後年、労働組合間の対立関係のために無産政黨樹立の運動が困難に陥入るや、農民組合は却つてこの運動のイニシアティブをさへも取ることもなつた。

この時期には、初めて水産運動が勃興し、且つそのうちの先進分子が階級運動と結びついたことにも、注目しなければならぬ。

かくて大正十一年—十二年には、労働者と農民による大衆的政黨組織の問題は、共産主義者の間に於いては熱心に論議され、その着手はたゞ技術上の困難のために阻まれてゐた。この時、大正十二年の六月には突如として第一次共産黨の檢舉が行はれ、ついで九月の關東震火災が襲來した。無産階級の政治運動への進出とその當然の結論であつた無産政黨樹立の運動もまた、もう一と息のところまで、一時その進展を中断された。

#### (4) 無産政黨の創立

〔政治研究會とその活動〕 大正九年—十年の頃から徐々として準備され、大正十一年—十二年にいたつて急角度を描いて進行したわが國無産階級運動の方向轉換の作用は、漸次に運動を、純然たる經濟闘争から政治運動の方向に導びいてゐた。それはやがてわが國の無産大衆をブルジョア政治勢力か

ら獨立した一個の政黨に結合する問題——即ち、無産政黨樹立問題——を當面の問題たらしめつゝ、あつた。しかしながら無産政黨の組織促進の運動が、初めて具體的な形で表面に現はれたのは、大正十二年末における政治研究會の創立であつた。

これより先き、山本内閣は來るべき議會に普選法案を提出するといふ噂が高まつた。これは政黨組織運動に直接の刺戟を與へた。十二月(大正十二年)には青野季吉、鈴木茂三郎、高橋龜吉、島中雄三、福田秀一らの努力により、在京有志者の政治問題研究會が開かれた。この會合には、組合からは労働總同盟、關東機械工、農民組合等の有志者が参集し、社會思想社、種蒔き社、農民運動社、文化協會などの思想團體からも有志者が参加した。たゞ共産主義者は一二の個人を除いては、技術上の考慮から、公けにはこの運動に参加しなかつた。

政治問題研究會は六回の會合を重ねた後、翌十三年四月の會合において、従来の研究調査の事業から更に一步を進め、無産政黨樹立準備のための全國的な團體を組織することを決定し、六月二十八日をもつて、政治研究會の創立を見た。政治研究會の目的は、「無産階級の立場より、政治、外交、財政、經濟、教育、産業、労働、社會の諸問題を調査研究し、之が對策を確立し、大衆の政治的組織を促進し、以て日本社會の合理的改造を期す」るにあつたが、その主たる活動は、大衆教育の運動であつた。

政治研究會はそれ自身、無産黨の準備的團體であつたばかりでなく、その活動は、種々なる方面において、無産黨の樹立を目的としたはこの機運に備へるための準備的な活動を刺戟した。労働組合もまた、政治研究會の活動によつて、著しい刺戟を蒙つた。それにも拘らず、政治研究會に對する労働組合側の態度は、懷疑的でなければ消極的であつた。政治研究會は、その前身たる政治問題研究會の當初から、組合側の協力を得ることに重きをおき、政治研究會の創立にあつても、組合の積極的な支持と参加を得るために努力した。ことに労働總同盟の二三の指導者は、非公式に總同盟を代表するが如き立場において、この運動に協力し來つたが、いよく創立の間際になつて、その態度を一變し、現に創立大會の席上では、總同盟の指導者と大會の當事者との間に、多少の紛争をさへも惹き起したほどであつた。

政治研究會は、無産黨の樹立促進を目的とする團體であつたが、多くの人々は、これをもつて直ちに無産黨の組織であるかの如く、またはそのまゝ、無産黨に變形せしめる計畫のもとに創立せられた團體であるかの如く誤解した。創立大會に提出せられた綱領規約の原案にも、この誤解を助けるような、若干の不用意のあつたことも争はれぬ。これはまた労働總同盟をはじめ、組合側をして疑感をいだかしめた。そこで多くの組合は、少なくとも表面は政治研究會の創立に賛成し、援助の約束を惜まなかつたにもかゝらず、多くは、その組合員が一個人として政治研究會に加入することさへ

も好まなかつた。創立者からは最も多くの望を囑せられ、最も熱心な支持の豫期せられてゐた總同盟さへも、その組合員が個人的に参加することまでも保留した。

當時、有力な労働團體の指導者は、だいたいに於いて、政治運動の必要を、従つてまた組合以外に政黨を樹立する必要を認められたにもかゝらず、これは全く經驗のない未知の世界であつて、いま實際にこの新しい道に足を踏み出そうとしては、大いに遲疑逡巡せざるを得なかつた。彼らはまた、政黨の組織が、決して單獨な一労働組合の事業であり得ぬことをも知つてゐた。けれども尙ほ一方ではこの政黨の上に、自己の組合が果して充分な統制力を保ち得るかどうかが、政黨は彼らとその組合とをその欲せざる方向と地點とに導びき去る危険はないかについて、大なる疑惑をもつてゐた。これは勢ひ有力な組合の指導者をして、おの／＼自己の組合を中心勢力となし、そのイニシアティブの下に最も有利に統制の出來得る政黨を組織することを望ませた。ことに彼らの指導する組合の大家が、彼らの手を経るのでなしに、直接に他の團體（たとへば政治研究會）の指導圏内に進入することは、彼らに取つては、言ふべからざる不安であつた。かうして大正九年の社會主義同盟に對して多くの組合指導者の現はしたこの狹隘な組合心理は、いま無産黨樹立運動の第一歩においても、早くも政治研究會に對する態度において、同じ姿を現はした。そしてこれはまた、やがて無産黨樹立運動の次の時期には、組合勢力の繩張りに沿うた地方政黨の試みなどの形において、多くの混亂の種子ともなつ

た。

かように當時の組合指導者の多くは、無産階級の政治運動を、小さな組合主義の窓から眺めてゐた。彼らは、無産政黨は組合の——特に自分の組合の——統制し得るものでなければならぬといふ要求と政黨が政黨たる働らきをするためには、組合の力だけでは——特に自分の組合の力だけでは——駄目だといふ明白な事實との間に狭まれて、一種のデイレンマに陥いつてゐたのであつた。

當時の組合指導者のかような心理のために、組合は一般に、政治研究会に對して、一種の懷疑的な態度を取つた。従つて政治研究会の運動は、組合員の間には幾らも伸びなかつた。それにも拘らず、労働組合は、政治研究会の創立とその後の運動によつて、著るしい刺戟を蒙らざるを得なかつた。

政治研究会の運動は東京を中心として、主として東北地方に活潑に行はれ、いたるところに支部の創立を見た。大正十四年の最盛時には、全國に亘つて五十三支部をかぞへ、會員の数は六千名に上ばつてゐた。

〔組合運動界の新機運〕 當年の労働總同盟は、わが國の組合運動界の主要勢力として、量的にも質的にも、組合運動のうちに、今日よりも遙かに大きな相對的の重要さを占めてゐた。そして政黨樹立の問題は、組合運動の方面では、労働總同盟の内部において、最も早く注意を喚起した。大正十一年に社會主義運動の陣容から起こつた方向轉換の作用は、大正十三年の労働總同盟の運動方針に反映し

この年の大會宣言は「ブルジョア議會によつて労働階級の根本的解放を期待するところ毫もなきは勿論なれども、普通選舉實施後に於て、選舉權を有効に行使することによつて、政治上の部分的利益を獲得すると共に、無産階級の政治的自覚を促す」といふ一般的な方向を決定した。

この方針にもとづいて、總同盟はさきに設置した議會對策委員會を政治部に改め、さらに政治部の改造によつてその活動の倍加を計り、九月の中央委員會は政治部の調査にもとづいて政黨組織の時期構成方法、組合による統制問題、政黨組織の單位等に關する意見を定め、他の組合との間に非公式に意見の交換を行ふことを決議した。

けれども十三年の總同盟大會は、政治研究会に對しては「十分好意をもつて接する」と同時に、總同盟としてはもちろん、所屬の「各組合としても加入を差控へる」ことを決議した。そして友誼團體として、當時、労働總同盟と最も緊密の關係に立つてゐた官業労働總同盟、海員組合、日本農民組合に對し、「非公式」にこの決議を通告することにより、暗に政治研究会に對して同一の態度を取ることゝを慫慂した。かうして政治研究会の運動は、「十分の敬意をもつて」労働組合側から敬遠され、労働總同盟を中心とする組合勢力によつて、一種の防壁が築かれた。かくて政治研究会の運動は、専ら組合以外の方面に伸び、他方には、これとは全く別個の運動として、暗々裡にはこれと對峙した運動として、組合側のみによる政黨組織の計畫が進められる形勢となつた。

この時期には、ほとんどすべての組合の大会において、普選問題、政黨問題が討議せられてゐる。官業労働總同盟の大会(十三年二月)も「普選選挙対策の件」を議題とし、その關西同盟會の第二回大會(十月)は「無産政黨に關する件」を議題として、「政治行動を是認し、政黨組織を可決、同盟會に政治委員會を設ける準備行動に入る」ことを決定した。日本交通労働總同盟の中堅勢力たる東京市電從業員の大會(十月)でも「政治運動に對する態度」が議題となり、議會主義ではないが議會を利用するといふ方針が決定された。

反總同盟系と呼ばれた組合聯合會所屬の組合のうちでも、特にサンチカリズムの影響の有力だった機械労働組合聯合會の臨時大會(三月)は、「吾々の幸福の爲にあらゆる手段を選ぶことを躊躇しない、吾々の運動上の道程は、常に最も廣汎でなくてはならない」と宣言し、從來の政治行動否認の態度から、政治行動是認の態度へ移らんとした。印刷工聯合の大會(四月)のみは、依然として議會行動の否認を決議したが、日本労働組合聯合會西聯合會の大會(八月)も、「無産政黨に關する件」を委員附託とし、造機工労働組合大會(九月)は、組合員は個人的に無産政黨に加盟することを決議した。

〔日本農民組合の進出〕 労働組合の方面で、政黨樹立がいよいよ日程に上りつゝあつた時、農民組合の内部では、それは一そう適切焦眉の問題となりつゝあつた。日本農民組合第三回大會(十三年二月)では、「来るべき總選挙に關する組合の態度」が議題に上り、議論紛糾の後、それらの地方の任意と

なつたが、この大會では、政治運動否認論がなほ相當に有力であつた。しかるに農民運動にとつては工場労働者以上に、政治運動に進出することが痛切な必要であつたばかりでなく、選挙戦においては都會の労働者の場合よりも、効果を擧げる望みが多かつた。ことに多くの地方では、組合の力によつて既に村會に代表者を選出し、現に村會の多數を占めてゐるところさへもあつた。そこで香川縣聯合會、岡山縣聯合會の如きは、第三回大會の地方一任の決議にもとづき、既成政黨との妥協を絶対に排斥して、組合員の中から獨立の議員候補者を立て、組合員の全投票をこれに集中する方針を決定した。

しかるに一方では、地主の立場から「農民黨」を組織する計畫が所在に現はれた。岡山縣の立憲農民黨、群馬縣の日本農民黨、奈良縣の青年農民黨などがその實例であつて、これらの或るものは、全國的な農民黨を樹立する瀬踏みとして、もしくは既成政黨の別働隊として計畫せられたものであるが、いづれにせよ、都市の利害に對立することによつて農村全體の利害を強調し、農民を政治的に地主階級に結びつけようとするものであつた。かような形勢は、労働組合方面における機運と相俟つて、日本農民組合の内部における政黨樹立運動の機運を、急速に展開した。

かくて日本農民組合の七月(十三年)の中央委員會は、「無産階級政黨樹立準備」を議題とし、十一月の新潟縣聯合會大會もまた「無産階級政黨組織に關する件」を上程し、同月の中央委員會は、無産

政黨の組織について一そう具體的な問題に觸れ、さらに十二月の中央委員會においては、政黨の組織單位を(一)労働組合、農民組合、水産社とするか、(二)個人とするか、(三)農民のみの農民黨を樹立するか、(四)混合とするか、(五)小商人、自作農、役人、小地主を排除するか否か、問題となつた。こゝに興味のあることは、この時期にあつては、日本農民組合の間にも『農民のみの農民黨』といふ思想が存在したことである。これより先き、同年七月に開かれた新潟縣南蒲原郡聯合會の總會では、現に普選の即行と『農民黨』の樹立を期すといふ決議が採用せられてゐた。農民のみの農民黨といふ思想は、當時はまだかなり有力であつて、無産政黨樹立運動の或る瞬間には、日本農民組合は、あらゆる無産者的要素による單一無産政黨と、農民のみの農民黨とのいづれを選ぶかの岐路に立つかの如くに見えた。また労働組合間の對立のために、無産政黨準備會が決裂に瀕した瞬間の如きも、日本農民組合は、再びこの岐路に立たしめられてゐるかの如くであつた。けれども日本農民組合はよくこの偏向に打ち勝つて、敢然として單一政黨の組織に進出し、労働者と農民の政治的結合の基礎を築つたものであつた。

〔組合運動の戦線統一と全國労働組合協議會〕 大正十四年に入つては、労働組合および農民組合の内部における政黨樹立の機運は、ますます動いて來た。大正十三年を通じて見られた労働組合運動界における著るしい事實は、一方には、政黨問題がいよゝますゝ當面の中心問題になつて來ると同

時に、これと並んで、組合運動の全國的な戦線統一が熱心に要求せられたことであつた。これは組合の對立状態が、政黨樹立の上にななる障害となつてゐたからでもあつた。多くの組合大會は無産政黨の樹立と共に、全國總聯合の促進を決議した。ことにこの時期における總聯合問題について注目をひくことは、従來唱へられて來た労働組合の全國總聯合の主張から、農民組合をも包容した労働組合全國總聯合の主張にまで、漸次に變化したことであつた。

労働組合と農民組合とは、主として經濟闘争の機關としての行動領域において一つの全國的機關に集中せらるべきものであるか、それともかゝる労働者農民の同盟の實現こそ、無産政黨が政治行動の領域において實現すべき任務であつて、労働組合と農民組合とは、經濟闘争の組織としてはおのゝ別個の全國的機關に集中され、さらにこの二つの機關の間に協力提携のための聯合機關が設けらるべきものであるかといふ重要な問題については、労働總聯合の主張者自身によつても、充分に考究せられてゐなかつた。これらの二様の組織形態のいづれを取るべきかは、成立する全國的機關の性質如何によつても定まるものである。即ち、組織の原則としては、労働組合運動と農民組合とはそれゝの全國的中心を持つべきことは無論であるが、たとへば極めて緩やかな全國的聯合機關として、主として一般的な問題の討議や共通の意志表示を専らとする機關の場合には、労働組合と農民組合とが、直接に同一の全國的機關に結合せられてゐても、必ずしも大なる不便はない。これに反して、設けらるべ



き機關が、組合の全國的な行動の中心、その全國的な指揮機關としての一そう緊密な組織である場合には、労働組合と農民組合とは、當然に別々の全國的な總聯合を持たなければならぬ。そこで當時の全國労働總聯合の觀念は、かような組織上の問題に對する解答として重要なものではなくて、労働者と農民との同盟に對する一般的な要求と素朴な熱意とを反映してゐる點で、重要であつた。即ち第一には、無産者運動のうちに占める農民組合運動の相對的の重要性が急速に増大したこと、この重要性が一般的に認められるにいたつたこと、従つて第二には、労働者と農民との同盟を必要とする意識が、労働者の側からも農民の側からも、急速に高まりゆく事實を反映してゐるといふ意味で、この計畫は重要な性質をもつものであつた。

十四年二月三日、全國労働組合協議會が大阪に開かれた。協議會は、組合運動の全國的機關の設置と、無産政黨の樹立促進との、二つの中心問題をつけたものであつた。この會合は無産政黨の樹立、國際労働會議代表、労働法制等の問題について協議する目的で、日本労働總同盟、官業労働總同盟、日本農民組合の共同提唱によつて招集せられ、日本海員組合、日本製陶労働同盟、海員協會、司厨同盟などの代表者がこれに参加した。この會合によつて(一)組合の聯絡(二)共通の意志表示(三)全國的共同の促進を目的とする全國労働組合協議會を創立する計畫が決定され、二月十八日をもつて創立委員會の日と定め、全國の労働組合に案内状を發したが、十八日の創立委員會はうやむやのうちに立消えとなり、運動は自然消滅に歸した。

うちに立消えとなり、運動は自然消滅に歸した。全國労働組合協議會が假りに成立してゐたならば、これに参加したと想像せられるものは労働總同盟系またはそれに近い系統の組合であつて、こゝに労働總同盟を中心勢力とするところの、組合の全國的機關の成立を見ることとなる。けれどもこの運動は、直接には組合の全國機關の設立となつて現はれるが、その實際上の重點は、むしろ無産政黨の樹立にあつたので、この運動の失敗は、労働總同盟側の企圖するような、總同盟中心の政黨樹立運動が蹉跌したことを意味してゐた。

この時なほ、労働總同盟は日本農民組合の上に相當の影響力をもち、兩者の關係は、その後の時期においてよりも、遙かに緊密であつた。それと同時に、日本農民組合をこの全國協議會の提唱者の一人たらしめたことは、この重要な地位が意識せられたことを意味するものであつて、その後の無産政黨樹立運動のうちに日本農民組合の演すべき役割を前觸したものであつた。日本農民組合は、量的に最も大きな勢力であつて、労働者と農民との政治的の組織たる無産政黨の構成に欠くべからざる要素であつたばかりでなく、労働組合間の對立抗争の外に立つ緩衝地帯としても、有力な地位を占めてゐた。この時期にいたるまでは、日本農民組合のかような地位は、労働總同盟によつて有利に用ひられる形勢にあつた。しかるに、間もなく總同盟の上につた大分裂は、組合運動界における勢力のバランスを一變し、かゝる形勢の基礎を打破したばかりでなく、同時に、それは日本農民組合の内部

における左翼的精神の勃興と農民大衆の意識の急速な進歩と相俟つて、日本農民組合を急速に労働同盟の影響から獨立させ、無産政黨樹立運動の上に、一そう積極的な役割を演ずる要素たらしめた。

〔労働同盟の分裂と労働組合評議會の成立〕 これより先き、日本労働同盟の内部には、共産主義者の影響の下に、左翼的勢力が成長しつゝあつた。大正十一年の總聯合問題に當つては、總同盟の指導者は、共産主義者の側に立つた。けれども總聯合問題に活躍した少數の先進分子を除いては、労働同盟の多數指導者が、必ずしも共産主義者の原則を支持したわけではない。彼らが共産主義者を支持したのは、むしろその力によつて無政府主義サンヂカリズムの傾向に對抗し、彼らの組合から、當時はなほ優勢であつたこれらの勢力を一掃して、改良主義の古巢に歸らんがためであつた。そこで無政府主義サンヂカリズムの勢力が凋落すると、彼らはその次の瞬間には、共産主義の影響から免かれなければならなかつた。大正十三年の總同盟大會の謂ゆる『劃時代的』な宣言は、十一年この方共産主義者の陣營から叫ばれてゐた方向轉換の主張と、ほとんど同一の言葉によつて表現せられてゐたが、總同盟の多數指導者にとつては、それはことさらに彼らが『現實主義』と名づけた改良主義に復歸する合圖であつた。そこでこの前後から、多數派幹部と、共産主義的影響の下に成長しつゝあつた左翼的勢力とは、尖鋭に對立した。翌十四年の大會においては、多數派幹部は、左翼分子の一掃的な除名を決意したために、分裂はもはや避けがたき形勢となつた。この大會において、多年の間わが國

の組合運動の中心勢力を成してゐた日本労働同盟は、ほゞ伯仲した二つの勢力に分裂し、股退派は直ちに日本労働組合評議會を組織した。

これより先き、多數派幹部と左翼指導者との間には、組合政策についても政治上の見解についても、漸次に、積極的な見解の相異を生じてゐた。けれどもこの分裂は、必ずしも政治的意見の對立に沿うて行はれたものではなかつた。とは云へ、反幹部派の多數は、少なくとも無産政黨樹立運動に對する幹部の態度には満足しなかつた。彼らは多數派幹部が、階級的立場からではなくて、常に總同盟本位の見地から無産政黨樹立の問題を取り扱ひ、これがために、政黨樹立の運動に常に躊躇逡巡して積極的な進出をなし得なかつたこと、組合外の要素に對しては、狹隘な偏見をもち、現に政治研究會の政黨準備運動に對しても、暗に對立的な態度を取り來つたことなどに對して、大なる不満を抱いてゐた。そこで労働組合評議會創立大會は、特にその運動方針の項目において『組合運動は組合外の無産階級要素と提携協力して、積極的にその(無産政黨の)實現に努力する』といふ立場を明らかにした。

労働同盟の分裂と労働組合評議會の創立とが、無産政黨樹立の運動に及ぼした直接の影響は、一方においては、無産政黨準備運動の行程内における労働同盟の勢力を著るしく減じたこと、従つて無産政黨組織の行程が、總同盟の利害によつて牽制せられる度合が著るしく減じたこと、従つてまた

總同盟中心の政黨樹立の可能性が著るしく減じたことであつた。また他方においては、より廣汎な見地から無産政黨の組織を促進する力の側に、獨立の一勢力が（労働組合評議會として）新たに加へられたことであつた。

さらにまた、組合運動の壓倒的な中心勢力の崩れたことは、無産政黨樹立の運動における日本農民組合の地位を、一そう重要にした。そしてかゝる形勢の變化は、農民大衆の意識の進歩と相俟つて、日本農民組合をして急速に總同盟の影響から脱せしめ、獨立の立場に立つて無産政黨樹立運動に進出することを促がすものであつた。

さらに日本農民組合をして、無産政黨樹立運動に進出せしめた有力な理由の一つは、地方自治體における小作農の勢力が急速に増大し、日本農民組合だけでも既に一千名以上の町村會議員を出だしてをり、これらの地方的政治運動を統制しなければならぬ現實な必要に迫られてゐたことであつた。

〔地方政黨と地方協議會〕これより先き、十三年の秋ごろから、労働總同盟九州聯合會の指導者を中心として、北九州における地方的無産政黨の計畫が進められてゐた。翌年三月の總同盟大會には、無産政黨の組織はまづ地方的に着手すべしといふ、九州聯合會の提案が現はれた。分裂前の總同盟内における左翼分子は、地方政黨説に反対したが、右の提案は、多数をもつて大會を通過した。しかるに分裂後の總同盟は、全國的政黨を樹立することの困難と、政黨樹立の運動における總同盟の立場が

不利となつたことに鑑がみ、まづ自己組合の勢力範圍において地方的政黨を組織する方針を、積極的に取るようになつた。かくて三月には、足尾鯨民黨が組織され、四月には、八幡市を中心とする九州民憲黨が組織され、七月には千葉民政黨、尼ヶ崎民政黨が相前後して結黨式を擧げた。労働總同盟が全國的政黨の樹立に先き廻りして、その組合の地盤を地方政黨の形で固めようとしたことは、一方には全國的政黨の樹立にサポーターデュシ、他方においては、全國的政黨の組織が進行した場合には、この組織運動における總同盟の地位を有利に展開する手段と認められたので、一般に左翼的分子の非難を蒙つたばかりでなく、なかんづく共產主義者は、單一な全國的政黨樹立の主張をもつてこれに對峙した。これが今日もなほ慣用せられてゐるところの「單一政黨」といふ言葉を生み出した事情であつた。

労働總同盟から分離した日本労働組合評議會（略して評議會）は、左翼分子の指導の下に、急速に左翼的な方向に發達してゐたが、ことにその見解は、當時の中心問題たる政黨樹立の運動について、最も鋭利に總同盟と對立した。そして總同盟の地方政黨主義に對して、評議會は全國的單一政黨のスローガンの下に、活潑に闘争した。

それと同時に、各地方には、單一政黨の組織を促進するために、無産團體地方協議會または無産政黨組織地方協議會等の名をもつて、地方的の活動が勃興し、後にはこれらの地方協議會の活動を、さらに全國的に統一することが試みられた。これらの地方協議會は、たいてい皆な政治研究會の地方支

部、日本労働組合評議会の地方評議会または所屬組合を主要な要素とし、日本農民組合の所屬組合、水平社支部の参加したところも少なくない。この運動は、必ずしも直接に共産主義者によつて組織せられたものではなかつたが、明らかに同一方向に動いた運動であつて、その大部分は、共産主義勢力の影響下に生まれた運動であつたと云ふことができる。またこの運動によつて、無産政黨樹立の運動は、中央における従来の折衝運動から、大衆自らの手に取り上げられたと云ふことができる。かくて大正十四年九月に設立された京都地方無産團體協議會を手始めに、十二月の第一次無産政黨成立の當時には、二十一の地方協議會が組織され、ことに無産政黨の謂ゆる左翼排除が問題となるにいたり、これらの地方協議會は最も有力に活動した。

〔無産政黨組織準備委員會の成立〕 日本農民組合は前年(十三年)七月十八日の中央委員會の決定により、本部に無産政黨組織準備委員會を設け、綱領、規約等の具體的な調査を進めてゐたが、十四年二月の全國労働組合協議會の失敗、その後における労働總同盟の分裂等によつて展開せられた形勢にかんがみ、單獨に、無産政黨樹立のための準備機關の設置を提唱する決意をし、六月二十一日をもつて、全國二十一團體に向つてその提議を行つた。

この提議にもとづき、労働組合および農民組合十三團體の代表者によつて、八月十日、大阪に第一回準備協議會が開かれた。参加團體は次の通りであつた。

- 日本労働總同盟。日本労働組合評議會。官業労働總同盟。日本労働組合聯合會。機械労働組合聯合會。日本製陶労働同盟。東京市電自治會。大阪市電自治會。東京出版労働組合。船舶司厨同志會。中部農民組合。
- 日本農民組合。

協議會はまづ、當日、來賓の形で出席してゐた政治研究會、水平社、無産青年同盟の代表者の正式参加を認め、次にこの協議會を、そのまゝ、無産政黨組織準備委員會と名づけて存続し、さらに第二次の會議までには、會員百名以上を有するあらゆる無産者團體に對して加入を勧誘することを決定し、綱領規約を調査するために小委員會を設け、かくて「無産階級の全國的、一大無産政黨の樹立に向つて突進する」といふ聲明書を發表した。

この協議會の決定にもとづき、九月十七、十八日をもつて、第一回の綱領規約調査委員會が開かれた。この委員會には日本農民組合、日本労働總同盟、官業労働總同盟、日本製陶労働同盟、東京市電自治會、日本労働組合評議會、政治研究會、水平社無産者同盟の八團體から綱領規約の草案が提出され、これを基礎として討議が行はれた。これらの綱領草案は、いづれも當面の運動の目標を掲げたいはゆる行動綱領であつて、多くの共通の條項を含んでゐた。委員會はこれらの草案のうちから、政治、經濟、労働、財政、教育、國際の諸項目に互つて四十八條項を採擇し、その他は意見の一致を見なかつた、ため、次回に留保した。

この委員会に提出せられた諸團體の綱領草案は、第一次無産政黨（農民労働黨）、第二次無産政黨（労働農民黨）を経てその後の時期にいたるまで、無産諸黨の綱領の基本となつてゐるものだといふ點において、同時にまた、この綱領草案は委員会における激烈な論争を喚び起こし、その後の時期における無産政黨対立の端緒ともいふべき意見の相異が初めて正式にかつ具體的に現はれたものだといふ點において、極めて重要な資料である。

かように参加諸團體の綱領草案には、むしろ豫期せられた以上の共通點があつたにもかゝらず、委員会においては、ほとんど各項目について、激烈な論争を惹き起こした。單に修辭上の差異、表現の相異として取扱へば容易に妥協點の見出される相異も、これを各自が抱いてゐる謂ゆる『指導原理』の相異にもとづくところの根本的差異として取扱へば、譲歩することのできない差異となる。現に日本労働組合評議會の提出した『綱領作成に就いての方針』にも、『現在出來んとしてゐる無産政黨は、必ずしも厳密な原則上の一致に基づき結合せられるものでなく、各々主義主張を有つ團體の現實緊急な政治的要求に基づく共同戦線による結合であるのだから、その綱領は、原則綱領を作ることには出來ない』と明瞭に云ひ、綱領委員会もまた、無産政黨の綱領をいはゆる原則綱領には觸れないで當面の行動の綱領に限定するといふ點において意見が一致してゐたにもかゝらず、實際には、草案に現はれた表現の相異は、おの／＼の團體の代表者によつて、おの／＼その『主義主張』に溯及して論ぜら

れ、従つてその範圍においては『指導原理』ないしは『原則綱領』の相異そのものが、暗々裡に論争の題目とせられた觀があつた。

この激烈な論争において、意見の分野は、一方、労働總同盟、官業總同盟、日本農民組合と他方、労働組合評議會、政治研究會、水平社無産者同盟とに分れた。綱領委員会の討論では、左翼的な主張を押し通した後者がほとんど完全に勝利を占めた。しかしこの勝利は、準備會に代表せられてゐる左右兩翼の實勢力に照應してゐるものではなかつた。準備委員會における少數派たる左翼分子が、たゞ論争において、その代表してゐる實勢力以上の勝利を博したものであつた。従つてこの勝利は、極めて不確實なものだつた。そこで後に見るように、まもなく右翼側が陣營をとつて押返へして來ると、この委員会における勝利は、忽ちにして覆へされた。

この論争のために、綱領委員會の空氣は險惡となり、會議はすでに決裂に瀕してゐた。委員会が辛うじて決裂を免かれたのは、労働總同盟、官業總同盟の側に、まだ決裂後に處すべき成案が無かつたこと、中間諸團體の向背が明らかでなかつたこと、なかんづく日本農民組合は、綱領委員会における意見においては、この時はなほ右翼側であつたにもかゝらず、準備委員會の提唱者として、無産政黨の成立を熱心に希望したために、極めて慎重な態度を取つたことであつた。けれども決裂の危機は、第一回綱領委員會と共に終つたものではない。それは反對に、綱領委員

會後においてますます増大し、準備委員會の決裂はもはや既定の事實と認められ、第二回綱領委員會の開會さへも危ぶまれる形勢となつた。

〔左右兩翼の對立〕 綱領委員會における對立によつて知られるように、當時、左翼的傾向を代表したものは、日本労働組合評議會、政治研究會、無産者青年同盟、水産社無産者同盟であつた。これより先き、労働總同盟の分裂によつて生まれた日本労働組合評議會は、一方には總同盟、他方には政治研究會との對立抗争によつて益々その結束を強よめ、共産主義勢力の影響の下に急速に左翼的な組合として成長した。總同盟との分裂當時にあつては、労働組合運動界に多年の間鬱積せられてきた謂ゆる反總同盟感情は、勢ひ評議會に對する好感となつて現はれたので、總同盟はむしろ孤立の立場に立たしめられた。しかるに評議會は急速に左翼化すると共に、總同盟以外の謂ゆる中間派組合に對しても尖鋭に對立するにいたつたので、多くの中間派組合は總同盟に接近し、總同盟を中心とする右翼的傾向の結合を促がした。そして評議會をして、しばしば孤立の危険に陥入らしめた。

十四年七月には、同じく共産主義勢力の影響の下に、全國的な無産青年同盟を組織するための準備委員會が開かれ、十月にはその全國協議會が開かれた。無産青年同盟は、無産青年大衆の獲得を標語とし、大正十一・二年度の無産青年運動にくらべると遙かに全國的な性質をもち、遙かに広い基礎の上に生まれたものではあつたが、なほ全體としては、大衆的な運動となることができないで、寧ろ無産

青年の間の少數先進分子が、一般青年大衆から自らを分離する作用となつた。かゝる段階にある左翼的な運動は、勢ひその周圍に、より有力な右翼的勢力の防壁を築つてゆくことゝなつた。

水産社青年同盟は、全國無産青年同盟の運動における主要な要素であつたが、十四年九月にいたつてこれを解散し、全國無産青年同盟のうちに解消し、それと同時に、水産社運動の内部には、共産主義勢力の影響の下に、水産社無産者同盟が新たに組織せられた。水産社無産者同盟は、純然たる無産階級の立場に立つ運動として、水産運動一般との間に、鋭利な對立を作つたものであつた。

最後に、政治研究會の内部にあつても、この間に左右兩翼の對立が成長しつゝあつた。政治研究會は、無産政黨樹立の促進といふ漠然たる共通目的の下に、種々なる要素を糾合した集團であつて、決して一定の政治的意見をもつて結合したものではなかつた。従つて地方地方における會員の意識の程度が一樣でなかつたように、中央における指導分子のうちにも、急進的自由主義を去ることの遠からざる思想から、共産主義にいたるあらゆる段階の思想を含んでゐた。政治研究會が極めて一般的な政治上の啓蒙運動を専らにしてゐた間は、かような意見の相異は、勢ひ後景にかくされてゐた。のみならず政治研究會は、大正十四年四月の第二回大會後にいたるまでは、大體において、右翼的な傾向によつて支配せられてゐた。

しかるに無産政黨樹立の問題が具體化するにつれ、ことに政治研究會自ら、無産政黨の綱領草案を

作らうとするにいたつたので、この對立は、綱領問題をめぐつて急激に表面に現はれた。

のみならず、總同盟はじめ他の労働組合は、政治研究会に對して、依然として従来の敬遠的な態度をつけてゐたが、日本労働組合評議會はこの頃から、積極的にその組合員を政治研究会に入會せしめたので、政治研究会の東京地方評議會には、日本労働組合評議會所屬組合員が壓倒的な勢力を占めたばかりでなく、多くの地方においても、組合評議會と政治研究会との間には、直接な關係が成長した。かくて八月の政治研究会綱領調査委員會議では、共產主義分子は俄然として活動を始め、右翼分子の手になる綱領草案を一蹴して、日本労働組合評議會案とほとんど同文の綱領草案を一氣に採用せしめ、ついで右翼分子の脱退となり、政治研究会は忽ちにして、謂ゆる『左翼團體』の一つとなつて現はれた。

政治研究会の内部における、かような對立の急速な成長によつても、右翼ブロックに一つの力が加へられた。當時、總同盟と組合評議會との對立と、無産政黨組織の過程とを中心として成長しつゝあつた左翼勢力は、多かれ少なかれ共產主義的影響の下にあるものであつた。けれども共產主義勢力には、なほ確乎たる方針と充分な統制の力が缺けてゐた。左翼分子はいたるところの戦線において、潑刺たる活動をもつて、奮然に突き進んでゐたが、これらの左翼的な活動を一貫した統一と、従つてまた首尾一貫して追求せられる戦術の一致を持つてゐなかつた。これは勢ひ左翼分子の活動をして、左

翼の全陣營の確實な前進ではなくて、多かれ少なかれ互ひに孤立した、しかも焦躁的な突撃に終らしめた。左翼分子はこの突撃によつて、いたるところにその實力以上の勝利を収めてゐた。さきに述べた第一回綱領委員會議における勝利の如きも、その一つであつた。けれども、かうした勝利は、それを維持することが困難であつた。のみならず、左翼分子の突撃は、勢ひいたるところにおいて、必要以上の對立を激成し、中間的要素を中立せしめる代りに、必要以上の要素を右翼側に押しつけることによつて、より有力な右翼的勢力の結合を促がした。かうして無産政黨の樹立がいよいよ目前の問題となつた當時は、左翼勢力は、一そう大きな右翼的勢力の防壁で取り圍まれてゐる觀があつた。

〔決裂の危機〕 無産政黨組織準備委員會議は、かゝる形勢の下に成立し、やがてその第一回の綱領規約委員會議が開かれた時には、この形勢はなほ一そう進展してゐた。

このとき労働總同盟は、すでに地方政黨組織の方針に進んでゐた。もとより總同盟には、全國政黨樹立の考へが全然なかつたわけではない。けれどもそれは總同盟に取つて、有利な條件の下に實現せられるものでなければならなかつた。日本農民組合の提唱にもとづく無産政黨組織運動の圏外に超然としてゐること、ことに總同盟を除外して有力な全國政黨の成立することは、もとより總同盟の忍ぶべからざることだつた。總同盟はこの運動のうちに、有力な發言權を保留しなければならぬ。さらに總同盟を除外して有力な全國政黨の成立することを避けるためには、總同盟は、日本農民組合と對立す

ることはできなかつた。けれども、この準備委員会をして必ず成功せしめるといふことには、總同盟は何らの熱心をも持つてゐなかつた。

そこでこの瞬間における左右兩翼の勝敗は、左翼分子が全國的政黨の樹立に向つて、右翼分子を引張つてゆくことに成功するか、右翼分子がその脱退によつて、準備委員会を破壊することにより、自己に有利な形勢の展開に成功するかといふことであつた。そしてこれはやがて準備委員会において、中間的な勢力から左翼が孤立するか、總同盟が孤立するかによつて定まる問題であつた。

第一回 綱領委員会における突撃によつて奇勝を得た左翼は、委員会後の決裂の危機によつて、退却をよぎなくされた。労働組合評議會はこの危機を緩和するためあらゆる努力を拂ふと共に、その機關紙の上に、さらに政黨樹立に對する態度を明らかにした。この聲明は、『今吾々が生まんとする政黨は、決して理論的一致——即ち、共產主義とか社會主義とかの主義の一致によつて結合しようとするものではなく、労働者農民の現實的要求に基づく行動の一致を見出だして結合しようとするものではない』ことを力説し、綱領委員会における代表者の取つた態度については、『これは吾々に取つて頗る遺憾なことであるが、兎に角吾國無産階級陣營の現狀として、ともすれば協調平和が破れんとする複雑な對立關係にあり、各々の言動の一端が意外に險惡な危機を醸す事實を認め、その事自身の是非は別として、この事實の前に我々は飽くまで互讓の態度を以て臨み、是非とも纏め上げることを唯一

の信條として今後に處する考へである』と結んでゐる。

一度び決裂に瀕した形勢は、十月半ばにいたつて漸やく緩和され、綱領規約委員会は、十月十八日に第二回の會合を開くことができた。労働組合評議會はこれに先だつて、中央常任委員会を開き

『九月十七日、十八日兩日に開催された綱領規約調査委員およびその後の形勢を見て、各團體とも、より一層互讓の態度を以て臨む必要あり、殊に吾が評議會が或る程度の讓歩をする必要を認める。所謂危機に對して、吾が評議會が責任の全部を負ふべきとは考へ得られないが、吾國労働組合の現狀から見、全國單一政黨建設のためには、如何なる犠牲をも拂ふべきと思惟するが故である』

と決議し、第二回 綱領規約委員会への代表者をも更迭した。

〔最初の無産政黨、農民労働黨の創立〕 労働組合評議會第八回中央委員会が『全國單一政黨建設のためには、如何なる犠牲をも拂はねばならぬ』と云つた通りに、第一回 綱領委員会における『勝利』の代價として、第二回 綱領委員会においては、左翼側は少なからざる犠牲を拂つた。第一回 綱領委員会において左翼側の奮闘によつて保留となつてゐた項目の大部分は、この委員会においてすらすらと復活され、政黨の組織形態を定めるものとして、或る意味では綱領以上に重要視せられてゐた規約においても、左翼はことごとく讓歩をよぎなくされた。

しかるに總同盟側では、これだけの讓歩に満足しなかつた。第一回 綱領規約委員会において、實



際の勢力のバランス以下に推し下げられた天秤の一方は、それが正常の位置を恢復する作用が始まるや、この勢ひに乗じて、今度は逆さまに、正常の位置以上に跳ね上がらうとした。第二回綱領規約委員会の後、総同盟は「政治行動に關して一般組合員に告ぐ」と題する聲明書を發表し、暗に、評議会の讓歩に満足せぬことを聲明した。

これはまもなく、樹立せらるべき無産政黨から政治研究会と水産社無産者同盟とを除外すべしといふ総同盟側の要求となつて現はれた。その理由は、政治研究会と水産社無産者同盟とは、評議會を復生した同一内容物であつて、これらの兩團體の参加によつて、評議會の勢力は、無産政黨のうちに二重三重に代表せられること、ことに政治研究会にいたつては、すでに一個の政黨であつて、無産政黨内の政黨の存在は許されぬといふにあつた。

政治研究会除外の要求は、政治研究会と労働組合評議會によつて反對せられたことは無論であるが、さきに述べた各地方における無産政黨準備協議會、無産團體協議會は、一齊に起つてこれに反對した。政治研究会除外の聲により、形勢は再び險惡を呈したが、この形勢のまゝで、準備委員會は十一月三十日に第二回の全員會を開き、翌十二月一日をもつて、いよく無産政黨創立大會の日と定める手筈となつた。この全員會に先きだち、二十九日には第三回綱領規約委員會が開かれた。この會合の勢頭において、労働總同盟の代表者は、前夜の中央委員會の決定により、準備委員會から脱退するこ

とを聲明し、これによつて官業労働總同盟の代表者は、總同盟の脱退を理由として、綱領規約委員會の打ち切りを提議した。委員會は各代表者が、所屬團體と協議する必要があるから一と先づ休憩し、深更にいたつて再開された。この會議において、労働組合評議會、政治研究会、水産社無産者同盟は準備委員會の事業の續行を主張し、日本農民組合を除いての、官業労働總同盟外八團體は、準備委員會の解散を主張し、明三十日の全員會議によつて正式に解散を決議し、同時に、謂ゆる「中間派」八團體の共同聲明書を發表する手筈を整へてゐた。かくて第三回綱領規約委員會は、明日の準備委員會の全員會議へその代表者を参加せしむべしといふ、無産團體地方協議會の要求を拒絶するといふ決定以外ほとんど何らの決定をもなし得ないで散會した。

この一夜の大醗酵のうちに、萬難を排して單一無産政黨の組織を執行すべしといふ主張は刻一刻に有力となつた。三十日朝の日本農民組合中央委員會では、むしろ農民組合のみによつて農民黨を組織すべしといふ主張さへも現はれたが、あくまで單一無産政黨の樹立に邁進することが決議された。かくて日本農民組合側の斡旋により、労働組合評議會は、總同盟の脱退に對する責任を負うて、自發的に新政黨から遠慮し、政治研究会は黨の成立後、自發的に解散すること、同時に總同盟に對しては加盟の勧告をせぬといふ妥協案を得て形勢は急轉直下し、わが國における最初の無産政黨は、翌一日をもつて結黨式を擧げることとなつた。

當時、第二回準備委員会の形勢を憂慮し、かつこれに續つて行はれる結黨大會に参加するため、各地方における協議会の代表者は、ごくぞく東京に集まつてゐた。これらの代議員により、おのづと全国的な會合が催はされ、その一致の意見として、これらの協議会の代表者を第二回準備委員會に参加せしめる要求が高まつた。この要求は、二十九日夜の綱領規約委員會によつて拒絶せられたが、これらの地方協議會代表者の聲は、直接に大衆を代表する力として、準備委員會の上にも有力な壓力を加へるものであつた。

大正十四年十二月一日午後五時二十分、東京本郷、明治會館において、日本農民組合の杉山元治郎司會の下に、わが國における最初の無産政黨、農民労働黨の結黨式が舉げられた。二時間半の後、午後八時、時の加藤内閣は治安警察法第八條第二項にもとづいて、農民労働黨の解散を命じた。

〔第二次無産政黨、労働農民黨の成立〕翌二日、日本農民組合は中央委員會を開き、『友誼團體の諒解を得た上、再び起つて全国的單一無産政黨の組織運動を開始する決意』を聲明した。けれども、卒然として襲ふた解散命令は、極く僅かの間ではあつたが、無産政黨組織運動を麻痺せしめた。ことに各地における無産政黨樹立のための協議會は一時活動を休止したばかりでなく、或る地方においては、總同盟脱退の餘波を受けて分裂したものとさへもあつた。しかし多くの地方協議會は、まもなく陣容を立て直し、全国的單一無産政黨の標語の下に漸次に活動を再開し、それと同時に中央にあつても、再

び政黨を組織する運動は、徐々として暗黙のうちに動いて来た。十二月十五日には、日本農民組合關東同盟は大會を開き、單一無産政黨の樹立を決議し、二十日には大阪聯合會もまた同じ決議をした。向背の明らかでなかつた謂ゆる中間派八團體もまた、徐々に動いてきた。十二月二十八日、日本農民組合および官業労働總同盟の代表者は、無産政黨樹立のための懇談會の開催を提唱し、一月十三日をもつて第一回の懇談會が開かれた。

この懇談會には、右の兩組合のほか、日本司厨同盟、日本労働組合聯合、日本製陶労働同盟が参加し、労働總同盟の代表者もまた非公式に列席した。労働總同盟が左翼側の讓歩に満足しないで謂ゆる左翼二團體の除外を主張し、さらに勢ひに乗じて準備委員會そのもの、破壊を企てたことは、總同盟をして、一時孤立に陥入らしめた。そしてこれは今、第二次無産政黨への總同盟の復歸をよぎなくしたものであつた。

懇談會では、労働組合評議會を何故に参加せしめぬか、問題となり、形勢はすこぶる險惡となつたが、評議會はこの形勢にかんがみ、自發的に参加の勧誘を辭退したので、辛うじて總同盟の脱退を喰ひ止め、『我等は無産政黨樹立のため、隔意なき諒解の下に、共同一致努力せんことを期す』といふ申し合せをすることができた。けれども總同盟の態度には、何ら緩和を見なかつた。一月二十三日には總同盟關東同盟會は、『無産政黨組織の現状に鑑み、總同盟本部の政治部は、反共産黨の立場を固く守

り、明快の態度を以て、積極的に、健全なる労働階級の政黨組織の爲め努力せられんことを要求す」といふ強硬な決議を行った。

第一回懇談會參加の組合に、さらに東京市電自治會の代表者を加へ、二月十三日、第二回の懇談會が東京に開かれた。この會合により、新政黨樹立の方針について、六項目の決議が行はれた。これが謂ゆる『玉姫クラブの申合』であつて、その第一項は、次の通りであつた。

『一、新政黨は、全然、共產系を排して、現実的な政黨組織を以て進むこと、無産政黨の創立を困難に導く組合は、積極的に拒絶し、消極的には遠慮して貰ふこと』

『玉姫クラブの申合』を得て、總同盟は五名の代表者を出だして初めて正式に懇談會に参加し、それと同時に、『日本労働總同盟は、従来もしかし如く、今後も友誼團體と協力して、健全なる無産政黨を成立せしむべく努力す、但し總同盟は、共產系排除の態度をもつて創立委員會に臨む』といふ決議を發表し、さらに三月三日の第三回懇談會(創立準備會)の前々日、重ねて次の如き聲明書を發表して、さきの決議の『共產系排除』の意味を具體化した。

『……(一)無産政黨の性質は、反共產黨たることを要すること。(二)評議會、政治研究會、青年同盟、水平社無産者同盟に屬するものを一切政黨の構成分子より除外すること、如何なる團體たると個人たるとを問はず、共產系と目せられるものを政黨の構成分子より除外すること……』

政府がさきに農民労働黨に解散を命じた口實の一つは、黨が團體の加盟を認めたことであつた。従つて新政黨にあつては、團體加盟を認めず純然たる個人加盟の方法を取ることは、すでに玉姫クラブの申合せによつても明らかであつた。そこでたゞ團體が問題となるのは、結黨にいたるまでの準備機關についてあつた。従つて玉姫クラブの申合が、『新政黨は共產系を排す』と云つた意味は充分明瞭でないが、三月一日の總同盟の聲明書は、共產主義の影響下にあると見做された評議會ほか三團體に屬するすべての個人を、黨から一切排除するといふ、頗る明確な要求であつた。

創立準備委員會は豫定の如く、三月三日に開かれたが、總同盟の右の聲明書は委員會の暗礁となり前後三時間の秘密懇談會の結果、總同盟側の態度の緩和によつて解決した。創立委員會は、綱領規約の審議のために小委員會を組織し、小委員會はさきの農民労働黨のそれに基づき、若干の項目を削除し、表現をも緩和した。また農民労働黨は謂ゆる行動綱領のみを掲げたため、これらの行動綱領の奥になほ原則的な綱領が秘密に隠されてゐるといふ、解決の口實に利用せられた事實にかんがみ、これらの行動綱領を『政策』と名づけ、その前文として、次の三ヶ條の『綱領』を補足した。

- 一 我等は、我國の國情に即し、無産階級の政治的、經濟的、社會的解放の實現を期す。
- 二 我等は合法的手段に依り、不公正なる土地、生産、分配に關する制度の改革を期す。
- 三 我等は、特權階級のみを代表する既成政黨を打破し、議會の徹底的改造を期す。

新政黨は労働農民黨と名づけ、三月五日、大阪土佐堀青年會館において結黨式を擧げ、こゝに第一二次無産政黨の成立を見た。

### (5) 政黨分立の時代

〔労働農民黨内の二つの方向〕 かくて名目上の單一無産政黨が成立したものの、それはなほ形骸に過ぎないものであつたばかりでなく、對立的な要素たる謂ゆる「共產系」分子が排除せられてゐたにも拘らず、そのうちには絶えず分裂の危機を孕んでゐた。

結黨直後の第一回中央執行委員會は、次回執行委員會の開會まで、黨加入の勧誘を日本農民組合、日本労働總同盟、東京市電自治會、司厨同盟、日本労働組合聯合會、製陶労働同盟、日本海員組合、官業労働總同盟の所屬者に限ることとした。これは最も危険な問題に手を觸れることを、一ヶ月の間延期するに過ぎなかつた。

これに反して労働總同盟側では、その欲するところに向つて、お構ひなしに前進した。謂ゆる「共產系」の排除を既成の事實にまで固めることによつて、次回の中央執行委員會における立場を有利にしようとした。即ち、總同盟關東同盟理事會は、三月二十日の會議において、「關東同盟加盟の組合支

部員は、その承認を得て労働農民黨(労働農民黨)に入黨し、支部、班、協議會を組織することを得、但し日本労働組合評議會、舊政治研究會、水産青年同盟、無産者新聞、産業労働調査所、無産者青年同盟、以上六團體並びにはゆる共產黨に好意を有すると認め得らるゝ者と共に(支部、班、協議會を)作ることを得ず」と決議した。この決議は、政治運動と政黨とに對する總同盟指導者の見解を最もよく表明したものであつた。無産政黨問題の當初から、總同盟の最大の關心事は、黨と組合との關係の問題であつて、それは要するに、組合(特に總同盟)が如何にして政黨をコントロールし得るかといふことであつた。そして自己の組合員を、手放して組合以外の團體または運動の影響と直接に接觸せしめることは、彼らが最も不安を感じたところであつた。この狹隘な組合心理は、右の決議において、最も露骨に現はれてゐる。即ち總同盟は、組合員が一個人の資格をもつて無産政黨(その成立は、總同盟が正式に關與したものであるにもかゝらず)に加入する場合にも許可主義を取り、政黨の班、支部、協議會等の構成までも、黨の決定にはよらないで自己組合によつて決定しようとし、無産政黨のうちの自分の配け前だけは、その他の部分と區別して、完全に自分の統制の下に留保しようといふのであつた。

かように労働總同盟の決定は、(一)無産階級運動内の左翼分子(謂ゆる「共產系」)を永久に政黨の構成要素から除外しようとする點において、また(二)總同盟所屬組合員のみをもつて黨の支部または